

教育事業部 事業報告

(1) 単位互換事業

【事業計画の概要および実績】

<概要>

単位互換制度はこれまで 28 年にわたり加盟校が形成してきた京都ワンキャンパスの中核的な取組である。学生は加盟校が提供する約 300～400 科目程度の中から、自身の関心・意欲にあわせて受講でき、大学の枠を超えた多様性のある「学び合い」ができる制度である。国内でもこの規模で運営される単位互換は京都以外になく、京都ならではの高い教育力ある環境の維持・発展は財団の使命である。近年、教育の質保証が求められる中、加盟校ではカリキュラムの充実が図られる一方、他大学の科目履修が時間的、制度的に難しい状況となり受講者数は減少している。このため、国において単位互換を促進する形で大学設置基準の解釈を見直しされたことを背景に、以下のように改革を進めている。

1. 大学設置基準の見直しに伴う事業の改善

- (1) 見直された運用方針に伴う協定校における今後の単位互換制度実施に向けた周知・助言
- (2) 協定校における学内規程及び関連ポリシー等の整備・点検の要請

2. 京都ならではの特色ある科目の展開と加盟校・学生の参加の促進

- (1) 「京都世界遺産 PBL 科目」「京都ミュージアム PBL 科目」における協定校及び受入れ先との連携促進と安定運営
- (2) 協定校との連携促進による特色ある科目の拡充と広報強化

3. グローバル科目の開設及び求められる e-ラーニングの仕組みづくり

- (1) 大学の国際化に即したグローバル科目開設に向けた検討
- (2) 新たな IT 技術やデジタルコンテンツを活用した e-ラーニングの仕組みづくりの検討

4. リカレント教育の推進 「大学のまち京都」の人材育成力の向上

- (1) 加盟校等におけるリカレント教育の促進、新たなプログラムの開発に資する事業
- (2) 京カレッジ、京都学講座、大学リレー講座、教職等資格取得科目の充実

<実績>

1. 2022 年度単位互換科目への出願状況

(1) 単位互換への提供科目数について

2022 年度単位互換提供科目数は 348 科目で、2021 年度当初の提供科目と比較して 3 科目増(+0.9%)となり、過年度から続く減少傾向から横ばいとなった。加盟校による提供科目の精査が過年度で一定進められたことや、コロナ禍での授業実施が安定してきていることが提供科目数の維持に影響しているものと考えられる。また、後期の提供科目では 21 大学・短期大学部から計 102 科目の募集がされ、2021 年度と比較して募集大学数は変わらず、科目数は 12 科目の減となった。

所定の条件を満たした補助金対象科目数で見ると、「プラザ・オンライン科目」と「プラザ推奨科目」をあわせ計 62 科目（総提供科目の 17.8%）が提供され、2021 年度の計 81 科目と比較して 19 科目の減（▲23.5%）であった。内訳では『オンラインのみ』が 32 科目（総提供科目の 9.2%）で 2021 年度の 46 科目から▲14 科目となっている。

◇2022 年度単位互換提供 348 科目における授業形式内訳

補助金対象「プラザ・オンライン科目」	科目数	補助金対象外	科目数
対面授業(プラザ)	22 科目	対面授業(ワンキャンパス)	254 科目
対面授業(プラザ)・オンライン併用	8 科目	対面授業(ワンキャンパス)・オンライン併用	30 科目
オンラインのみ	32 科目	その他	2 科目
2022 年度総提供 348 科目 うち補助金対象科目計 62 科目(総提供科目の 17.8%)			

※参考 2021 年度総提供 345 科目 うち補助金対象科目計 81 科目(総提供科目の 23.4%)

提供科目については、今後、総提供科目数を過年度水準に戻すことを目指すとともに、受講場所に左右されず ICT を活用した教育効果の高いオンライン科目が提供されるよう、補助金制度の広報を積極的に行った。また、学生がグローバルな視点を持つ機会として、英語を教授言語として実施する科目が積極的に提供されることを企図して、補助金を支給する仕組みを構築した。

(2) 単位互換科目への出願者数および履修許可者数について

前期出願期間(3/18～4/8)の延べ出願者数は 743 名、後期出願期間(9/2～9/16)の延べ出願者数は 215 名の計 958 名、2021 年度比 3 名減(▲0.3%)となった。

延べ出願者数(958 名)における開講場所別の出願割合は、オンキャンパス(科目開設大学による開講)科目の延べ出願者数が 559 名(58.3%)、キャンパスプラザ京都で開講される科目の延べ出願者数が 223 名(23.3%)、オンラインで開講される科目の延べ出願者数が 176 名(18.4%)であり、受講場所を選ばないオンライン科目やキャンパスプラザ京都で開講される科目を受講する割合が合計で 4 割を超えている。

延べ履修許可者数は 778 名で 2021 年度比 92 名の減であった。延べ出願者数に対する履修許可率(延べ履修許可者数/延べ出願者数)では、2021 年度は 90.5%に対して 2022 年度は 81.2%と 9 ポイント減少した。

2022 年度単位互換提供科目数・出願者数・履修許可者数 ()内は 2021 年度数

協定大学数	提供大学数		提供科目数	延べ出願者数	延べ出願者数 前年度比	延べ履修許可 者数	延べ履修許可 者数前年度比
大学 33 短期大学 9 合計 42※1	大学 29、短期大学 6、合計 35 (大学 27、短期大学 6、合計 33)	前期	348 (345)	743 (704)	+39 (-140)	610 (627)	-17 (+185)
		後期	102 (114) ※2	215 (257)	-42 (-10)	168 (243)	-75 (-2)
		合計	348	958	-3	778	-92

※1 短期大学部を併設しているところはそれぞれを別カウントした。

※2 後期科目数については前期で科目数を確定し後期は其中で再募集を行っている。

(3) 2023 年度単位互換制度に向けた取り組みについて

①7 月 15 日(金)に第 1 回単位互換・京カレッジに関する事務担当者会議をオンラインにて開催し、各大学の事務担当者に 2023 年度単位互換事業に関する各種補助金の申請手続き等について説明を行った。併せて、2022 年度単位互換事業に関する実施状況報告を行った。

②単位互換制度の広報強化策として、これまで紙媒体で配布していたリーフレットをインターネットから容易にアクセスできるデジタルパンフレットに切り替えた(3 月公開)。デジタル媒体の利点を活かして、単位互換制度に関する多様な情報をリンクすることで内容に厚みをもたせることが可能となり、認知度のさらなる向上・魅力発信を目指す。

(4) 2023 年度科目提供および出願期間について

各大学からの提供科目数は 341 科目(2022 年度は 348 科目)であった。そのうち、オンラインのみで実施される科目は 23 科目(2022 年度は 32 科目)となった。出願期間は 3/17～4/7 を最長として、各大学がその期間内で設定する。

2. 2022 年度京都世界遺産 PBL 科目・京都ミュージアム PBL 科目の履修登録・科目実施状況

(1) 履修登録状況

「京都世界遺産 PBL 科目」は 2015 年度に 6 大学・6 世界遺産による 7 科目からスタートし、8 年目となる。2022 年度は 5 大学 5 世界遺産 6 科目(前年度:4 大学 4 世界遺産 5 科目)の提供が決定した。

受講登録者は、全体で 108 名(前年度:93 名)、その内、単位互換生は 22 名(前年度:27 名)の

受講があり、前年度より全体の受講登録者は増加したが単位互換生は減少した。

「京都ミュージアム PBL 科目」は、2020 年度に新たな PBL 科目として開講し、今年度で 3 年目となる。2022 年度は、4 大学・4 受入先 4 科目（前年度：4 大学・4 受入先 4 科目）の提供が決定した。

受講登録者は全体 65 名（前年度：78 名）、その内、単位互換生は 11 名（前年度：24 名）の受講となり、前年度と比べて受講者数が減少した。

（2）2022 年度世界遺産 PBL 科目・京都ミュージアム PBL 科目の特別講座、成果発表等について

①インタビュートレーニング、プレゼンテーショントレーニングについて

インタビュートレーニングは 5 月 22 日（日）にオンラインにて実施した。元 NHK アナウンサーの森吉弘氏（帝京大学共通教育センター特任准教授）を講師として実施した結果、当日は自大学生（開講大学の学生）45 名、単位互換生 11 名の計 56 名が参加した。

また、プレゼンテーショントレーニングは、10 月 16 日（日）にインタビュートレーニングと同様に森氏を講師として、オンラインにより実施した結果、自大学生が 12 名、単位互換生 4 名の計 16 名が参加した。

受講者アンケートでは、インタビュートレーニングで「大いに満足」が 65.9%「満足」が 34.1%、プレゼンテーショントレーニングで「大いに満足」が 92.3%「満足」が 7.7%と高い満足度が確認できた。他方で 2021 年度の参加者数を比較すると、インタビュートレーニングで▲7 名（21 年度 63 名）、プレゼンテーショントレーニングで▲17 名（21 年度 33 名）減少しており、学生の成長に資する実施内容や受講しやすい時期などについて検討していきたい。

②成果報告会について

12 月開催予定の京都世界遺産 PBL 科目・京都ミュージアム PBL 科目の成果報告会は、12 月 11 日（日）に対面にて開催した。

当日は、京都世界遺産 PBL 科目計 95 名（学生：79 名、担当教員：10 名、世界遺産所有者：4 名、関係者 2 名）、京都ミュージアム PBL 科目計 46 名（学生：38 名、担当教員：4 名、ミュージアム関係者：4 名）の参加があった。

◇2022 年度世界遺産 PBL 科目（6 科目）履修登録者数

受入先 世界遺産	開設大学	科目名	担当教員	受講数（ 内単互生	2021 年度
①上賀茂神社	京都産業大学	京都の世界遺産 PBL ～上賀茂神社の魅力を学生の視点で発信する～	吉野 秋二	13（4）	24（9）
②清水寺	立命館大学	特殊講義Ⅰ「清水寺の△△の〇〇（良い点）を磨け！、もしくは□□（困っている点）を救え！」	宗本 晋作	9（2）	7（4）
③仁和寺	京都光華女子大学	産官学連携プロジェクト：仁和寺で学ぶ京都の観光と文化財～京都世界遺産 PBL～	朝比 奈英夫	10（2）	14（6）
④二条城	同志社大学	世界遺産 PBL 講座～最新のマーケティング手法を活用して文化遺産の問題を発見し解決する	多田 実	30（12）	25（5）
⑤清水寺	立命館大学	特殊講義（教養 E）Ⅰ「京都の文化遺産とその保護～清水地域の防災への取り組み」	大窪 健之	24（2）	23（3）
⑥醍醐寺	京都橘大学	遺産情報演習Ⅰ＜a＞	小林 裕子	22（0）	開講なし
				108（22）	93（27）

◇2022 年度世界遺産 PBL 科目（6 科目）の大学別履修登録状況（単位互換生の所属大学）

受入先	①上賀茂神社	②清水寺	③仁和寺	④二条城	⑤清水寺	⑥醍醐寺	合計
開設大学	京都産業大学	立命館大学	京都光華女子大学	同志社大学	立命館大学	京都橘大学	
京都外国語大学	1	0	0	1	0	0	2
京都先端科学大学	1	0	0	0	0	0	1

京都教育大学	0	0	0	0	1	0	1
京都産業大学	0	0	0	1	0	0	1
京都女子大学	0	0	0	3	0	0	3
京都芸術大学	0	0	0	2	0	0	2
同志社大学	0	2	0	0	0	0	2
立命館大学	0	0	2	4	0	0	6
龍谷大学	2	0	0	1	1	0	4
科目開設大学	9	7	8	18	22	22	86
合計	13	9	10	30	24	22	108

◇2022 年度京都ミュージアム PBL 科目（4 科目）履修登録者数

受入先	開設大学	科目名	担当教員	受講数 () 内単 互生、	2021 年度
京セラ美術館	大谷大学	フィールドワーク特殊演習（PBL）	宮崎 健司	20 (4)	22 (5)
京都国際マンガ ミュージアム	京都精華大学	コラボレーション概論 A（京都ミュージアム企画 デザイン演習）	葉山 勉	17 (3)	22 (8)
京都市動物園	同志社大学	ミュージアム PBL 科目：感動を伝えるサイエン スコミュニケーション：動物園をフィールドに	服部 篤子	19 (1)	26 (6)
京都鉄道博物館	立命館大学	特殊講義（総合）(BA)/京都鉄道博物館に地元京 都からの来館者を増やすにはどうしたらよいか、 調査して提案しよう。	近藤 宏一	9 (3)	8 (5)
計				65 (11)	78 (24)

◇2022 年度京都ミュージアム PBL 科目（4 科目）大学別履修登録状況（単位互換生の所属大学）

受入先	京セラ美術館	京都国際マンガ ミュージアム	京都市動物園	京都鉄道博物館	合計
開設大学	大谷大学	京都精華大学	同志社大学	立命館大学	
京都外国語大学	0	0	0	1	1
京都教育大学	0	1	0	0	1
京都産業大学	2	0	0	0	2
京都女子大学	0	0	0	1	1
京都芸術大学	1	0	0	0	1
成安造形大学	0	0	1	0	1
同志社女子大学	0	0	0	1	1
立命館大学	0	2	0	0	2
龍谷大学	1	0	0	0	1
科目開設大学	16	14	18	6	54
合計	20	17	19	9	65

（3）2023 年度の実施に向けて

京都世界遺産 PBL 科目は 6 大学 6 世界遺産 7 科目、京都ミュージアム PBL 科目は 3 大学 3 ミュージアム 3 科目で実施する予定である。

3. 2023 年度「プラザ推奨科目」の採択について

7 月 15 日（金）に第 1 回単位互換・京カレッジに関する事務担当者会議をオンラインにて開催し、申請手続き等にかかる説明を行った。9 月末まで申請受付を行った結果、新規開講で 1 件（京都世界遺産 PBL 科目）、継続開講で 11 件の計 12 件のプラザ推奨科目申請があった。11 月 2 日（水）開催の第 2 回教育事業企画検討委員会において確認された結果、「プラザ推奨科目」として申請された全 12 科目が採択された。

4. グローバル科目の開設および求められる e ラーニングの仕組みづくり

(1) グローバル科目の開設について

加盟大学で開講されている科目のうち、日本語以外の教授言語で実施する科目が多数提供される施策について検討を開始し、加盟大学のすべての学生が外国語による科目を受講することができる環境を構築することを目指す。

これについては、7月5日開催の第1回教育事業企画検討委員会において「英語で学ぶ科目」に関するガイドラインを策定し、2023年度から英語を教授言語とする科目（語学教育を主な講義内容とする科目を除く）で同ガイドラインの要件を満たす科目に対して科目運営補助金を支給する仕組みを構築した。本件については単位互換・京カレッジに関する事務担当者会議等を通じて周知しており、その結果、3大学から5科目の「英語で学ぶ科目」の提供があった。

(2) eラーニングの仕組みづくりについて

単位互換事業においてはオンライン授業がもつ「受講機会拡大」「教育の質向上」の可能性を重視し、同授業の単位互換提供を促進するため、新たな補助金の枠組み「プラザ・オンライン科目」を制定した（従来の「プラザ科目」からの発展。2020年11月10日教育事業企画検討委員会にて承認）。これにより、従来キャンパスプラザ京都で実施する科目のみを支給対象としていた補助金について、キャンパスプラザ京都実施とオンライン実施を併用する科目、およびオンライン実施のみの科目にも対象を拡大した。

2022年度単位互換提供科目は348科目であり、そのうち「プラザ・オンライン科目」は計62科目であった（全体の17.8%）。また、「プラザ・オンライン科目」の内、「オンラインのみ」は32科目であった（全体の9.2%）。

2023年度に向けては、「プラザ・オンライン科目」に該当する科目の提供促進策として、科目運営補助金を3万円から5万円に増額するとともに加盟大学が専任教員の有無に関わらず科目を提供することができるように申請要件の見直しを行った（第1回教育事業企画検討委員会承認<7月5日開催>）。

5. 教職等資格取得に必要な科目の履修を支援する単位互換科目充実

(1) 日曜講座開設による京都全体の教職課程の充実

これまで京都教育大学のオンキャンパス科目として開講されてきた教職科目は、2021年度からその一部を日曜日に集中講義形式で行うプラザ科目（「教職日曜講座」）として開講することとし、2022年度については2科目（2単位）の教職科目がプラザ科目として提供された。

【実施スケジュール（主要事項）】

3月18日～4月8日	出願期間
4月15日	履修可否通知メール配信（AM5:00～）
5月22日	PBL科目インタビュートレーニング講座
7月5日	第1回教育事業企画検討委員会
7月15日	第1回単位互換・京カレッジ事務局担当者会議
7月下旬～9月下旬	前期・夏期集中科目対象アンケート
7月30日～8月5日	前期試験・レポート提出期間（基本）
8月6日～9月20日	夏期集中科目開講
9月2日～9月16日	後期出願期間（この期間内で各大学で期間設定）
9月21日	後期科目開講開始
9月17日～9月22日	科目提供大学履修可否入力期間
9月23日	単位互換後期履修可否通知メール配信（AM5:00～）
9月下旬	2022年度プラザ推奨科目の2023年度「新規・更新」「継続」申請締切
10月16日	PBL科目プレゼンテーショントレーニング
11月2日	第2回教育事業企画検討委員会
11月18日	第2回単位互換・京カレッジ事務局担当者会議
12月11日	PBL科目全体成果発表会
11月18日～1月16日	2023年度単位互換・京カレッジシラバス入力期間
12月23日～1月4日	冬期講義停止期間

1月下旬～2月下旬	後期・通年科目対象アンケート
1月24日～1月29日	後期試験・レポート提出期間
2月6日	科目提供大学から学生所属大学への成績通知締切
2月中旬	シラバス校正・修正期限、キャンパスプラザ教室確保
2月下旬	単位互換・京カレッジポータルサイト年度切替日
3月上旬	各種チラシおよびウェブサイト学生公開、大学案内
3月17日～4月7日	2023年度単位互換科目出願期間（この期間内で各大学で期間設定）

（２）生涯学習事業（京カレッジ）

【事業計画の概要および実績】

<概要>

京カレッジにおいて、「大学講義」、「市民教養講座」、同講座における「京都力養成コース」、「教養力養成コース」、2022年度から新たに開始した「リカレント教育プログラム」の5分野で約180科目を開講し、出願者は延べ1,200名規模となり、特にシニア層の利用が中心となっている。また、加盟校の生涯学習プログラムを紹介する大学リレー講座によって、市民を加盟校プログラムの受講に繋ぐなどを含めて、市民の学ぶ意欲に応える加盟校の教育環境の充実を促進している。

5ステージでは、職業人や社会人の継続的な学び＝「リカレント教育」の環境充実が大学に求められている。近い将来において、加盟校がその特徴を活かした形で、社会人の生涯を通じての「学びの継続」に応える大学に変わること为目标に、以下のように新たな取組みを展開する。

1. 加盟校等におけるリカレント教育の実践促進

- (1) 加盟校が実施するリカレント教育の先行事例調査を行う
- (2) 加盟校プログラムの市民紹介企画を計画する

2. 社会人、シニア層を対象とした新たな大学プログラムの開発に資する事業の実施

- (1) 社会人対象リカレント教育の実験的プログラムを検討する

3. 京カレッジ、京都学講座、大学リレー講座の充実

- (1) 大学連携による京都学講座、大学リレー講座の実施促進

<実績>

1. 2022年度生涯学習事業京カレッジ出願状況について

- (1) 提供科目数、出願者数、受講許可者数等について

①5分野で大学講義・公開講座を179科目（前年度198科目）提供する。

1) 大学講義(A～I)

単位修得も可能な科目(科目等履修生・聴講生)

2) 市民教養講座(J)

健康・芸術・文化など幅広く学べる講座

3) 市民教養講座 京都力養成コース(K)

京都をより深く学べるコース

4) 市民教養講座 教養力養成コース(L)

フィールドワークを通じて文化力・地域力(地域人材の育成)の向上を目的としたコース

5) リカレント教育プログラム(R)

働く世代に向けて企画した、スキルを高め視野を広げるための講座

②2022年度は179科目が提供され、2021年度198科目より19科目の減少となった。前期出願者実数は801名(2021年度前期703名)、延べ1,249名(2021年度前期1,157名)となり、いずれも前年度比1割程度の増加となった。後期出願は、前期募集にて定員に満たなかったものを中心に55科目(2021年度85科目)の提供を受け7/16に募集情報を公開し、8/9～8/23の期間で出願受付を行った。その結果、新規出願者数は22名(前年度比+11名)、延べ出願者数は29名(前年度比+16名)となった。出願者の世代別では、今年度からリカレント教育プログラムの講座を新設したことにより、これまで少なかった20代から40代の出願者が増加した。今後もシニア層から働く世代に受講者層拡大を目指していく。

③2021 年度から紙出願票に加え WEB から出願できるように「京カレッジ WEB 出願システム」を構築した。募集ガイドや案内チラシを中心に積極的に利用促進を図った結果、延べ1,249 名の出願中、WEB 出願を 744 名（59.5%）が利用し、前年度 600 名（51.9%）から増加した。今後 WEB を活用した京カレッジ事業のさらなる受講促進に向けて期待が持てる結果となった。

◇2022 年度京カレッジの出願状況について ※()内は 2021 年度数

科目提供大学 数	提供科 目数	出願科 目数※	出願者数						受講許 可者 延べ数
			実数			延べ数			
			前期	後期	合計	前期	後期	合計	
23(26)大学・短 期大学 2(1)機関	179 (198)	83 (88)	801 (703)	22 (11)	823 (714)	1,249 (1,157)	29 (13)	1,278 (1,170)	781 (672)

(2) 2023 年度京カレッジの科目提供および出願について

2023 年度は 165 科目が提供され、2022 度 179 科目より 14 科目の減少となった。一方、2023 年度募集ガイド請求件数は 2/24 時点で 368 件（昨年度 361 件）であり、2022 年度と同数程度の請求があった。出願期間は 3/3～3/16 に、WEB 出願システムおよび紙出願票にて受付を行う。

2. 2022 年度京都学講座「復活の京都」の実施状況について

(1) 京カレッジ・京都学講座開講記念講座の実施について

2022 年 3 月 5 日(土)に国際日本文化研究センター 所長・井上章一氏、京都華頂大学現代家政学研究所教授・川島智生氏を招聘のうえ実施した。申込 507 件の中から抽選により 130 名の受講者を決定し講座を実施した。

(2) 基本講座および実地講座に関わる状況について

1) 2022 年度は感染症対策として定員を従来の 500 名から 260 名に減じて募集した結果、出願者数は 536 名であった(2021 年度は 496 名)。時勢に合った講座テーマを設定することができたため 2019 年度水準(523 名)の出願者数を超える出願者数を確保することができた。

2) 当選者・落選者に案内を送付し、受講料納付を経て 247 名の受講が決定した。

◇2022 年度京都学講座実施状況について

回	開講日	テーマ	講師 *敬称略	参加者 上午前 下午後	参考:2020 同 時期 上午前 下午後
特別	3/5	京都のリバイバル	井上 章一 川島 智生	99	104
1	4/23	賀茂競馬 930 年 ー伝統と継承ー	堀川 潤	106 102	95 84
2	5/28	災害からの「復活」と神仏への祈り ー御霊信仰・天神信仰の成立・展開と災害ー	竹居 明男	106 92	98 91
3	6/11	祇園祭 鷹山の復活 ー196 年の眠りからの覚醒ー	山田 純司	103 85	103 86
4	7/2	明治維新期の西本願寺	近藤 俊太郎	102 89	99 83
5	7/23	明治の工業都市京都 ー首都から工業都市へー	川島 智生	95 80	88 72
6	7/30	子育てのまち京都の夏 地藏盆	神谷 潔	94	98

		－その現状と将来－		81	81
7	8/20	奥深い芸の世界へ －恵美華さんに聞く【6/4 から変更】	恵美華	86 77	98 89
8	9/10	戦国期京都の都市構造 －応仁・文明の大乱からの復活－	山田 邦和	102 86	85 60
9	9/24	京町家今昔 －その変遷と現在に伝える知恵－【9/3 から変更】	荒木 正亘	88 79	81 60
10	10/8	復活の小劇場 －THEATRE E9 KYOTO 新しい公共としての民間劇場	あごうさとし	86 81	85 81
実地 ①	7/9	日本庭園と京都の近代－南禅寺界限別荘庭園群と琵琶湖疏水 地域の歴史がはぐくんできた「京都岡崎」の文化的景観	加藤 友規	25	－
実地 ②	12/24	美術館に見る京都の復活の歴史と今 －京都市京セラ美術館－	吉中 充代	27	10 13

※「出席者数」には学生特別枠（基本講座のみ）での参加も含めている。

3. 2022 年度大学リレー講座の実施状況について

(1) 実施状況

- 1) 京都学、宗教、歴史・文学、健康、自然科学への関心が高く、それを意識した講義テーマで 2022 年度は 10 大学 10 講座で実施。
- 2) 平均受講者数は 2016 年度約 60 名、2017 年度は約 140 名、2018 年度・2019 年度は約 210 名と推移しており、市民への認知度は高まっている。2020 年度から感染症対策として定員 130 名とした結果、平均受講者数は 2020 年度約 103 名、2021 年度約 92 名となっている。
- 3) 2022 年度は多くの来場者が見込まれることから、京都府、京都市の感染症拡大予防に係る取組に沿って、定員を再設定した。

◇2022 年度大学リレー講座実施状況について（無料・申込不要 定員 130）

回	講座日	開講大学	テーマ	担当教員	参加者
1	5/7	佛教大学	いのちと健康 －仏典と宗教文化を背景に－	中島 小乃美	141
2	5/21	花園大学	承久の乱と京都－京都からみた鎌倉時代の変容－	生駒 孝臣	144
3	6/25	京都女子大学	生活習慣病(非感染性疾患)予防・改善のための栄養・食生活	中山 玲子	151
4	10/1	大谷大学	奈良時代の聖徳太子信仰	宮崎 健司	157
5	10/22	平安女学院大学	明治初めの京都のまちづくり	高橋 義人	127
6	10/29	京都精華大学	中世京都の飢餓問題	吉永 隆記	130
7	11/5	同志社女子大学	『都名所図会』からみる近世京都の景観	天野 太郎	151
8	11/12	京都文教大学	旅する少女歌劇団－日本少女歌劇座の 35 年－	鶴飼 正樹	66
9	11/26	種智院大学	平安京の慈善救済と仏教－悲田院を中心に－	佐伯 俊源	114
10	12/10	龍谷大学	僧侶はなぜ夢を記録したか？－『明恵上人夢記』の宗教世界－	野呂 靖	133

4. 2022 年度以降の生涯学習事業推進にあたって

(1) リカレント教育関係の推進

- ・第 5 ステージプランとして大学におけるリカレント教育を推進するため、2019 年 6 月 25 日第 1 回教

育事業企画検討委員会において、財団のリカレント教育の推進方針(定義とビジョン)と「リカレント教育企画検討委員会」の設置と役割について決定した。

【財団で検討するリカレント教育の定義】「現役で働く人・世代」が、教養的なものよりも、様々な職種での力量形成を含めた「働くことに係る学び直しや継続的な学び」とする。

【財団のリカレント教育推進のビジョン】10年後の京都の大学が、「生涯を通して学びたいときに学びたいものを学ぶための大学」として、多くの社会人の知的好奇心に応えることに留まらず、各年齢段階の多様な職業、社会での様々な役割を持つ人に対して、人生の現在と未来において、どのように仕事をしていくかという学びの場としても機能していること。このリカレント教育の展開によって、「大学のまち京都、学生のまち京都」として、「学生と社会人の学び合い」が盛んに行われ、そこで取り組まれる新たな価値の創造を通じて、京都の各大学が持続的に人材育成力を高めていること。財団はこのビジョンの下、加盟校支援と加盟校の取り組みをリードする事業を行う。

(2) 2022年度リカレント教育プログラムの実施状況について

- 1) 2022年度は、「働く人のためのデータサイエンス講座」と「現代の教養講座『宇宙移住の現在・未来について』」の2講座を実施。
- 2) 出願者数は「働く人のためのデータサイエンス講座」は29名(50代以下65.5%、60代以上34.5%)、「現代の教養講座『宇宙移住の現在・未来について』」は52名(50代以下55.8%、60代以上44.2%)となった。どちらの講座も50代以下の受講者が過半数以上となり、メインターゲットとしていた働く世代の受講者を確保することができている。

◇現代の教養講座「宇宙移住の現在・未来について」

回	講座日	テーマ	担当教員	当日受講者
1	5/12	宇宙移住と「コアバイオーム複合体」	山敷 庸亮	43
2	5/26	宇宙森林(コアバイオーム)	村田 功二	38
3	6/9	宇宙海洋(コアバイオーム) -人口水圏生態系と食料生産-	遠藤 雅人	25
4	6/23	地球の特殊性から考える宇宙移住のための条件とは	佐々木 貴教	21
5	7/7	国際宇宙探査時代における人類の活動圏拡大	稲富 裕光	21
6	7/21	宇宙医学とは? -将来の有人飛行を目指して-	寺田 昌弘	21
7	8/4	天体活動に適用される国際宇宙法	青木 節子	16
8	8/18	宇宙移住の実現に向けて	山敷 庸亮	14

◇働く人のためのデータサイエンス講座

回	講座日	テーマ	担当教員	当日受講者
1	6/18	10:30-12:00「データサイエンスの概要」	林 和則	22
		13:00-14:30「データの種類と調査法」	土田 潤	
		14:40-16:10「時系列データの記述と視覚化」	土田 潤	
2	6/25	10:30-12:00「1変量の記述と視覚化」	土田 潤	23
		13:00-14:30「2変量(量×量)の記述と視覚化」	土田 潤	
		14:40-16:10「PBL①」	横山 友也、 寶珍 輝尚	
3	7/16	10:30-12:00「PBL②」	横山 友也、 寶珍 輝尚	17

		13:00-14:30 「分析結果発表」	横山 友也、 寶珍 輝尚	
		14:40-16:10 「講評」	寶珍 輝尚、 横山 友也	

5. 2023 年度の生涯学習事業にむけて

(1) 京カレッジ・京都学講座開講記念講座、基本講座、実地講座について

2022 年 10 月 4 日の第 3 回京都学企画検討委員会およびその後の調整を経て、次年度は「京都と“えんため”」を総合テーマに、開講記念講座 1 講座、基本講座 10 講座、実地講座 2 講座の登壇候補者及び各回テーマが決定し調整を進めている。

・2023 年 3 月 4 日の京都学講座の開講記念講座について、新聞広告や京カレッジ受講生への案内等により広報を開始し、WEB または往復はがきにて 2 月 20 日を締め切りとして応募受付を行った。応募数は WEB : 502 件 (76.9%)、往復はがき : 151 件 (23.1%) の計 653 件 (昨年度 512 件) の応募があり、その内受講当選者 250 名を抽選にて決定し 2 月 24 日に通知した。

開催当日は 183 名が受講し、受講者アンケートの満足度では 82.3%が満足したとの回答であった。

◇2023 年度京都学講座について

講座種別	開講予定	テーマ	氏名・所属
特別講座	3/4	あの素晴らしいエンタメの時代 ー1960 年代後半のめくるめく京都ー	瞳 みのる ((ザ・タイガース) 音楽家・作家) 小林 一彦 (京都産業大学 文化学部 教授)
基本講座①	5/13	京の今日の狂言 ー歴史と特色、楽しみ方ー	森西 真弓 (大阪樟蔭女子大学 名誉教授)
基本講座②	5/27	京都でフォークと出会った青春	杉田 二郎 (フォーク歌手、シンガー・ソングライター) 川島 智生 (京都華頂大学 現代家政学研究所 教授)
基本講座③	6/3	日本アニメ史入門 ー日本アニメ人気の理由を歴史から探るー	津堅 信之 (アニメーション研究家、日本大学 芸術学部 講師)
基本講座④	6/17	義満と世阿弥 ー日本独自の演劇「能」のルーツを探るー	井沢 元彦 (作家、歴史家) 川島 智生 (京都華頂大学 現代家政学研究所 教授)
基本講座⑤	7/8	落語に親しむ ー落語の雑学あれこれー	桂 よね吉 (落語家)
基本講座⑥	8/5	京神輿学事始め ー神輿は誰が、どのように舁くのかー	中西 仁 (立命館大学 産業社会学部 教授)
基本講座⑦	9/9	京都における三味線音楽の楽しみ ー三味線音楽の今と昔、その魅力ー	重森 三果 (邦楽演奏家、新内節研進派家元、新内協会理事)
基本講座⑧	10/7	フォークルとパッチギの京都	松山 猛 (作詞家、ライター、編集者) 川島 智生 (京都華頂大学 現代家政学研究所 教授)
基本講座⑨	10/21	都をどりの歴史と現在 ー都をどりの構成・作詞者としてー	植木 朝子 (同志社大学 学長、同志社大学 文学部 教授)
基本講座⑩	12/16	18 世紀の京都画壇 ー若冲、蕪村、応挙、芦雪ー	岡田 秀之 (福田美術館 学芸課長)
実地講座①	7/29	大江能楽堂能楽体験鑑賞講座 ー明治の香り高き能楽堂でー	大江 美智子 (七世 大江又三郎 夫人) ディエゴ ペレッキア (京都産業大学 文化学部 准教授)
実地講座②	12/2	花街のしきたりと空間 ー祇園甲部歌舞練場とお茶屋ー	杉浦 京子 (株式会社一力亭 代表取締役社長、祇園新地甲部組合 副取締) 川島 智生 (京都華頂大学 現代家政学研究所 教授)

(2) 2022 年度大学リレー講座の開講について

2022 年 11 月 3 日の第 2 回教育事業企画検討委員会で 2023 年度の実施方針が承認され、2022 年 12 月 12 日(月)を期日として募集した結果、講座一覧が下記のとおり決定した。

講座日	大学	タイトル	講師名
5/6	佛教大学	法然のロジック	市川 定敬
5/20	京都先端科学大学	動物と人間の違いは何か？ ー食べることの意味から環境問題を考えるー	田中 和博
6/10	京都文教大学	認知症とともに生きる ー認知症にやさしいまちの実現に向けてー	平尾 和之
6/24	京都精華大学	多様な価値観を認め合う「共生社会」のあり方を考える	ウスビ・サコ
9/2	花園大学	平安貴族社会と平安京	中町 美香子
11/4	大谷大学	日常生活と健康管理 ーインドの伝統文化から学ぶー	ダシュ ショバ ラニ
11/18	京都文教短期大学	スリランカの社会と仏教	仲宗根 充修
11/25	京都女子大学	透明人間、ヌードになる ーSFの前と後ー	中前 正志
12/9	平安女学院大学	シンデレラとサンタクロース	高橋 義人
12/23	同志社女子大学	京都南郊に向けられた観光のまなざし	天野 太郎
2/3	種智院大学	即身成仏 ー仏になるとはどういうことか？	松本 峰哲
2/24	龍谷大学	死に対する悩みとカウンセリング	児玉 龍治

(3) 2023 年度京カレッジ市民教養講座(京都力養成コース・教養力養成コース)」の採択について

2022 年 7 月から募集していた 2023 年度「市民教養講座(京都力養成コース・教養力養成コース)」では新規 4 件、継続 3 件の計 7 件の申請があり、2022 年 11 月 3 日第 2 回教育事業企画検討委員会において全 7 科目の申請が採択された。

(4) 2023 年度に向けたリカレント教育プログラム特別企画について

京カレッジリカレント教育プログラムの特別企画「シゴトとマナビ 明日の私の歩き方 ー正解がない時代だからこそ面白いー」を 2023 年 2 月 23 日(木・祝)にオンラインにて開催した。

本企画は、20 代後半から 40 代前半の働く世代に向けて、VUCA 時代の予測困難な時代だからこそ参加者自身が主体的に学ぶことへのきっかけ作りを目的に、宮野公樹氏(京都大学学際融合教育研究推進センター准教授)、林千晶氏(株式会社ロフトワーク共同創業者・元代表取締役)、尾崎えり子氏(株式会社新閃力・代表取締役社長)が「働く」と「学ぶ」をキーワードに講演を行い、その後、石川 武委員(リカレント教育企画検討委員/喜一工具株式会社・取締役副社長)が対談ファシリテーターとなり、登壇者同士の対談を行った。

本企画の開催にあたり、京都府クリエイティブセンター、京都商工会議所、京都工業会、京都中小企業団体中央会、京都産業 21、京都中小企業家同友会、京都高度技術研究所へ訪問し広報協力依頼を行ったほか、FM 京都への出演や読売新聞に記事を取り上げていただくなど情報発信にご協力いただき 331 名の事前申込があった。

開催当日は 177 名が視聴し、受講者アンケートの満足度では 91.4%以上が満足したと回答しており、93.6%以上が今後の参考になったとの結果であった。

今回の参加申込者には、今後のリカレント教育プログラムを含む京カレッジについて広く案内していく予定である。

(5) 2023 年度リカレント教育プログラムの広報について

産業界に向けた情報発信のため、京都府、京都商工会議所、京都工業会、京都中小企業団体中央会、京都産業 21、京都中小企業家同友会、KES 環境機構、京都高度技術研究所へ訪問し協力依頼を行う予定である。また、京都商工会議所、京都産業 21、京都府中小企業団体中央会、京都市地域企業イノベーション推進室のメールマガジンを通じて情報発信を行うほか、FM 京都を通じた広報や記者クラブへのプレスリリース・加盟校への案内等、各方面に積極的な広報を行う。

(6) 2023 年度のリカレント教育プログラムについて

2023 年度のリカレント教育プログラムについては、2022 年 10 月 11 日（火）に第 2 回リカレント教育企画検討委員会を開催し、下記の 3 プログラムを開講することが決定した。

◇働く人のためのデータサイエンス講座－現場で使える分析法・処理法－

回	講座日	テーマ	担当教員
1	6/24	10:30-12:00 「違いがあるといえるか調べよう（1）」	土田 潤 京都女子大学 データサイエンス学部 講師（予定）
		13:00-14:30 「違いがあるといえるか調べよう（2）」	
		14:45-16:15 「要因の効果があるか判定しよう」	
2	7/1	10:30-12:00 「ある変数の値をいくつかの変数の値から予測しよう」	谷岡 健資 同志社大学 生命医科学部 助教
		13:00-14:30 「多数の変数を少数の変数に要約しよう」	
		14:45-16:15 「データの奥にある要因を求めよう」	
3	7/15	10:30-12:00 「データをグループに分けよう」	谷岡 健資 同志社大学 生命医科学部 助教
		13:00-14:30 「実際の分析に向けて」	
		14:45-16:15 「現実的な課題にチャレンジしよう」	

◇現代の教養講座『宇宙移住に向けた最先端研究と企業技術』

開講	講座日	テーマ	担当教員
特別講演	4/22	土井隆雄宇宙飛行士に聞く 有人宇宙活動	土井 隆雄 宇宙飛行士、京都大学 大学院総合生存学館（思修館）特定教授

開講	回	講座日	テーマ	担当教員
前半	1	6/1	宇宙移住のための「コアパイオームコンセプト」	山敷 庸亮 京都大学 大学院総合生存学館 教授 専攻長（SIC 有人宇宙学研究センター長）
	2	6/15	恒久的な宇宙居住に向けた人工重力施設研究	大野 琢也 鹿島建設 関西支店建築設計部 副部長 兼 技術研究所上席研究員
	3	6/29	ムーンビレッジ・月に社会を作ることを考える	稲谷 芳文 宇宙航空研究開発機構（JAXA）名誉教授
	4	7/13	宇宙移住に関する国際宇宙法	青木 節子 慶應義塾大学 大学院法務研究科 教授
	5	7/27	宇宙環境での人への影響 －将来の宇宙移住を目指して－	寺田 昌弘 京都大学 宇宙総合学研究ユニット 特定准教授

後半	1	10/5	宇宙移住のための「コアテクノロジー」	山敷 庸亮 京都大学 大学院総合生存学館 教授 専攻長（SIC 有人宇宙学研究センター長）
	2	10/19	宇宙で地球外生命体の存在を探る	佐々木 貴教 京都大学 大学院理学研究科 宇宙物理学教室 助教
	3	11/2	宇宙木材工学	村田 功二 京都大学 大学院農学研究科森林科学専攻 准教授
	4	11/16	将来の長期的月面探査に資する研究およびその地上における社会実装	稲富 裕光 宇宙航空研究開発機構(JAXA) 宇宙科学研究所 教授
	5	11/30	宇宙における水産養殖の研究と地上の先端技術	遠藤 雅人 東京海洋大学 学術研究院海洋生物資源学部門 准教授

◇現代の対人援助に必要なこと-新しい領域と課題の生成をめぐって

回	講座日	テーマ	担当教員
1	7/7	社会的養育の子どもとライフストーリーワーク	徳永 祥子 立命館大学 衣笠総合研究機構 准教授
2	7/28	治療的司法の現場から 一万引き事案を中心に、障害事案も含めて	西谷 裕子 大阪弁護士会所属 リバティ総合法律事務所
3	8/25	食と対人援助：精神疾患患者への食を通じた精神栄養学的アプローチ	井戸 由美子 京都女子大学 家政学部 食物栄養学科 教授
4	9/8	対人援助に関わる人が“受援”するとき	黒瀧 安紀子 京都橘大学 看護学部 看護学科 准教授
5	9/22	子ども・若者ケアラーの現状と支援をめぐる課題	斎藤 真緒 立命館大学 産業社会学部 現代社会学科 教授
6	10/6	多様な人々で構成する「共生社会」を生き抜く力について	ウスビ・サコ 京都精華大学 人間環境デザインプログラム 教授、全学研究機構長

【実施スケジュール（主要事項）】

4月1日～5月上旬	履修可否通知（各大学から出願者へ文書にて通知）
4月1日	京都学講座受講許可者発送
4月20日	京都学講座 受講料振込期日 受講許可者最終決定
4月23日	京都学講座開講日＜第1回＞
5月7日	大学リレー講座開講日＜佛教大学＞
5月12日	リカレント教育プログラム「現代の教養講座『宇宙移住の現在・未来』」
5月21日	大学リレー講座開講日＜花園大学＞
5月26日	リカレント教育プログラム「現代の教養講座『宇宙移住の現在・未来』」
5月28日	京都学講座開講日＜第2回＞
5月下旬	京都学講座実地講座可否通知
5月下旬	京カレッジ会員証発行

6月9日	リカレント教育プログラム「現代の教養講座『宇宙移住の現在・未来』」
6月11日	京都学講座開講日<第4回>
6月18日	リカレント教育プログラム「働く人のためのデータサイエンス講座」
6月23日	リカレント教育プログラム「現代の教養講座『宇宙移住の現在・未来』」
6月25日	リカレント教育プログラム「働く人のためのデータサイエンス講座」
6月25日	大学リレー講座開講日<京都女子大学>
7月2日	京都学講座開講日<第5回>
7月5日	第1回教育事業企画検討委員会
7月7日	リカレント教育プログラム「現代の教養講座『宇宙移住の現在・未来』」
7月9日	京都学講座 実地講座①（南禅寺）
7月12日	第1回京都学企画検討委員会
7月15日	第1回単位互換・京カレッジ事務局担当者会議
7月16日	リカレント教育プログラム「働く人のためのデータサイエンス講座」
7月16日	後期出願科目発表
7月21日	リカレント教育プログラム「現代の教養講座『宇宙移住の現在・未来』」
7月22日	第1回リカレント教育企画検討委員会
7月23日	京都学講座開講日<第6回>
7月30日	京都学講座開講日<第7回>
8月4日	リカレント教育プログラム「現代の教養講座『宇宙移住の現在・未来』」
8月9日～8月23日	後期出願期間
8月18日	リカレント教育プログラム「現代の教養講座『宇宙移住の現在・未来』」
8月20日	京都学講座開講日<第3回> ※6月4日振替分
8月31日	出願者データアップロード、出願票の開講大学への送付
9月1日	第2回京都学企画検討委員会
9月10日	京都学講座開講日<第9回>
9月24日	京都学講座開講日<第8回> ※9月3日振替分
10月1日	大学リレー講座開講日<大谷大学>
10月4日	第3回京都学企画検討委員会
10月8日	京都学講座開講日<第10回>
10月11日	第2回リカレント教育企画検討委員会
10月22日	大学リレー講座開講日<平安女学院大学>
10月29日	大学リレー講座開講日<京都精華大学>
11月2日	第2回教育事業企画検討委員会
11月5日	大学リレー講座開講日<同志社女子大学>
11月12日	大学リレー講座開講日<京都文教大学>
11月18日	第2回単位互換・京カレッジ事務局担当者会議
11月中旬～1月中旬	シラバス入力期間
11月26日	大学リレー講座開講日<種智院大学>
12月10日	大学リレー講座開講日<龍谷大学>
12月22日	第4回京都学企画検討委員会
12月24日	京都学講座 実地講座②（京セラ美術館）
2月上旬	ポスター・京都学リーフレット配布開始（市・関連施設）
2月中旬	シラバス校正・修正締切
2月4日	京カレッジ・京都学講座新聞広報（京都・読売・朝日）
2月20日	京カレッジ・京都学講座開講記念講座応募締切
2月23日	リカレント教育プログラム特別企画「シゴトとマナビ 明日の私の歩き方 —正解がない時代だからこそ面白い—」
3月4日	2023 年度京カレッジ・京都学『京都と“えんため”』開講記念講座「あ の素晴らしいエンタメの時代 —1960 年代後半のめくるめく京都—」

3月上旬	2023年度科目公表、募集ガイド・大学リレー講座チラシ配布開始
3月3日～16日	2023年度京カレッジ出願期間
3月下旬	出願票・出願者データの各大学への送付

(3) インターンシップ事業

【事業計画の概要および実績】

<概要>

財団によるインターンシップ・プログラムは、これまで24年にわたり、学生の大学から社会への接続を目的としたキャリア教育として大学連携によって展開している。近年は加盟校、企業・団体がそれぞれインターンシップを行うようになり、新卒採用目的を含めてインターンシップが普及したことから、財団による比較的期間が長いプログラムへの学生参加と受入協力の企業・団体が減少している。一方で、学生が十分な企業研究や職業意識の形成ができていない状態での進路選択が多いことへの懸念に加え、京都地域の産業活性化に資するインターンシップのあり方の研究の必要性も出されている。このような状況を踏まえ、学生が職業観を深め、京都地域の各種産業への関心を高め、受入先団体の組織改善に資するという、京都全体での人材育成と社会活性化を促進するインターンシップを進める。

1. 学生の成長と企業・団体の活性化に資するインターンシップ・プログラムの促進

- (1) 各コースの教育目標とその方法について必要な見直しを行う。
- (2) 学生の専門分野を活かした社会経験と受入れ先の組織課題の進捗に係ることのできるプログラムの構築
- (3) 優れた実習プログラムのモデル化や、受入先間の経験交流を促進し、プログラム全体の質向上を図る。
- (4) 2年生次生向けのプログラム説明や広報の強化
- (5) コーディネーターと事務局の能力発揮を含む体制づくり

2. 加盟校のインターンシップ・プログラムの今後の方向性調査と連携の推進

- (1) 加盟校とのプログラム内容に係わる接点の拡大
- (2) 加盟校・財団の連携による学生広報の強化

3. 優れた実習プログラムを実施する受入先企業・団体と大学との接点の拡大

- (1) 優れた受入先への感謝状贈呈の継続実施の方法を検討する。
- (2) 受入先と大学の接点の拡大

4. 修了生（OB・OG）との継続的連絡体制の構築と現役学生への教育支援

- (1) 修了生（OB・OG）と事務局の連携強化
- (2) 修了生（OB・OG）と現役生への支援強化

5. 新たなインターンシップ・プログラムの調査研究

- (1) 外部団体とのインターンシップについての意見交換の機会の設定
- (2) 優れたインターンシップを実施する大学(加盟校以外も含む)、団体等への積極的な情報収集

6. メディア等を活用した情報発信

- (1) 外部団体等積極的な関係強化
- (2) メディアを通じた発信力の向上

<運営実績>

1. 広報

2021年に引き続き新型コロナウイルス感染症予防の観点から、オンラインの活用を中心とした広報を進めた。特に2020年3月から開始したインターンシップ・ポータルサイトについては、2022年度に向けて大幅な改修を加え、必要な情報を入手しやすい構成とした。また、受入先に広くオンライン実

習の可能性を認識いただくため、2021年度プログラムにおいてオンライン実習を取り入れた受入先に協力いただき、実習事例紹介ページを新たに追加した。

各大学との連携について、出向ガイダンスを3月11日(金)から4月15日(金)までに希望のあった8大学で実施した。また、大学ポータルサイトでの紹介やコーディネーターから学生への呼びかけを行った。大学だけでなく、修了生からの広報、「大学のまち京都・学生のまち京都」公式アプリ KYO-DENTやSNSによる情報発信など学生との接点を増やす取組を行った。

2. 受入連携先件数

受入先登録件数は、ビジネスコース／パブリックコースが129件（前年136件）、長期プロジェクトコースが13件（前年14件）であった。いずれのコースも2021年度見送りであった受入先の再登録があったが、一方で、新型コロナウイルス感染症の影響、企業・団体独自のインターンシップの実施や受入体制が不十分などの理由で登録を見送る企業もあり、登録件数は2021年度比で減少している。

＜2022年度 登録団体数等＞ ※（ ）は2021年度実績

コース名	登録団体数		受入団体数		受入率	
ビジネス	97	(103)	66	(71)	68.0%	(68.9%)
パブリック	32	(33)	25	(19)	78.1%	(57.6%)
長期プロジェクト	13	(14)	10	(7)	76.9%	(50.5%)
合計	142	(150)	101	(97)	71.1%	(64.7%)

＜2022年度受入先登録内訳＞

ビジネス	継続：89件	新規：1件	復活：7件
パブリック	継続：26件	新規：1件	復活：5件
長期プロジェクト	継続：10件	新規：2件	復活：1件

3. オンライン説明会の実施結果

(1) プログラム説明会・相談会

開催日時 4月16日(土) 18:00～20:30

学生参加者 251名 (2021年度 287名)

協力者(修了生) 13名 (2021年度 2名)

(2) 長期プロジェクトコース説明会・相談会

開催日時 4月21日(木) 18:00～20:30

学生参加者 32名 (2021年度 37名)

協力者(修了生) 2名 (2021年度 2名)

4. 出願状況等

4月15日(金)から5月6日(金)までの出願期間において、285名（2021年度：362名、2019年度：279名）の出願があった。プログラム全体としては前年度と比較し、出願者数が減少することとなったが、長期プロジェクトコースについては、前年度より出願者数が増加した。5月13日(金)及び同月14日(土)の2日間で開催したWeb面接については、273名が受験し、6月4日(土)に学生あてに選考結果を発表した。

修了生数については、ビジネスコース／パブリックコースは10月13日(木)、長期プロジェクトコースは11月24日(木)のコーディネーター会議で確定した。

2022年度 コース別 出願者数等 ※（ ）は2021年度実績

コース名	出願者数		実習許可者数		修了生	
ビジネス	255	(338)	142	(163)	129	(148)
パブリック			65	(68)	63	(58)
長期プロジェクト	30	(24)	28	(22)	22	(19)

合計	285	(362)	235	(253)	214	(225)
----	-----	-------	-----	-------	-----	-------

2022年度 学年別 出願者数及び実習許可者数 ※ () は2021年度実績

学年	出願者数				実習許可者数			
	人数		割合		人数		割合	
1 年次(回生)	12	(11)	4.2%	(3.0%)	7	(9)	3.0%	(3.6%)
2 年次(回生)	73	(106)	25.6%	(29.3%)	60	(69)	25.5%	(27.3%)
3 年次(回生)	199	(237)	69.8%	(65.5%)	167	(170)	71.7%	(67.2%)
4 年次(回生)	0	(4)	0.0%	(1.1%)	0	(2)	0.0%	(0.8%)
5 年次以上(回生)	0	(1)	0.0%	(0.3%)	0	(0)	0.0%	(0.0%)
大学院生	1	(3)	0.4%	(0.8%)	1	(3)	0.4%	(1.2%)
合計	285	(362)	100%	(100%)	235	(253)	100%	(100%)

5. 教員の体制について

ビジネスコース/パブリックコース 17 名（ビジネス 12 名、パブリック 5 名）、長期プロジェクトコース 7 名の体制で運営した。

6. 財団におけるインターンシップ生受入状況について

総務部を窓口としてビジネス・パブリックコースで 4 名を受入れ、8 月 23 日（火）から 9 月 3 日（土）までの期間で実習が行われた。

7. プログラムの進捗状況

(1) ビジネスコース/パブリックコース

本コースの講義は昨年度に引き続き全てオンラインで開催した。6 月 18 日（土）から初回講義がスタートし、9 月 17 日（土）の事後学習（実習経験交流会）をもって全 4 回の講義を終了した。

昨年度、感染状況を踏まえた受入先判断による実習中止に伴う辞退は 12 件あったが、今年度は該当者はおらず受講生全員が実習に参加することができた。なお、2022 年度本コースにおける学生都合による辞退者は、10 名であった。辞退理由については、主に所属大学等における長期活動への参加に伴う予定の重複、プログラムへの理解の不足であった。また辞退にあたり、事務局から一切の連絡がとれず、所属大学を含めて対応を進める事例もあった。

実習にあたり、受入先に対しては、感染症対策の取組状況を確認し、受講生の事前訪問時に内容を説明いただくこととした。受入先での従業員の感染報告はあったものの適切な対応がなされ、実習へ直接的な影響はなかった。

受講生からは感染報告 9 件、濃厚接触報告 2 件があった。いずれも速やかに報告されたため、スケジュール調整（オンライン実習への変更を含む）による継続 5 件、受入先変更 1 件の対応をとることができた。その他 5 件については、実習期間に影響はなかった。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大状況により受入先が実習中止を判断され、受入先変更としたものが 1 件あった。

(2) 長期プロジェクトコース

本コースは対面講義を基本とし、新型コロナウイルス感染症の拡大状況（緊急事態宣言又はまん延防止等重点措置の発令）に応じて、オンラインで開催することとした。6 月 16 日（木）から対面による初回講義がスタートし、10 月 20 日（木）に 9 回目の講義を実施した。今年度、これまでの講義はすべて対面にて開催したが、受入先の利便性等を踏まえ、オンライン参加も可能な体制を整えた。

長期プロジェクトコースについては、この間、学生都合による開講前の辞退が 1 名、開講後の辞退 1 名であった。辞退理由については、それぞれ、他団体主催の長期活動への参加に伴う予定の重複、求めているインターンシップ内容との相違であった。

プロジェクト活動については、対面を中心にインタビュー等を実施しながら、適宜、Zoom 等によりチーム内で作業の進捗状況が共有された。

「次の一步を応援・提案」、「安心して働ける職場づくり」などをテーマに掲げて開始した活動は、11月5日(土)のプロジェクト・プレゼンテーションでその成果を発表し、約5か月間のプログラムを終えた。

8. 新型コロナウイルス感染症に係る陽性者等への対応

実習参加にあたり、実習開始前の期間を含めて、新型コロナウイルス感染症の陽性者、濃厚接触者またはその疑いがある場合、必ず事務局に連絡するよう受講生に指示した。陽性者となった場合は、発症日、症状及び療養期間等について確認、濃厚接触者の場合は体調の変化の有無及び療養期間等を確認することとし、予定されていた実習期間と療養期間が重複する場合は、受入先に対し、振替日の設定等の調整を進めた。

なお、2022年度については、10月30日時点で陽性11件、濃厚接触3件の報告があった。そのうち、実習開始前が8件、実習中に5件、実習終了後に1件（ビジネスコース／パブリックコース11名、長期プロジェクトコース3名）の報告があり、特に実習中での報告に関しては感染拡大を防ぐため実習先への連絡を速やかに行うとともに感染症状等の有無について確認するなど対応した。

また、実習の進捗について、新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し2件の受入先（受講生各1名）において実習中止を判断された（1件は受講生陽性のため）が、いずれも受入先を変更することで各受講生のプログラムは継続した。

9. 受入先実習プログラム研究会

本会は、実習プログラムについての事例紹介や意見交換を通じて、実習内容や課題等を共有し、次年度の受入体制の充実を図るとともに、受入先同士、受入先と大学との繋がり強化を目的として2018年度から年1回の頻度で開催しており、2月17日(金)に第5回目を開催した。

今回は、異業種の企業・団体同士でグループディスカッションを中心に運営した。グループディスカッションでは、実習計画の立て方や実習生とアルバイトとの違い、学生に任せる業務の範囲、さらには、実習生の学習意欲を高めるための方法など活発な意見交換が行われた。

<規模・参加数>

参加希望受入先数：28企業・団体 35名（左記のうち25企業・団体 30名参加）

参加大学（キャリア担当部署）：10大学 12名（左記のうち9大学 11名参加）

※参加大学のうち4大学4名は、キャリア担当部署＝受入部署のため参加希望受入先数にも積算
コーディネーター教員：ビジネスコース／パブリックコース 計5名

10. 次年度に向けて

(1) 教員の体制について

次年度も今年度と同程度の受講者数を想定し、今年度と同数の教員で運営する。

<2023年度コーディネーター数>

ビジネス／パブリックコース 17名 内訳：継続11名 新規6名 復活0名

長期プロジェクトコース 7名 内訳：継続7名 新規0名 復活0名

(2) 受入先確保について

新規登録については、関係団体から紹介された企業団体、当財団の事業と関係のある企業団体を中心に依頼した。また、インターンシップに興味のある企業・団体から直接連絡が入った場合には、先方へ伺い、本プログラムについて丁寧に説明を行うとともに、会社概要（事業内容、従業員数など）を確認した上で、受入先として適切であると判断できたものについて登録手続きを進めた。

再登録については、新型コロナウイルス感染症に係る制限が緩和傾向にあることを踏まえ、受入先登録が少数の業種を中心に連絡し、2022年度登録受入先については、過年度受入実績等に基づいて受入人数枠の拡大を依頼した。

<2023年度受入先登録状況> 3/22時点（カッコ内は2022年度最終登録数）

ビジネス 97件（97件） 内訳：継続84件 新規3件 復活10件

パブリック	33件 (32件)	内訳：継続29件	新規 2 件	復活 2 件
長期プロジェクト	12件 (13件)	内訳：継続11件	新規 1 件	復活 0 件

(3) 広報について

インターンシップ・ポータルサイトを活用し、財団プログラムの特色と魅力をより明確に打ち出していくために、実習先情報や修了生からのメッセージなど紹介内容のさらなる充実を図った。特に、修了生からのメッセージについては、新たにインタビュー動画を掲載し、本プログラムに参加した理由や実習中の心境などの紹介を通して、学生の積極的な参加を促すこととした。

以上のコンテンツについては、今後予定している各大学での出向ガイダンスで積極的に活用する。

【実施スケジュール(主要事項)】

4 月	各大学への出向ガイダンス実施
4 月 14 日 (木)	第 1 回ビジネスコース／パブリックコース コーディネーター(以下 C0)会議
4 月 15 日 (金)～5 月 6 日 (金)	インターンシップ学生 Web 出願期間
4 月 16 日 (土)	プログラム説明会・相談会
4 月 21 日 (木)	長期プロジェクトコース説明会・相談会
5 月 13 日 (金)、5 月 14 日 (土)	Web 面接
5 月 26 日 (木)	第 1 回長期プロジェクトコース C0 会議
6 月 3 日 (金)	第 1 回科目担当者会議 (講義内容、成績評価基準) 第 1 回インターンシップ事業企画検討委員会 (以下「企画検討委員会」)
6 月 4 日 (土)	インターンシップ・全マッチング可否結果発表
6 月 9 日 (木)	受入先担当者説明会 第 2 回ビジネスコース／パブリックコース C0 会議
6 月 16 日 (木)	第 1 回長期プロジェクトコース受入先との合同会議 長期プロジェクトコース 講義①
6 月 18 日 (土)	ビジネスコース／パブリックコース 事前学習①
6 月 23 日 (木)	長期プロジェクトコース 講義②
6 月 30 日 (木)	長期プロジェクトコース 講義③
7 月 2 日 (土)	第 3 回ビジネスコース／パブリックコース C0 会議 ビジネスコース／パブリックコース 事前学習②
7 月 7 日 (木)	第 2 回長期プロジェクトコース C0 会議 長期プロジェクトコース 講義④
7 月 9 日 (土)	ビジネスコース／パブリックコース 事前学習③
7 月 9 日 (土)～7 月 16 日 (土)	事前学習レポート提出 (Web) ビジネスコース／パブリックコース
7 月 14 日 (木)	長期プロジェクトコース 講義⑤
9 月 1 日 (木)	長期プロジェクトコース 講義⑥
9 月 8 日 (木)	第 3 回長期プロジェクトコース C0 会議
9 月 15 日 (木)	第 4 回ビジネスコース／パブリックコース C0 会議
9 月 17 日 (土)	ビジネスコース／パブリックコース 事後学習 (実習経験交流会／修了式)
9 月 17 日 (土)～10 月 1 日 (土)	事後学習レポート提出 (Web) ビジネスコース／パブリックコース
9 月 29 日 (木)	長期プロジェクトコース 講義⑦
10 月 6 日 (木)	長期プロジェクトコース 講義⑧
10 月 10 日 (月)	C0 成績採点提出期限 ビジネスコース／パブリックコース
10 月 13 日 (木)	第 5 回ビジネスコース／パブリックコース C0 会議
10 月 20 日 (木)	長期プロジェクトコース 講義⑨
10 月 21 日 (金)	第 2 回企画検討委員会

10月22日(土)	修了生との意見交換会
10月27日(木)	第4回長期プロジェクトコース C0 会議
11月5日(土)	長期プロジェクトコース 講義⑩ (プロジェクト・プレゼンテーション/修了式)
11月5日(土)～11月10日(木)	学習レポート及びプロジェクト報告書提出(Web) 長期プロジェクトコース
11月18日(金)	C0 成績採点提出期限 長期プロジェクトコース
11月24日(木)	第2回長期プロジェクトコース受入先との合同会議 第5回長期プロジェクトコース C0 会議
12月1日(木)	2023 年度受入先登録画面 OPEN
12月2日(金)	第3回企画検討委員会
12月9日(金)	第2回科目担当者会議(プログラム総括、成績評価説明)
1月下旬～2月	受講案内他について各大学への訪問
2月17日(金)	実習プログラム研究会
2月24日(金)	第4回企画検討委員会
3月1日(水)	2023 年度学生向け実習検索サイト OPEN

教育事業部 各種委員会等の開催について

(1) 単位互換事業・生涯学習事業(京カレッジ)

① 教育事業企画検討委員会(専門委員会)

- 7月5日(火) 第1回(主要議題:2022年度状況報告および2023年度計画について)
11月2日(水) 第2回(主要議題:2023年度開講について)

(2) 生涯学習事業(京カレッジ)

① リカレント教育企画検討委員会 ※2019年度発足

- 主要議題:財団が推進するリカレント教育に関する施策の企画検討
7月22日(金) 第1回(主要議題:2022年度状況報告および2023年度計画について)
10月11日(火) 第2回(主要議題:2023年度計画の具体化・決定について)

② 京都学企画検討委員会

- 7月12日(火) 第1回(主要議題:2023年度京都学講座のテーマについて)
9月1日(木) 第2回(主要議題:2023年度京都学講座の講師案について)
10月4日(火) 第3回(主要議題:2023年度京都学講座の講師依頼状況等について)
12月22日(木) 第4回(主要議題:2023年度京都学講座の講師依頼状況等について)

(3) インターンシップ事業

① インターンシップ事業企画検討委員会(専門委員会)

- 6月3日(金) 第1回(主要議題:2022年度 事業の目的、計画の確認)
10月21日(金) 第2回(主要議題:2023年度事業計画について)
12月2日(金) 第3回(主要議題:2023年度事業計画について)
2月24日(金) 第4回(主要議題:2022年度プログラムの振り返り、2023年度運営について)

② インターンシップ・プログラム コーディネーター会議(ビジネス・パブリックコース)

- 4月14日(木) 第1回(主要議題:2022年度プログラム運営計画 他)
6月9日(木) 第2回(主要議題:事前学習実施について 他)
7月2日(土) 第3回(主要議題:事後学習及び中間指導について 他)
9月15日(木) 第4回(主要議題:2023年度講義計画(シラバス)について 他)
10月13日(木) 第5回(主要議題:成績評価確定、2023年度講義計画確定 他)

③ インターンシップ・プログラム コーディネーター会議(長期プロジェクトコース)

- 5月26日(木) 第1回(主要議題:2022年度成績基準、出願・選考について 他)
6月16日(木) 受入先合同会議 第1回(主要議題:2022年度プログラム計画 他)
7月7日(木) 第2回(主要議題:プロジェクト進捗について 他)
9月8日(木) 第3回(主要議題:プロジェクト進捗について 他)
10月27日(木) 第4回(主要議題:2023年度講義計画(シラバス)について 他)
11月24日(木) 第5回(主要議題:成果報告会、成績評価、2023年度講義計画 他)
受入先合同会議 第2回(主要議題:年度総括、2023年度プログラム計画 他)

教育開発事業部 事業報告

(1) FD 事業

【事業計画の概要および実績】

<概要>

FD が義務化され、現在では学修者本位の教育を提供するための教学マネジメントを支える基盤として FD の高度化が議論されている。FD 事業の運営は、FD フォーラムを担当する「FD フォーラム企画検討委員会」および FD フォーラム以外の FD 事業を担当する「FD 企画研究委員会」の 2 委員会体制で推進する。

◆FD フォーラム

今年度で 28 回目を迎え、加盟大学の情報発信を重視した運営や参加者間の交流に、前年度までの経験を活かして取り組む。今年度は、一部の分科会ではハイブリッド形式での開催を盛り込み、分科会での相互交流やポスターセッションによる情報発信についても、引き続き重視していくこととする。

◆FD 合同研修プログラム

FD 合同研修プログラムでは、次の 3 つの事業を展開する。

・大学執行部塾

2020 年度までは、各加盟校の学長等の大学執行部層のみを対象とする研修プログラムであったが、2021 年度以降は非加盟校の大学執行部層も参加対象とする。6 月下旬に行われる当財団理事会・評議員会・会員総会開催日に実施する。

・テーマ別研修

新任教員や FD の基礎的な事項を学び直したいと考える教員や、FD 関連部署に勤務する職員、または FD に関心のある教職員を対象とした研修プログラムを実施する。加盟校教職員が抱える問題や課題、ニーズに合った実施形態やテーマを設定し実施する。

・京都 FD 交流会

加盟校教職員の FD 活動における工夫や悩みを共有しながら課題の解決に向けたヒントを探るなど、FD に関する様々なテーマのもと、加盟校の枠を越えて教職員が交流する機会を提供する。年度内 3 回実施する。

◆高等教育情報 NAVI「教まちや」

加盟校をはじめとする教育機関が高等教育に関するイベント情報を収集する際のハブ機能を担うツールとして 2014 年度に開始した。(1)イベントの投稿・掲載、(2)教まちや News (ブログ機能)、(3)メールマガジンの 3 つのコンテンツがある。「教まちや News」に掲載する大学の幅を広げるため、加盟校の事務職員によるリレー方式での掲載など、引き続き、様々な大学の特色ある取り組みを発信する。

<実績>

◆第28回FDフォーラム

全体テーマ 挑戦～多様な学びの支援に求められる挑戦と選択

日時 2023年2月18日(土)、2月23日(木・祝)～25日(土)

場所 オンライン開催 ※一部ハイブリッド開催

参加費 加盟校／教職員 1,000円、学生無料 非加盟校／教職員 4,000円、学生無料

申込者数 435名(加盟校184名、非加盟校251名)

シンポジウム

会場 Zoom ウェビナー(講義形式)

テーマ これからの大学でどのように学ぶのか ～主体性を生み出す学びの多様性～

日時 2023年2月25日(土) 14:00～16:30

コーディネーター 白鳥 秀卓 氏(京都産業大学 生命科学部 教授 /

教育支援研究開発センター 副センター長)

報告者 永田 和宏 氏(JT生命誌研究館 館長／歌人／京都大学 名誉教授／

京都産業大学 名誉教授)

西田 貴明 氏(京都産業大学 生命科学部 准教授)

國本 千裕 氏(千葉大学 アカデミック・リンク・センター 副センター長／准教授)

申込者数 260名(加盟校102名、非加盟校158名)

ポスターセッション

テーマ 発表者所属大学の特色ある教育に関する取り組み事例について

発表者 大学教育に関する取り組みについて発表を希望する大学コンソーシアム京都加盟校の教職員、学生

日時 2023年2月18日(土) 13:00～16:00

実施方法 Zoom ミーティングを使用し、あらかじめポスターおよび概要を Web サイトに公開
希望者は動画の掲載も可

発表者件数 8件

クロージングセッション

会場 Zoom ミーティング

日時 2023年2月25日(土) 17:00～18:30

進行 山口 洋典 氏(立命館大学 共通教育推進機構 教授)

分科会

会場 Zoom ミーティング

・2023年2月23日(木・祝)

第1分科会:「あなたの大学の学習環境を教えてください!」(9:30～11:30)

申込者数 97名

第2分科会:「産学連携・地域連携を通じた大学教育を考える」(9:30～11:30)

申込者数 95名

第3分科会:「学びの場のダイバーシティとインクルージョンの実現」(14:00～16:30)

申込者数 42名

第4分科会:「25年度新入生は何をどう学んで来るのか(来ないのか)

―新指導要領を手がかりに大学基礎教育を考える―(14:00～17:00)

申込者数 142名

第5分科会:「グローバルに活躍出来る人材の育成に大学はどのように貢献するか

—混沌とした世界で主体性を発揮できる人材の育成に向けて—

(14:00～17:00)

申込者数 50名

・2023年2月24日(金)

第6分科会:「大学教育と福祉課題～大学での支援のあり方を考える～」(9:30～11:30)

申込者数 92名

第7分科会:「ポストコロナで遠隔授業をどのように活用できるか」(9:30～12:00)

申込者数 145名

第8分科会:「その能力、どうしたら社会で活かせる?

—発達障害のある理工系学生の能力を

専門職就労につなげるために必要な支援と課題—(14:00～16:00)

申込者数 51名

第9分科会:「学生が過ごしたコロナ禍の大学生活」

(対面:14:00～17:30/オンライン:14:00～16:30)※ハイブリッド開催

申込者数 127名(対面:18名/オンライン:109名)

・2023年2月25日(土)

第10分科会:「社会と融合する大学教育のかたちを考える」(9:30～12:00)

申込者数 63名

第11分科会:「学外の実践活動を生かした大学教育」(9:30～12:00)

申込者数 74名

◆大学執行部塾

日時 2022年6月25日(土) 11:30～12:30

開催形式 ハイブリッド形式(当財団理事会・評議員会出席者のみ配信会場からの参加、
上記以外はオンライン配信(Zoom ウェビナー))

配信会場 キャンパスプラザ 4階 第3講義室

テーマ 「ポスト高大接続改革の大学入試・大学教育」

講師 川嶋 太津夫 氏(大阪大学 スチューデント・ライフサイクルサポートセンター長)

参加費 加盟校教職員/無料 左記以外/1,000円

参加者数 46名(加盟校37名、非加盟校9名)

内訳:対面 17名(加盟校17名)

オンライン 29名(加盟校20名、非加盟校9名)

※オンデマンド公開期間:6月28日(火)～7月9日(土) 23:59

申込者(当日欠席者を含む)に公開

◆IR フォーラム

日時 2022年8月27日(土) 13:00～16:00

場所 オンライン開催(Zoom)

テーマ 「学修成果の可視化と教学マネジメントの実践

～教職協働による質保証・PDCAサイクルの実践、ディプロマポリシー達成度可視化の事例～」

参加費 無料

参加者数 706名(昨年度712名)』

基調講演

テーマ 『社会に開かれた』質保証の実現に向けて

～社会から大学に求められる「学修成果の可視化」とは～
講 師 濱中 淳子 氏（早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授）

事例発表 1

タイトル IR データを活用した組織的な教学マネジメントの推進
～IR 部門立ち上げから 5 年間の IR データの整理・分析、学内展開、
学科での活用～

報告者 金澤 哲 氏（京都女子大学 副学長）
田中 貴久 氏（京都女子大学 大学運営本部 大学改革推進室 係長）

事例発表 2

タイトル DP 達成に向けて、大規模大学で取り組む汎用的能力の育成と可視化の取組

報告者 成川 忠之 氏（東海大学 ユニバーシティビューロー
ゼネラルマネージャー（キャリア就職担当） / 経営学部 教授）

事例発表モデレーター 森 正美 氏（京都文教大学 学長）

◆FD 合同研修プログラム・テーマ別研修会

参加費 加盟校教職員／無料 左記以外／1,000 円

（1）FD 基礎知識

日 時 2022 年 8 月 30 日（火）13：00～14：50

場 所 オンライン開催（講義型）

進 行 佐藤 誠 氏（京都産業大学 法学部 教授）

講 師 佐藤 誠 氏（京都産業大学 法学部 教授）

林 秀美（大学コンソーシアム京都 副事務局長）

申込期間 2022 年 7 月 22 日（金）9：00～2022 年 8 月 24 日（水）17：00

参加者数 21 名（加盟校 8 名、非加盟校 6 名、FD 企画研究委員 7 名）

※オンデマンド映像公開期間：2022 年 8 月 31 日（水）～9 月 21 日（水）

申込者（当日欠席者を含む）に公開

（2）授業での ICT 活用を考えるワークショップ

日 時 2022 年 10 月 1 日（土）13：30～15：30

場 所 オンライン開催（講義型&ワークショップ型）

進 行 伊藤 紀美江 氏（平安女学院大学 子ども教育学部 教授）

生駒 幸子 氏（龍谷大学短期大学部 こども教育学科 准教授）

講 師 神谷 祐介 氏（龍谷大学 経済学部 准教授）

申込期間 2022 年 8 月 26 日（金）9：00～2022 年 9 月 24 日（土）17：00

参加者数 14 名（加盟校 4 名、非加盟校 4 名、FD 企画研究委員 6 名）

※オンデマンド映像公開期間：2022 年 10 月 5 日（水）～10 月 26 日（水）

申込者（当日欠席者を含む）に公開

（3）著作権

日 時 2022 年 11 月 19 日（土）13：30～15：30

場 所 オンライン開催（講義型）

進 行 森 篤嗣 氏（京都外国語大学・京都外国語短期大学 外国語学部 教授）

星 優也 氏 (池坊短期大学 文化芸術学科 講師)
講 師 柿元 淳 氏 (LM総合法律事務所 弁護士)
申込期間 2022 年 10 月 11 日 (火) 9 : 00 ~ 2022 年 11 月 12 日 (土) 17 : 00
参加者数 27 名 (加盟校 19 名、非加盟校 5 名、FD 企画研究委員 3 名)
※オンデマンド映像公開期間 : 2022 年 11 月 22 日 (火) ~ 12 月 13 日 (火)
申込者 (当日欠席者を含む) に公開

(4) シラバス作成・成績評価

日 時 2022 年 12 月 9 日 (金) 18 : 30 ~ 20 : 30
場 所 オンライン開催 (ワークショップ型)
進 行 跡田 直澄 氏 (京都先端科学大学 経済経営学部 特任教授)
戸次 顕彰 氏 (大谷大学 文学部 講師)
講 師 中島 英博 氏 (立命館大学 教育開発推進機構 教授)
申込期間 2022 年 11 月 1 日 (火) 9 : 00 ~ 2022 年 12 月 2 日 (金) 17 : 00
参加者数 15 名 (加盟校 11 名、非加盟校 3 名、FD 企画研究委員 1 名)
※オンデマンド映像公開期間 : 2022 年 12 月 14 日 (火) ~ 2023 年 1 月 5 日 (木)
申込者 (当日欠席者を含む) に公開

(5) 障害のある学生の修学支援に関する基礎知識

日 時 2023 年 1 月 17 日 (火) 18 : 30 ~ 20 : 30
場 所 オンライン開催 (ワークショップ型)
講 師 村田 淳 氏 (京都大学 学生総合支援機構 准教授)
申込期間 2022 年 12 月 9 日 (金) 9 : 00 ~ 2023 年 1 月 10 日 (火) 17 : 00
参加者数 93 名 (加盟校 44 名、非加盟校 9 名、FD 企画研究委員 7 名、オンデマンド 33 名)
※オンデマンド映像公開期間 : 2023 年 1 月 20 日 (金) ~ 2023 年 2 月 10 日 (金)
申込者 (当日欠席者を含む) に公開

(6) 大学生の「学力低下」にどう向き合うべきか——大学の実践例に学ぶ——

日 時 2023 年 1 月 31 日 (火) 18 : 30 ~ 20 : 30
場 所 オンライン開催 (ワークショップ型)
進 行 高尾 郁子 氏 (京都薬科大学 学生実習支援センター 助教)
林 千恵子 氏 (京都工芸繊維大学 基盤科学系 教授)
講 師 鮫島 輝美 氏 (関西医科大学 看護学部 教授)
申込期間 2022 年 12 月 23 日 (金) 9 : 00 ~ 2023 年 1 月 24 日 (火) 17 : 00
参加者数 57 名 (加盟校 24 名、非加盟校 28 名、FD 企画研究委員 5 名)
※オンデマンド映像公開期間 : 2023 年 2 月 3 日 (金) ~ 2023 年 2 月 24 日 (金)
申込者 (当日欠席者を含む) に公開

◆京都 FD 交流会

統一テーマ 「ポストコロナ時代の大学教育の場」
参加費 無料

(1) 第 1 回

日 時 2022 年 8 月 6 日 (土) 13 : 00 ~ 16 : 00
場 所 キャンパスプラザ京都 2 階ホール

テーマ 「変化する受験生の志望動向と近年の入試トピックス」
 コーディネーター 松本 真治 氏（佛教大学 文学部 教授）
 話題提供 岡本 政治 氏（河合塾グループ 株式会社 KEI アドバンス 西日本営業部 部長）
 申込期間 2022 年 7 月 6 日（水）9：00～2022 年 8 月 4 日（木）17：00
 参加者数 10 名（加盟校 6 名、非加盟校 2 名、FD 企画研究委員 2 名）

（2） 第 2 回

日 時 2022 年 9 月 17 日（土）13：00～15：00
 場 所 オンライン開催（Zoom ミーティング）
 テーマ 「大学英語授業のバージョンアップから考える教育 DX
 ：プロジェクト発信型英語プログラムの実践から」
 コーディネーター 中島 英博 氏（立命館大学 教育開発推進機構 教授）
 話題提供 木村 修平 氏（立命館大学 生命科学部 准教授 / 教学部 副部長）
 申込期間 2022 年 8 月 10 日（水）9：00～2022 年 9 月 15 日（木）17：00
 参加者数 9 名（加盟校 2 名、非加盟校 4 名、FD 企画研究委員 3 名）

（3） 第 3 回

日 時 2022 年 10 月 8 日（土）13：30～16：30
 場 所 オンライン開催（Zoom ミーティング）
 テーマ 「ポストコロナにおけるアクティブラーニング」
 コーディネーター・話題提供 浅田 瞳 氏（華頂短期大学 幼児教育学科 准教授）
 申込期間 2022 年 9 月 6 日（火）9：00～2022 年 10 月 6 日（木）17：00
 参加者数 5 名（加盟校 1 名、非加盟校 2 名、FD 企画研究委員 2 名）

【実施スケジュール（主要事項）】

6 月 25 日（土）	大学執行部塾
8 月 6 日（土）	京都 FD 交流会 第 1 回
8 月 27 日（土）	IR フォーラム
8 月 30 日（火）	FD 合同研修プログラム・テーマ別研修会「FD 基礎知識」
9 月 17 日（土）	京都 FD 交流会 第 2 回
10 月 1 日（土）	FD 合同研修プログラム・テーマ別研修会 「授業での ICT 活用を考えるワークショップ」
10 月 8 日（土）	京都 FD 交流会 第 3 回
11 月 19 日（土）	FD 合同研修プログラム・テーマ別研修会「著作権」
12 月 9 日（金）	FD 合同研修プログラム・テーマ別研修会「シラバス作成・成績評価」
1 月 17 日（火）	FD 合同研修プログラム・テーマ別研修会 「障害のある学生の修学支援に関する基礎知識」
1 月 31 日（火）	FD 合同研修プログラム・テーマ別研修会 「大学生の「学力低下」にどう向き合うべきか——大学の実践例に学ぶ——」
2 月 18 日（土）	第 28 回 FD フォーラム（ポスターセッション）
2 月 23 日（木） ～25 日（土）	第 28 回 FD フォーラム（シンポジウム・分科会・グローピングセッション）

(2) SD事業

【事業計画の概要および実績】

<概要>

◆SD 共同研修プログラム

社会人としての基礎知識から大学職員としての汎用的なスキルを修得できる場として提供し、職務遂行能力向上に寄与する。能力・スキル向上型研修に加えて、「基礎知識獲得型」研修を実施し、研修の幅を広げ、より多様な受講者に対応できるよう企画する。

◆SD ゼミナール

実施8年目を迎えている。コロナ禍の中、全日程対面開催が困難なため、2020年度～2021年度の2年間中止した。2022年度はオリエンテーション・公開プレゼンテーションを対面で行う。また人的ネットワーク形成のためにはWeb上でのコミュニケーションツール「oVice」を活用する。過去5年間実施してきた内容や受講生アンケート結果を参考に、応募条件や人数、開講形態、内容等の見直し、プログラムの充実を図り、企画する。

◆SD フォーラム

高等教育の動向を踏まえての先進事例紹介の場、また、外部有識者の知識やノウハウを獲得する場として提供し、新たな知見修得に寄与する。各加盟校や他組織における類似企画との差別化を図るために、プログラム（分科会数、規模等）や運営面でより魅力的なものとなるよう、アンケート結果等からニーズを分析し、SD研修委員会においてプログラムの充実を図る。

◆SD ガイドブック

隔年で更新しており、2023年度版発行に向けて、SD研修委員などを通じてアンケート調査を実施し、ニーズを踏まえて充実したものとする。

<実績>

◆SD 共同研修プログラム

(1) 知るほどなっとくビジネスマナー

日 時 2022年3月24日（木）、3月25日（金）、5月25日（水） 13:00～17:00

開催形式 対面

対 象 若手教職員（入職1～2年目）（対象以外の方でも参加可能）

講 師 藤原 真理弥 氏（株式会社 話し方教育センター）

参加者数 3月24日 [8名（加盟校6名、非加盟校1名、財団1名）]

3月25日 [10名（加盟校9名、非加盟校1名）]

5月25日 [9名（加盟校8名、非加盟校1名）]

[参考] 2021年度実績 3月25日（17名）、3月26日（7名）、5月13日（10名）

2020年度実績 10月7日（28名）オンライン開催

(2) 問題が見えれば、仕事分かる！一問題分析のコツ

日 時 2022年6月15日（水）13:00～17:00

開催形式 オンライン（Zoom ミーティング）

対 象 勤続5年目まで（勤続年数にかかわらず参加可能）

講 師 前田 真志 氏（学校法人立命館 人事課長／キャリアコンサルタント）

参加者数 15名（加盟校13名、非加盟校2名）

(3) メンバーが「育つ」チーム作りープロティアン・キャリア理論に学ぶ自律型人材

日 時 2022年7月6日(水) 13:00~17:00

開催形式 オンライン (Zoom ミーティング)

対 象 勤続10年以上および管理職 (対象以外の方でも参加可能)

講 師 前田 真志 氏 (学校法人立命館 人事課長/キャリアコンサルタント)

参加者数 18名 (加盟校12名、非加盟校6名)

(4) 頭の中をすっきり視覚化! マインドマップ活用術

日 時 2022年7月27日(水) 13:00~17:00

開催形式 対面

対象(目安) 勤続10年まで (対象以外の方でも参加可能)

講 師 塚原 美樹 氏 (株式会社 ヒューマン・リスペクト 代表)

参加者数 11名 (加盟校9名、非加盟校2名)

(5) 学校法人会計から見える大学経営と業務

日 時 2022年8月4日(木) 14:00~17:00

開催形式 オンライン (Zoom ミーティング)

対 象 全教職員 (勤続年数にかかわらず参加可能)

講 師 池上 作 氏 (同志社大学 財務部 経理課 法人係長)

参加者数 36名 (加盟校27名、非加盟校9名)

(6) 大学職員業務、補助金獲得への道

日 時 2022年9月22日(木) 14:00~17:00

開催形式 オンライン (Zoom ミーティング)

対 象 全教職員 (勤続年数にかかわらず参加可能)

講 師 尾崎 圭一郎 氏 (同志社大学 財務部 経理課 経理課長)

参加者数 28名 (加盟校21名、非加盟校7名)

(7) これからの大学職員 “アカデミックアドバイザー” (基礎)

日 時 2022年11月18日(金) 14:00~17:00

開催形式 対面

対 象 全教職員 (勤続年数にかかわらず参加可能)

講 師 清水 栄子 氏 (追手門学院大学 共通教育機構・教育支援センター 准教授)

参加者数 19名 (加盟校18名、非加盟校1名)

(8) 中途退学予防最前線

日 時 2022年12月15日(木) 14:00~17:00

開催形式 オンライン (Zoom ミーティング)

対 象 全教職員 (勤続年数にかかわらず参加可能)

講 師 山本 繁 氏 (大正大学 地域構想研究所 特命教授)

参加者数 24名 (加盟校10名、非加盟校14名)

◆SDゼミナール【参考】2020年度~2021年度中止

受講者数: 10名 (加盟校: 7校9名、非加盟校: 1校1名)

※2019年度実績 17名 (加盟校: 9校13名、非加盟校: 4校4名)

【オリエンテーション】2022年5月21日(土) 15:30~17:00<対面開催>

【第1回】 「アカデミック・ライティングの基礎」

日 時 2022年5月28日(土) 13:00~14:40<オンライン開催>

- 講 師 坂本 尚志 氏（京都薬科大学 一般教育分野 准教授）
【第2回】 「大学の歴史と制度」
 日 時 2022年6月4日（土）13：00～16：10＜オンライン開催＞
 講 師 宮林 常崇 氏（東京都公立大学法人 東京都立産業技術大学院 大学管理課長）
【第3回】 「アカデミック・リテラシーと政策提言レポート」
 日 時 2022年6月11日（土）13：00～16：10＜オンライン開催＞
 講 師 村山 孝道 氏（京都文教中学・高等学校 事務長）
【第4回】 「大学と社会」
 日 時 2022年6月18日（土）13：00～16：10＜オンライン開催＞
 講 師 南 了太 氏（京都精華大学 国際文化学部 グローバルスタディーズ学科
 准教授／共通教育機構 社会実践力育成プログラム部門長）
【第5回】 「大学の戦略とリーダーシップ」
 日 時 2022年6月25日（土）13：00～16：10＜オンライン開催＞
 講 師 吉武 博通 氏（情報・システム研究機構 監事／東京家政学院 理事長／
 筑波大学 名誉教授）
【第6回】 「大学と高大連携・高大接続」
 日 時 2022年7月2日（土）13：00～16：10＜オンライン開催＞
 講 師 荒瀬 克己 氏（独立行政法人教職員支援機構 理事長）
【第7回】 「大学教育の質保証に向けた教学マネジメント」
 日 時 2022年7月9日（土）13：00～16：10＜オンライン開催＞
 講 師 西野 毅朗 氏（京都橘大学 教育開発・学習支援室／経営学部 経営学科 専任講師）
【第8回】 「大学と高等教育政策」
 日 時 2022年7月16日（土）13：00～16：10＜オンライン開催＞
 講 師 松坂 浩史 氏（独立行政法人日本スポーツ振興センター 理事）
【第9回】 「ブランディング・学生募集」
 日 時 2022年7月23日（土）13：00～16：10＜オンライン開催＞
 講 師 上條 憲二 氏（愛知東邦大学 経営学部 地域ビジネス学科 教授）
【公開プレゼンテーション】 2022年9月10日（土）13：00～16：15＜オンライン開催＞
 参加者数 26名（加盟校16名、非加盟校10名）
【公開プレゼンテーションフォロー研修】 2022年9月17日（土）13：45～17：00＜対面開催＞
 参加者数 10名（加盟校9名、非加盟校1名）
 ※SDゼミナール受講生の研修のため、一般参加はなし。

政策提言レポート一次提出締切日 2022年10月3日（月）

政策提言レポート最終提出締切日 2022年11月7日（月）

◆SDゼミナール修了生のフォローアップ研修【2021年度中止により該当者なし】

◆第20回SDフォーラム

日 時 2022年10月30日（日）10：00～16：15

場 所 オンライン開催

全体テーマ 「ガバナンス改革と大学職員の役割」

参加費 加盟校／1,000円 左記以外／4,000円

申込期間 加盟大学・短期大学／2022年9月1日（木）10：00～10月7日（金）17：00

上記以外／2022年9月9日（金）10：00～10月7日（金）17：00
参加者数 163名（加盟校58名、非加盟校105名）

基調講演

テーマ1 社会に支持される大学と職員の役割
講師 吉武 博通 氏（情報・システム研究機構監事、東京家政学院理事長、筑波大学 名誉教授）

テーマ2 大学職員の現状・課題・展望
両角 亜希子 氏（東京大学大学院 教育学研究科 教授）

参加者数 161名（加盟校57名、非加盟校104名）

分科会

① テーマ 大学における戦略の意義と立案・推進の在り方
講師 吉武 博通 氏（情報・システム研究機構監事、東京家政学院理事長、筑波大学 名誉教授）

参加者数 88名（加盟校30名、非加盟校58名）

② テーマ 大学職員の未来を彩る最先端キャリア開発
～「プロティアン・キャリア」で大学における人的資本最大化～
講師 有山 徹 氏（一般社団法人 プロティアン・キャリア協会 代表理事）

参加者数 47名（加盟校17名、非加盟校30名）

③ テーマ 探究の時代における大学組織とは？
～高校生1万人に届ける「ディスカバ！」の事例から～
講師 今村 亮 氏（桜美林大学 入試部 高大連携コーディネーター）

参加者数 9名（加盟校4名、非加盟校5名）

情報交換会

参加者数 30名

【実施スケジュール（主要事項）】

3月24日（木） 25日（金）	SD 共同研修プログラム「知るほどなっとくビジネスマナー」
5月21日（土）	SD ゼミナール オリエンテーション
5月25日（水）	SD 共同研修プログラム「知るほどなっとくビジネスマナー」
5月28日（土）	SD ゼミナール（第1回）「アカデミック・ライティングの基礎」
6月4日（土）	SD ゼミナール（第2回）「大学の歴史と制度」
6月15日（水）	SD 共同研修プログラム「問題が見えれば、仕事が分かる！一問題分析のコツ」
6月11日（土）	SD ゼミナール（第3回）「アカデミック・リテラシーと政策提言レポート」
6月18日（土）	SD ゼミナール（第4回）「大学と社会」
6月25日（土）	SD ゼミナール（第5回）「大学の戦略とリーダーシップ」
7月2日（土）	SD ゼミナール（第6回）「大学と高大連携・高大接続」
7月6日（水）	SD 共同研修プログラム 「メンバーが「育つ」チーム作りープロティアン・キャリア理論に学ぶ自律型」
7月9日（土）	SD ゼミナール（第7回）「大学教育の質保証に向けた教学マネジメント」
7月16日（土）	SD ゼミナール（第8回）「大学と高等教育政策」
7月23日（土）	SD ゼミナール（第9回）「ブランディング・学生募集」

7月27日（水）	SD 共同研修プログラム「頭の中をすっきり視覚化！マインドマップ活用術」
8月4日（木）	SD 共同研修プログラム「学校法人会計から見える大学経営と業務」
9月10日（土）	SD ゼミナール公開プレゼンテーション
9月17日（土）	SD ゼミナール公開プレゼンテーションフォロー研修
9月22日（木）	SD 共同研修プログラム「大学職員業務、補助金獲得への道」
10月3日（月）	SD ゼミナール政策提言レポート一次提出締切日
10月30日（日）	第20回SDフォーラム
11月7日（月）	SD ゼミナール政策提言レポート最終提出締切日
11月18日（金）	SD 共同研修プログラム 「これからの大学職員“アカデミックアドバイザー”（基礎）」
12月15日（木）	SD 共同研修プログラム「中途退学予防最前線」

（3）京都高大連携研究協議会事業

【事業計画の概要および実績】

<概要>

高大連携事業は、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都府私立中学高等学校連合会、京都商工会議所及び当財団の連携によって「京都高大連携研究協議会」を組織し、2003年度から取り組んでいる。

現在、文部科学省では、変化の激しい時代において、新たな価値を創造していく力を育成するために「高大接続改革」の取り組みが進められている。その動向を十分に踏まえながら、各種事業を展開する。

◆高大連携教育フォーラム

高校・大学間の連携・接続教育問題における国内最新動向の情報共有、事例研究や京都における取り組みの情報発信に一定の評価を得ており、毎年200名前後の参加者を得ている。「高大接続改革」の動向を見据え、高等学校、大学の双方の視点を摺り合わせながらテーマを検討するとともに分科会構成を再度検討し、高等学校、大学関係者が相集い、交流できる企画となるよう検討する。

◆高大社連携フューチャーセッション

高校生・大学生のキャリア発達を促すことを目的として、設定したテーマについて、高校生・大学生・社会人といった世代、学校間を越えて対話・交流する。京都府北部地域、京都市内地域ともに多くの高校生・大学生の参加が得られるよう、高等学校関係者と連携を取りながら、高校生・大学生で構成する実行委員が主体となり企画を検討する。

◆教職員交流企画（旧京都高校教員交流会）

公立・私立を越えて、学校運営・授業運営上の悩みを共有し解決のヒントを探り合ったり、他校の取り組みを参考にし合ったり、授業改善に向け切磋琢磨するなど、高校教員同士が交流する機会を提供する。

引き続き本交流会の知名度向上を図るとともに、参加者自らが主体的に関与できるよう工夫しながら企画する。また、必要に応じて、大学教職員の参画について検討する。

◆第20回高大連携教育フォーラム

日 時 2022年12月3日（土）10：00～17：30

	特別分科会②（高大社連携キャリア教育）は、 2022年12月10日（土）14：30～16：00に実施
場 所	ハイブリッド開催 対面：キャンパスプラザ京都 オンライン：Zoom ウェビナー／ミーティング
テーマ	「2020年代を通じて実現すべき高大連携 —生徒・学生が『持続可能な社会の創り手』となるために—」
参加費	京都府内高等学校・大学教職員／1,000円 上記以外（学生・大学院生を除く）／2,000円
参加者数	155名 （高校教職員94名、大学教職員41名、大学生・大学院生1名、その他19名） 対面参加：87名 （高校教職員52名、大学教職員22名、大学生・大学院生1名、その他12名） オンライン参加：68名（高校教職員42名、大学教職員19名、その他7名）
総合司会	山本 以和子 氏（高大連携推進室員／京都工芸繊維大学 工芸科学部 教授）
趣旨説明	長谷川 豊 氏（高大連携推進室長／京都府立大学 公共政策学部 准教授）

記念講演

記念講演 1

テーマ	高等学校教育には何が求められているか ～「令和の日本型学校教育」答申の描くもの～
講師	荒瀬 克己 氏（独立行政法人教職員支援機構 理事長）

記念講演 2

テーマ	トランジション実現のための影響の大きな高校・大学での学びを 理論的、実証的に示す
講師	溝上 慎一 氏（学校法人桐蔭学園 理事長／桐蔭横浜大学 教授）

参加者数 148名（会場85名、オンライン63名）

パネルディスカッション

テーマ	どうすれば「持続可能な社会の創り手」を育成できるのか
コメンテーター	荒瀬 克己 氏 溝上 慎一 氏
事例報告者	伊藤 恵哉 氏（京都府教育委員会 高校教育課 指導主事） 滝本 順之 氏（京都市教育委員会 学校指導課 指導主事） 酒井 淳平 氏（立命館宇治高等学校 教諭）
コーディネーター	杉岡 秀紀 氏（高大連携推進室員／福知山公立大学 地域経営学部 准教授）

分科会

第1分科会：京都府教育委員会

テーマ	高大連携を継続・発展させる意義と工夫 ～夏期実習「地球環境と海の生態系」を通して～
報告者	本藤 聡仁 氏（京都府立西舞鶴高等学校 教諭）
報告者	鈴木 啓太 氏（京都大学 フィールド科学教育研究センター 助教）
コーディネーター	井上 実 氏（京都府教育委員会 高校教育課 指導主事）
参加者数	11名（会場4名、オンライン7名）

第2分科会：京都市教育委員会

テーマ 高校の探究学習は、キャリア発達にどのように影響しているのか
 報告者 古田 悠馬 氏（京都大学大学院 理学研究科 博士後期課程 1年）
 報告者 岩間 智哉 氏（京都府立大学 文学部 1年）
 報告者 三添 りん 氏（大阪教育大学 教育学部 1年）
 コーディネーター 乾 明紀 氏（京都橘大学 経済学部 准教授）
 加藤 健 氏（京都市教育委員会 学校指導課 指導主事）
 参加者数 33名（会場20名、オンライン13名）

第3分科会：京都府私立中学高等学校連合会

テーマ 『大学の学び』を展望する高校での学びと体験
 ～生徒の主体的・多面的な参加～
 報告者 大山口 暁 氏（京都産業大学附属高等学校 探究科主任）
 報告者 佐藤 賢一 氏（京都産業大学 生命科学部 教授）
 コーディネーター 塩田 明信 氏（京都産業大学附属高等学校 副教頭）
 参加者数 24名（会場11名、オンライン13名）

特別分科会①【高大接続】

テーマ 持続可能な社会の創り手の育成につながる高大接続
 ～国際比較から見える可能性～
 報告者 花井 渉 氏（九州大学 人間環境学研究院 教育学部門 准教授）
 報告者 細尾 萌子 氏（立命館大学 文学部 准教授）
 コーディネーター 山本 以和子 氏（京都工芸繊維大学 工芸科学部 教授）
 参加者数 15名（会場参加のみ）

特別分科会②【高大社連携キャリア教育】

日時 2022年12月10日（土）14：30～16：00
 テーマ 高大社連携フューチャーセッション成果報告
 ～生徒・学生実行委員会によるサードステージを振り返る～
 参加費 無料
 発表者 2022年度高大社連携フューチャーセッション実行委員
 コーディネーター 杉岡 秀紀 氏（福知山公立大学 地域経営学部 准教授）
 乾 明紀 氏（京都橘大学 経済学部 准教授）
 オブザーバー 滋野 哲秀 氏（元龍谷大学 文学部 教授）
 参加者数 7名（会場1名、オンライン6名）

◆2022年度高大社連携フューチャーセッション

日時 2022年11月3日（木・祝）13:00～16:30
 場所 キャンパスプラザ京都 2階ホール
 テーマ 「子どもが子どもらしく生きられる未来に！
 ～ヤングケアラー問題から考える、これからのニッポン～」
 ゲスト 特定非営利活動法人ふうせんの会 事務局
 西川 ゆかり 氏
 森田 香陽 氏
 山中 葉月 氏
 コーディネーター 乾 明紀 氏（京都橘大学 経済学部 准教授）
 杉岡 秀紀 氏（福知山公立大学 地域経営学部 准教授）
 オブザーバー 滋野 哲秀 氏（元龍谷大学 文学部 教授／元京都府立桃山高等学校 校長）

企画・運営 2022 年度高大社連携フューチャーセッション実行委員会
12 名（高校生 5 名、大学生 7 名）
参加者数 30 名（会場 8 名、オンライン 22 名）

◆京都高校教員交流会（第 15 回以降京都高校・大学教職員交流会に名称変更）

第 13 回・14 回【ハイブリッド形式】

日 時 第 13 回：2022 年 7 月 9 日（土）13：30～15：30
第 14 回：2022 年 10 月 15 日（土）13：30～15：30
会 場 ハイブリッド開催
・対面：キャンパスプラザ京都 5 階 第 2～4 演習室
・オンライン：Zoom ミーティング
テーマ 「総合的な探究の時間における教員の役割とは
ー探究は、教員としてのアイデンティティにどのような変化をもたらすのかー」
コーディネーター 滋野 哲秀 氏（元龍谷大学 文学部・元京都教育大学大学院 教授）
事例報告者 第 13 回：多々納 智 氏（京都府立宮津天橋高等学校 教諭）
第 14 回：高田 那緒 氏（京都市立堀川高等学校 教諭）
参加者数 第 13 回：24 名（高校教員 21 名、大学教職員 2 名、その他 1 名）
※オンライン参加者 14 名、会場参加者 10 名
第 14 回：13 名（高校教員 8 名、大学教職員 2 名、その他 3 名）
※オンライン参加者 6 名、会場参加者 7 名

◆京都高校・大学教職員交流会（旧京都高校教員交流会）

第 15 回・16 回【ハイブリッド形式】

日 時 第 15 回：2022 年 12 月 17 日（土）14：00～16：00
第 16 回：2023 年 2 月 4 日（土）14：00～16：00
会 場 ハイブリッド開催
・対面：キャンパスプラザ京都 4 階 第 4 講義室
・オンライン：Zoom ミーティング
テーマ 「探究を経験した学生は、大学でどのように成長しているのか」
コーディネーター 滋野 哲秀 氏（元龍谷大学 文学部・元京都教育大学大学院 教授）
事例報告者 探究を経験した大学生 若干名
参加者数 第 15 回：8 名（高校教員 5 名、大学教職員 2 名、大学生 1 名）
※オンライン参加者 2 名、会場参加者 6 名
第 16 回：17 名（高校教員 9 名、大学教職員 5 名、大学生 2 名、その他 1 名）
※オンライン参加者 12 名、会場参加者 5 名

【実施スケジュール（主要事項）】

7 月 9 日（土）	第 13 回京都高校教員交流会【ハイブリッド形式】
10 月 15 日（土）	第 14 回京都高校教員交流会【ハイブリッド形式】
11 月 3 日（木）	2022 年度高大社連携フューチャーセッション【対面形式】
12 月 3 日（土）	第 20 回高大連携教育フォーラム【ハイブリッド形式】
12 月 10 日（土）	第 20 回高大連携教育フォーラム特別分科会②（高大社連携キャリア教育）
12 月 17 日（土）	第 15 回京都高校・大学教職員交流会【ハイブリッド形式】
2 月 4 日（土）	第 16 回京都高校・大学教職員交流会【ハイブリッド形式】

各種委員会等の開催について

■開催報告■

(1) FD 事業

① FD フォーラム企画検討委員会

6月24日(金)	第1回FDフォーラム企画検討委員会
8月2日(火)	全体テーマ・シンポジウムに関する意見交換会
8月30日(火)	第2回FDフォーラム企画検討委員会
10月7日(金)	第3回FDフォーラム企画検討委員会
11月4日(金)	第4回FDフォーラム企画検討委員会
2月8日(水)	第5回FDフォーラム企画検討委員会
3月29日(水)	第6回FDフォーラム企画検討委員会

② FD 企画研究委員会

5月31日(火)	第1回FD企画研究委員会
7月12日(火)	第2回FD企画研究委員会
9月20日(火)	第3回FD企画研究委員会
12月13日(火)	第4回FD企画研究委員会
3月28日(火)	第5回FD企画研究委員会

(2) SD事業

③ SD 研修委員会

5月11日(水)	第1回SD研修委員会
6月29日(水)	第2回SD研修委員会
9月14日(水)	第3回SD研修委員会
12月14日(水)	第4回SD研修委員会
3月8日(水)	第5回SD研修委員会

(3) 京都高大連携研究協議会事業

以下の④・⑤の会議は、大学コンソーシアム京都に設置された専門委員会とは異なり、京都高大連携研究協議会に設置された委員会である。

④ 京都高大連携研究協議会 役員会

7月1日(金)	第1回役員会(書面会議)
3月9日(木)	第2回役員会(書面会議)

⑤ 京都高大連携研究協議会 運営委員会

7月1日(金)	第1回運営委員会
2月3日(金)	第2回運営委員会
3月9日(木)	第3回運営委員会

⑥ 高大連携推進室会議

4 月 22 日（木）	第 1 回高大連携推進室会議
5 月 18 日（木）	第 1 回拡大高大連携推進室会議
6 月 14 日（火）	第 2 回高大連携推進室会議
9 月 15 日（木）	第 3 回高大連携推進室会議
11 月 22 日（火）	第 4 回高大連携推進室会議
1 月 19 日（木）	第 5 回高大連携推進室会議
2 月 3 日（金）	第 2 回拡大高大連携推進室会議
2 月 14 日（火）	第 6 回高大連携推進室会議
3 月 8 日（水）	第 7 回高大連携推進室会議
3 月 24 日（金）	第 3 回拡大高大連携推進室会議
3 月 30 日（木）	第 8 回高大連携推進室会議

学生支援事業部 事業報告

■事業進捗■

(1) 京都学生祭典事業

【事業計画の概要および実績】

<概要>

京都学生祭典は、「大学のまち京都」を盛り上げるべく 2003 年から開催され、2022 年度で第 20 回を迎える。学生で組織する京都学生祭典実行委員会は、10 月に主催する祭典当日の企画・運営だけでなく、近年では、1 年間を通して、地域交流を深めるため精力的に活動を行っている。

時代の変化の中には明るい話題だけでなく、将来に不安を感じる人もいるなか、「京都学生祭典だからこそできることは何か」と学生自ら問いに向き合い、学生の力を結集させたお祭りをつくり、京都から日本を盛りあげていくことを目指す。

事務局の一翼を担う当事業部では、祭典に向けての支援に加え、1 年間の活動を学生の成長の機会として捉え、年間を通じた支援体制の整備を行う。

I. 第 20 回京都学生祭典

大学の枠を越えた学生の力を結集させ、「大学のまち・学生のまち」京都の魅力を社会に発信し、京都の地域活性化に貢献するとともに、その活動を通して学生が共に成長していくことを目的に、「京都学生祭典」を京都学生祭典組織委員会の一員として共催した。

《開催日時》2022 年 10 月 9 日（日）11 時 00 分～19 時 00 分

※雨天の影響により 16 時までと時間を短縮して実施

《会 場》平安神宮前・岡崎プロムナード（京都市左京区）/公式 YouTube Live

《テ ー マ》「恩、咲けべ！」 ※読み方「おん、さけべ」

《企画趣旨》第 20 回京都学生祭典本祭では、京都学生祭典の長い歴史を築けたことに感謝を感じ、その想いを新たな形で表現する。これは単純な回帰という意味ではなく、過去に行われたイベントや、過去の京炎そでふれ！の演舞、そして OBOG を交えた企画等や協賛・協力をいただいた企業様など、過去を基に新しい物事に挑戦していくことを目指す。

《企画内容》第 18 回は完全オンライン、第 19 回はハイブリッド形式であった。第 20 回という記念の回であり、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底して、対面を中心とした企画とし一部企画は昨年同様にオンラインで実施する。

【実施スケジュール（主要事項）】

12 月 16 日（木）	第 20 回京都学生祭典事務局会議（2021 年第 6 回）
1 月 21 日（金）	第 20 回京都学生祭典企画検討委員会（2022 年第 1 回）
2 月 17 日（木）	第 20 回京都学生祭典事務局会議（2022 年第 1 回）
3 月 15 日（火）	第 20 回京都学生祭典企画検討委員会（2022 年第 2 回）
3 月 29 日（火）	第 20 回京都学生祭典組織委員会（2022 年第 1 回）
4 月 14 日（木）	第 20 回京都学生祭典事務局会議（2022 年第 2 回）
6 月 3 日（金）	第 20 回京都学生祭典企画検討委員会（2022 年第 3 回）

6月16日(木)	第20回京都学生祭典事務局会議(2022年第3回)
7月15日(金)	第20回京都学生祭典企画検討委員会(2022年第4回)
8月17日(水)	第20回京都学生祭典事務局会議(2022年第4回)
9月7日(水)	第20回京都学生祭典企画検討委員会(2022年第5回)
9月14日(水)	第20回京都学生祭典組織委員会(2022年第2回)
10月20日(木)	第20回京都学生祭典事務局会議(2022年第5回)
11月8日(火)	第20回京都学生祭典企画検討委員会(2022年第6回)
12月2日(金)	第20回京都学生祭典組織委員会(2022年第3回)
12月14日(水)	第21回京都学生祭典事務局会議(2022年第6回)
1月31日(火)	第21回京都学生祭典企画検討委員会(2023年第1回)
2月16日(木)	第21回京都学生祭典事務局会議(2023年第1回)
3月14日(火)	第21回京都学生祭典企画検討委員会(2023年第2回)
3月24日(金)	第21回京都学生祭典組織委員会(2023年第1回)

◆第20回京都学生祭典実行委員会研修実施一覧

開催日	テーマ	対象	講師/所属	参加者数
2月16日(水)	「祭典の歴史を学ぶ」 (オンライン開催)	全員	企画検討委員長 木村 光博 氏	14名
5月18日(水)	「営業研修」	営業部	株式会社アール工芸印刷社 代表取締役社長 梶原孝典 氏	5名
9月8日(木)	救命講習	全員	京都市消防局 教育管理課 乾氏	8名

◆第20回京都学生祭典実行委員会活動内容一覧

開催日	活動内容	担当部	参加者数
12月4日(土)	紫竹ルネサンス	全体	7名
12月11日(土)	子ども食堂パーティ応援	全体	4名
12月17日(金)	子ども食堂パーティ応援	全体	5名
12月20日(月)	岡崎地域夜警	全体	9名
12月23日(木)	京都市表敬訪問	第19回および第20回四役	8名
2月19日(土)	子ども食堂パーティ応援	全体	3名
3月17日(木)	京都府表敬訪問	第20回四役	4名
3月18日(金)	京都市表敬訪問	第20回四役	4名
3月31日(木)	子ども食堂パーティ応援	全体	2名
4月9日(土)	子ども食堂パーティ応援	全体	1名
4月13日(水)	FM KYOTO α STATION BISTRO SUNSHINE 出演	実行委員長	1名
4月27日(水)	京都経済同友会通常総会協賛依頼	実行委員長、営業部長	2名

5月14日(土)	留学生交流会	年間交流部	8名
5月28日(土)	子ども食堂パーティ応援	全体	1名
5月29日(日)	新入生歓迎会	全体	33名
6月20日(月)	岡崎地域夜警	全体	5名
7月6日(水)	パートナー交流会	全体	33名
7月20日(水)	岡崎地域夜警	全体	9名
8月24日(水)	さんさん山城(農福連携)ボランティア	全体	3名
8月30日(火)	京都府表敬訪問	第20回四役	3名
9月3日(土)	さんさん山城(農福連携)ボランティア	全体	5名
9月9日(金)	京都市表敬訪問	第20回四役	4名
9月17日(土)	平安神宮成功祈願	全体	28名
9月18日(日)	さんさん山城(農福連携)ボランティア	全体	4名
9月23日(金)	ウクライナ交流会	執行部	2名
9月30日(金)	K-Style radio 出演	実行委員長	1名
10月1日(土)	紫竹まつり	全体	14名
10月7日(金)	京都みやびじょん 出演	実行委員長	1名
12月2日(金)	感謝祭・成果報告会	全体	次ページ 以降参照
1月31日(金)	京都市表敬訪問	第20回および第21回四役	8名

◆新実行委員説明会

4月より新実行委員の募集を開始したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大学においての新歓活動が困難であった。HPやSNSを活用し説明会についての投稿をしたうえで、可能な限り対面で説明会を行った。3月はまん延防止等重点措置が発令されている都合上オンラインでの説明会を3回実施した。4月は対面で3回、オンラインで3回実施し、5月6月も定期的にも実施した。年間を通して実行委員加入に努めるが、説明会の開催は7月までで一区切りとした。

◆第20回実行委員構成人数(10月時点)

構成人数 141名／21大学 0大学院 0短期大学 0専修学校(昨年同時期 114名)

① 財団加盟校 計140名

(単位:名)

加盟校名	本年度	前年度	加盟校名	本年度	前年度
京都大学	3	4	京都芸術大学	0	0
京都教育大学	2	0	京都橘大学	1	0
京都工芸繊維大学	3	4	京都ノートルダム女子大学	1	3
京都市立芸術大学	0	0	京都美術工芸大学	1	3
京都府立大学	0	1	京都文教大学	4	3
京都府立医科大学	0	0	京都文教短期大学	0	0
福知山公立大学	0	2	京都薬科大学	0	0

池坊短期大学	0	0	嵯峨美術大学	0	0
大谷大学	1	0	嵯峨美術短期大学	0	0
京都医療科学大学	0	1	種智院大学	0	0
京都外国語大学	5	1	成安造形大学	3	0
京都外国語短期大学	0	0	同志社大学	15	5
京都華頂大学	0	4	同志社女子大学	13	7
華頂短期大学	0	0	花園大学	0	0
京都看護大学	0	0	佛教大学	2	4
京都経済短期大学	1	0	平安女学院大学	10	6
京都光華女子大学	0	5	明治国際医療大学	0	0
京都光華女子大学短期大学部	0	0	立命館大学	19	9
京都産業大学	24	22	龍谷大学	1	0
京都女子大学	20	20	龍谷大学短期大学部	0	0
京都精華大学	0	0	大阪医科薬科大学	0	0
京都西山短期大学	0	0	京都情報大学院大学	0	0
京都先端科学大学	11	9	放送大学・京都学習センター	0	0

② 財団非加盟校 1 名（摂南大学 1 名）

③ 各部署人数 (単位：名)

部署名	本年度	前年度	部署名	本年度	前年度
四役	4	4	年間交流部	15	12
企画運営部	55	39	営業部	12	11
警備部※	0	6	広報部	27	16
おどり普及部	19	12	総務部	16	15

※第 20 回京都学生祭典実行委員会より警備部は企画運営部に統合

◆第 20 回おどり手構成人数（10 月時点）

構成人数 714 名／24 大学 0 大学院 0 短期大学 0 専修学校（前年同時期：788 名）

① 財団加盟校 707 名 (単位：名)

加盟校名	本年度	前年度	加盟校名	本年度	前年度
京都大学	36	27	京都芸術大学	0	0
京都教育大学	6	13	京都橘大学	92	70
京都工芸繊維大学	10	3	京都ノートルダム女子大学	24	24
京都市立芸術大学	0	0	京都美術工芸大学	0	0
京都府立大学	22	10	京都文教大学	30	25
京都府立医科大学	4	0	京都文教短期大学	0	0
福知山公立大学	0	0	京都薬科大学	34	74
池坊短期大学	0	0	嵯峨美術大学	0	0

大谷大学	5	7	嵯峨美術大学短期大学部	0	0
京都医療科学大学	0	0	種智院大学	0	0
京都外国語大学	1	0	成安造形大学	0	0
京都外国語短期大学	0	0	同志社大学	67	32
京都華頂大学	0	0	同志社女子大学	57	73
華頂短期大学	0	0	花園大学	0	0
京都看護大学	0	0	佛教大学	3	0
京都経済短期大学	0	1	平安女学院大学	1	1
京都光華女子大学	16	22	明治国際医療大学	0	0
京都光華女子大学短期大学部	0	0	立命館大学	81	144
京都産業大学	63	115	龍谷大学	65	65
京都女子大学	90	69	龍谷大学短期大学部	0	0
京都精華大学	0	1	大阪医科薬科大学	0	0
京都西山短期大学	0	0	京都情報大学院大学	0	0
京都先端科学大学	0	0	放送大学・京都学習センター	0	0

② 財団非加盟校 7 名（大阪産業大学 2 名、奈良女子大学 3 名、関西外国語大学 1 名、関西医科大学 1 名）

1. 本祭

第 20 回京都学生祭典（本祭）

テーマ「恩、咲けべ！」 10 月 9 日（日）11：00～19：00

@平安神宮前・岡崎プロムナード一帯

※雨天の影響により 16 時までと時間を短縮して実施

※一部企画を公式 YouTube チャンネル（YouTube Live にて実施）配信

《来場型企画》

ステージ企画 ※平安神宮前など 3 つのステージにて有観客で行う。一部企画をライブ配信。	Opening 企画
	開演！京炎そでふれ！
	パレード
	20thx スペシャルステージ
	京炎 そでふれ！コンテスト企画
	京炎 そでふれ！ホストチーム紹介
	京炎 そでふれ！スペシャルバージョン
	Kyoto Student Music Award
	総おどり
	Grand Finale 企画
岡崎プロムナード企画	ファミリーこんだてコンテスト
岡崎グラウンド企画	体験企画、インターナショナル企画

《ハイブリッド型企画》

ステージ企画	全国おどりパフォーマンス
--------	--------------

全国おどりパフォーマンスについて、当初は完全オンラインの視聴型企画を予定していたが、新型コロナウイルス感染症への対応状況が変化してきていることや、参加者から対面で参加したいという要望が多かった。このことを踏まえ、対面で参加可能な団体はステージで参加し、対面で参加できない団体はオンラインで参加するハイブリッド型企画に変更することとした。

《来場者数》

全体来場者数としては 21,082 人、YouTube Live の当日視聴回数は 2,149 回であった。

2. プレイベント

《春の合同新歓》

- ・学内において新歓活動を行う機会が少ないインカレサークルや非公認サークルを呼び、新入生を対象に新歓活動を行う。
- ・音楽団体や京炎そでふれ！ホストチームを呼び、地域の方や来場者に京都学生祭典の活動を知ってもらう。

日 時：4月23日（土）11：00～17：00

場 所：梅小路公園 野外ステージ、芝生広場

企画内容：ステージ企画（音楽団体、京炎そでふれ！ホストチーム演舞）

ブース企画（京都学生祭典紹介、インカレ団体新歓）

体験型企画（牛乳パック灯籠作り、西陣織しおり作り、組みひも作り）

- ・当日は天候にも恵まれ、新入生と一般の方合わせて約 1,400 人の参加があった。大きなトラブルもなく、盛況のうちに終えることができた。

《夏のプレイベント》

日 時：9月4日（日） 10時～17時

場 所：イオンモール KYOTO Sakura 館 1階センターコート

企画内容：体験型企画（京炎そでふれ！ワークショップ、巨大縁日神経衰弱、ペタンク体験）

- ・当日は約 320 名（延べ人数）の参加があった。四畳半タイムマシンブルースとのコラボイベントとしてプレイベントと本祭連動型の企画も行い、大きなトラブルもなく、終えることができた。

日 時：9月11日（日） 10時～17時

場 所：イオンモール京都桂川 竹の広場、月の広場

企画内容：ステージ企画（学生団体、京炎そでふれ！演舞）

- ・当日は約 1,200 名（述べ人数）、学生団体 3 団体の参加があった。ステージ運営での問題点なども見つけることが出来、充実したプレイベントとなった。

3. 広報関係

(1) 広報方針

- ・前年度の配布実績に基づき作成。広報制作物の仕様変更として、B7 冊子の作成を取りやめ、代わりにポストカードを 25,000 部作成した。また、公式パンフレットは本祭来場者に配布を目的として 35,000 部作成した。

(2) 本機校正を伴う広報物の制作・編集業務の包括委託契約

- ・株式会社アール工芸印刷社と包括委託契約を締結した。キックオフミーティングにて実行委員主導で定期的に打ち合わせを実施した。

(3) 新聞広告の掲載

- ・10月2日（日）京都新聞に、1面広告を掲載した。広告代理店を通さずに京都新聞社と直接やり取りを行った。

(4) 京都市「市民しんぶん区版」「市政広報板」への掲載

- ・京都市と調整し、9月15日（木）市民しんぶん区版と9月16日（金）市政広報板に掲載した。

4. 営業関係

(1) 営業方針

- ・営業部の実行委員数が少ないことから、実行委員全員が一丸となり営業活動を行うこととした。

(2) 協賛アプローチ

《スペシャルパートナー》

- ・3月16日（水）：協賛案内実施。
- ・4月25日（月）：協賛回答あり。今年は減額となるがスペシャルパートナー枠で協賛。

《KYO-SENSE パートナー》

- ・6月8日（水）：協賛案内実施。
- ・6月13日（月）：協賛回答あり。昨年同様の額とし KYO-SENSE パートナー枠で協賛が確定。

《その他協賛企業》

- ・4月上旬：オフィシャルパートナーへアプローチ開始。
- ・4月下旬：すべての既存協賛企業様へアプローチ開始。
- ・5月中旬：新規企業へアプローチ開始。
- ・6月下旬：協賛企業アプローチ終了。

期日終了後に2社から追加で協賛したいとの連絡があった。

(3) 個人サポーター

- ・10月末まで募集（実績：183組）

(4) パートナー交流会

日 時：7月6日（水）17：30～19：00 対面とオンライン（Zoom）併用のハイブリッド開催

参加者：対面参加企業 11社/13名 オンライン参加企業 3社/4名

実行委員参加人数 33名

(5) 感謝祭・成果報告会

日 時：12月2日（金） 対面とオンライン（Zoom）併用のハイブリッド開催

参加者：実行委員 47 名

成果報告会 45 名（現地：35 名、オンライン 10 名）

感謝祭 37 名（現地：33 名、オンライン 4 名）

5. 公募関係

(1) メインビジュアル

- ・1月13日（木）～3月15日（火）募集受付、エントリー：10 件。

実行委員会による審査を経て決定した。

(2) 本祭企画

- ・4月より公式 HP にて参加団体の募集を開始した。ファミリーこんだてコンテストは 6 月 10 日（金）を締め切りとし、13 団体の申し込みがあった。学生団体以外ではママキラ☆プロジェクト、岡崎自治連合会にも出店いただいた（コンテスト形式にはしない）。Kyoto Student Music Award は 6 月末締め切りとし、31 団体の申し込みがあった。全国おどりパフォーマンスは 6 月 3 日（金）締め切りとしていたが、実施形式を変更したことにより 6 月末まで締め切りを延長し、44 団体の申し込みがあった。

6. 新型コロナウイルス感染症防止対策

(1) ガイドライン

本祭当日に食事を提供する企画「ファミリーこんだてコンテスト企画」を行うことから、加盟校に所属する公衆衛生学の専門家の意見を踏まえつつ、新たにガイドラインを作成した。昨年度と同様の企画については、昨年作成したガイドラインに基づき活動した。

(2) 感染防止対策を徹底した活動

各実行委員は自身が在籍する大学の課外活動方針を遵守したうえで、昨年度に作成したガイドラインに基づき 3 密（密閉・密集・密接）を避けるといった基本的な感染防止策の徹底に加え、日々の体調管理、屋内外での対面形式で活動する際の活動申請書の事前提出、Zoom などを活用したオンラインでの会議や営業活動を行った。

7. 交通規制・警備関係

(1) 交通規制

6 月 24 日（金）に警察署を訪問し、交通規制をかけて本祭を実施したいことを打診。その後、企画内容を調整し、改めて 7 月 8 日（金）に警察署を訪問し、交通規制をかけて本祭を実施することで合意した。

8 月 19 日（金）に京都市交通局を訪問し、当日のバス迂回ルートについて調整した。

(2) 警備

交通規制を行うにあたり、警備員を配置する必要があり、警備会社に対し仕様書を提示し、見積もり徴取した。3 社から見積もりが届き、協議の結果最安値であり、昨年の実績もある株式会社コトナと

業務委託契約を締結し依頼した。

8. その他

(1) おどり普及部活動内容一覧

開催日	活動内容	参加実行委員数	参加者数
1月23日(日)	公益社団法人日本青年会議所 京都会議	18名	18名
3月6日(日)	Up to YOU!! in 神戸	30名	36名
4月9日(土)	鴨川茶店	10名	10名
5月3日(火)	京炎そでふれ! 決起集会	10名	57名
5月8日(日)	第16回大阪ベイエリア祭 World あぼろん	16名	46名
5月11日(水)	京都市立大原小中学校 出前教室	2名	38名
5月13日(金)	京都市立大原小中学校 出前教室	2名	38名
5月31日(火)	京都市立大原小中学校 出前教室	3名	38名
6月1日(水)	京都市立大原小中学校 出前教室	3名	38名
6月22日(水)	京都府立南山城支援学校 出前教室	3名	26名
7月9日(日)	Sailing KOBE	46名	44名
7月13日(水)	京都府立南山城支援学校 出前教室	3名	26名
7月25日(月)	京都市立中京中学校 出前教室	3名	-
7月31日(日)	アニメ「女子高生と魔法のノート」完成披露上映会	1名	-
8月6日(土)	鴨川納涼祭	15名	-
9月2日(金)	京都市立梅津北小学校	2名	75名
9月2日(金)	京都教育大学附属京都小中学校	3名	20名
9月9日(金)	京都教育大学附属京都小中学校	3名	20名
9月10日(土)	秋の One Day Special2022	14名	-
9月17日(土)	京都餃子大作戦	11名	-
9月20日(火)	京都市立梅津北小学校	2名	75名
9月29日(木)	洛北ロータリークラブ	16名	-
9月30日(金)	京都教育大学附属京都小中学校	2名	20名
9月30日(金)	京都教育大学附属京都小中学校	2名	20名
11月9日(水)	京都府警察学校	4名	17名
11月14日(月)	京都府警察学校	5名	17名
11月30日(月)	京都教育大学附属京都小中学校	1名	20名
12月3日(土)	養正ワイワイフェスタ	16名	-
12月21日(水)	京都府警察学校	7名	17名
12月26日(月)	京都府警察学校	6名	17名
1月11日(水)	京都府警察学校	7名	17名
1月21日(土)	京都府警察学校	6名	16名

(2) 本祭施工業者選定

- ・本祭施工及び運営支援業務委託に関わる説明会を3月3日（木）に開催。3月29日（火）見積書提出締め切り。1社より見積書の提出があった。6月3日（金）開催の第3回企画検討委員会にて承認された。

II. 第21回京都学生祭典

- ・12月2日（金）開催の第3回組織委員会にて第21回京都学生祭典実行委員会が発足した。
- ・メインビジュアルは公募して決定する。募集期間は4月1日（土）～5月26日（金）
- ・3月14日付2023年第2回企画検討委員会にて第21回のテーマが「飛んで、翔けろ！～京に輝く学生の力～」に決定した。
- ・本祭施工に及び運営支援業務委託に関わる説明会を3月22日（水）に開催した。

(2) 京都国際学生映画祭事業

【事業計画の概要および実績】

<概要>

京都国際学生映画祭は、学生の実行委員会が運営する日本最大規模の国際学生映画祭で、2002年（第5回）から財団が単独で主催している。2022年度においても、国内外を問わず実行委員が広く学生作家の映像作品をコンペ形式で募集し、選考した作品を上映する第25回京都国際学生映画祭の企画や運営、PRを1年間担う。

京都国際学生映画祭は、文化芸術都市であり、「学生のまち」でもある京都で、学生クリエイターの発掘や情報発信、国際交流を深める上で開催する意義は大きい。映画祭を支える実行委員は人員不足が続いていたが、2021年度に実地開催できたこともあり2022年度は20名超の実行委員が継続することになった。引続き、新規実行委員の獲得を目指しつつ、実行委員の成長を促すための支援を行う。今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止対策としてZoom等のWeb会議システムを活用し、実行委員とのコミュニケーションを図り、当該事業を展開する。

<実績>

【実施スケジュール（主要事項）】

2022年	
3月16日（水）	2021年度 京都国際学生映画祭 第6回企画検討委員会
4月1日（金）	コンペ作品募集開始および新規実行員募集の案内・広報開始
4月1日（金）10時 ～7月22日（金）16時	第25回京都国際学生映画祭コンペティション作品募集期間
4月16日（土）	第25回京都国際学生映画祭実行委員会発足
	第1回研修会（ハイブリッド開催）
4月23日（土）	春の合同新歓（梅小路公園）
6月25日（土）	第2回研修会（ハイブリッド開催）
7月9日（土）	第3回研修会（ハイブリッド開催）

7月21日(木)	2022年度 京都国際学生映画祭第1回企画検討委員会
8月21日(日)～22日(月)	プレイベント in 高円寺シアターバックス
10月14日(金)	京都国際映画祭2022にて昨年度グランプリ作品上映
10月27日(木)	第2回企画検討委員会
11月24日(木)	最終審査会
12月10日(土)	映画上映企画 SHINPA Vol.14にて昨年度入選作品上映
12月11日(日)	プレイベント in 京都国際マンガミュージアム
2023年	
1月22日(日)	アップリンク京都企画
1月25日(水)	第3回企画検討委員会
1月29日(土)	映画上映企画 SHINPA Vol.15にて昨年度入選作品上映
2月3日(金)～5日(日)	第25回京都国際学生映画祭 in 京都文化博物館フィルムシアター オンライン配信
2月10日(金)～19日(日)	
3月15日(水)	第4回企画検討委員会

◆第25回実行委員構成人数＜2月時点＞

構成人数：51名 大学16 短期大学0 専修学校0 （前年度：38名 内非加盟校20名）

① 加盟校 計40名

大学・短期大学名	本年度	前年度	大学・短期大学名	本年度	前年度
京都大学	7	0	京都先端科学大学	0	0
京都教育大学	0	0	京都橘大学	0	0
京都工芸繊維大学	0	0	京都ノートルダム女子大学	0	0
京都市立芸術大学	0	0	京都美術工芸大学	1	0
京都府立大学	1	0	京都文教大学	0	0
京都府立医科大学	0	0	京都文教短期大学	0	0
福知山公立大学	0	0	京都薬科大学	0	0
池坊短期大学	0	0	嵯峨美術大学	0	0
大谷大学	0	0	嵯峨美術大学短期大学部	0	0
京都医療科学大学	0	0	種智院大学	0	0
京都外国語大学	6	4	成安造形大学	0	0
京都外国語短期大学	0	0	同志社大学	7	4
京都華頂大学	0	0	同志社女子大学	2	0
華頂短期大学	0	0	花園大学	0	0
京都看護大学	0	0	佛教大学	1	2
京都経済短期大学	0	1	平安女学院大学	0	0
京都芸術大学	0	0	明治国際医療大学	0	0
京都光華女子大学	0	0	立命館大学	12	2
京都光華女子大学短期大学部	0	0	龍谷大学	1	1
京都産業大学	1	1	龍谷大学短期大学部	0	0

京都女子大学	1	1	大阪医科薬科大学	0	0
京都精華大学	0	0	京都情報大学院大学	0	0
京都西山短期大学	0	0	放送大学・京都学習センター	0	0

② 非加盟校：11 名

(大阪大学 7 名、大阪府立大学 1 名、群馬大学 1 名、神戸女学院大学 1 名、神戸大学 1 名)

【特記事項】

進捗報告（第 25 回）

① 国内部門

・第 25 回京都国際学生映画祭コンペティション作品募集

(2022 年 4 月 1 日 (金) 10 時 (JST) ～7 月 22 日 (金) 16 時 (JST))

[] はアニメーション作品数 (過年度作品募集結果含む)

	国内	海外	総数
2022 年度 (第 25 回) 受付作品数	160 [22]	221 [55] (29 ケ国)	381
2021 年度 (第 24 回) 受付作品数	172 [34]	143 [52] (25 ケ国)	315
2020 年度 (第 23 回) 受付作品数	100 [16]	272 [33] (22 ケ国)	372
2019 年度 (第 22 回) 受付作品数	101 [12]	176 [45] (29 ケ国)	277
2018 年度 (第 21 回) 受付作品数	98 [23]	490 [115] (33 ケ国)	588
2017 年度 (第 20 回) 受付作品数	129 [32]	356 [84] (38 ケ国)	485
2016 年度 (第 19 回) 受付作品数	167 [70]	372 [116] (41 ケ国)	539
2015 年度 (第 18 回) 受付作品数	123 [31]	94 [27] (17 ケ国)	217

・最終審査員は以下の 3 名に決定 (11 月 24 日 (木) 最終審査)

犬童一心氏 (1960) : 『ジョゼと虎と魚たち』、『のぼうの城』、『ハウ』

李闘士男氏 (1964) : 『デトロイト・メタル・シティ』、『幕末高校生』、『神様はバリにいる』

早川千絵氏 (1976) : 『PLAN 75』(第 75 回カンヌ国際映画祭「カメラドール 特別表彰」受賞)、
『十年 Ten Years Japan』

② 企画部門

(1) オンライン配信企画

・映画『逆光』監督・主演 須藤 蓮氏と実行委員によるトークセッションを公式 YouTube にて
配信中 (4/5 収録)

・応援メッセージ

映画監督、脚本家など映像業界で活躍されている方々よりいただいた応援メッセージを公式
YouTube にて配信中。

【ご協力いただいた方々】

石川慶氏、岩井俊二氏、芋生悠氏、加藤マニ氏、小林達夫氏、佐伯日菜子氏、周防正行氏、
堤幸彦氏、敦賀零氏、二宮健氏、中島貞夫氏、前野朋哉氏、松居大悟氏、矢田部吉彦氏、
ヤン ヨンヒ氏、行定勲氏

(2) プレイベント

1) 京都国際学生映画祭 第 24 回入選作品上映会 in 東京

日程：8 月 21 日（日）～22 日（月）

会場：高円寺シアターバックス

内容：第 24 回入選 18 作品のうち 15 作品を上映

来場者数：60 名 参加実行委員数：7 名

2) 京都国際映画祭 2022 にて昨年度グランプリ作品上映

日程：2022 年 10 月 14 日（金）

会場：ヒューリックホール京都

来場者数：25 名 参加実行委員数：2 名

内容：ヒューリックホール京都にて、昨年度グランプリ作品『Intermezzo』上映と実行委員が登壇して学生映画の魅力や本映画祭の PR や最終審査員の発表を行った。

3) プレイベント in 京都国際マンガミュージアム

日程：12 月 11 日（日）

会場：京都国際マンガミュージアム 多目的映像ホール

来場者数：106 名 参加実行委員数：22 名

内容：第 24 回入選作品・映画『ライチ☆光クラブ』の上映&トークセッション

ゲスト：古屋兎丸氏、田中勇也氏

4) UPLINK 京都 × KISFVF

日程：2023 年 1 月 22 日（日）

会場：UPLINK 京都

来場者数：7 名 参加実行委員数：9 名

内容：昨年度最終審査員賞（矢田部吉彦賞）『難若者』の三代朋也監督をお迎えして、同作品の上映と舞台挨拶を行った。また、同館のギャラリースペースにて展示による第 25 回入選作品の紹介や、トレーラーを上映した。

5) 映画上映企画 SHINPA Vol.14 ・ Vol.15 にて昨年度入選作品上映

◆SHINPA Vol.14

日程：12 月 10 日（土）

会場：Shibuya Loft9

参加実行委員数：2 名

◆SHINPA Vol.15

日程：2023 年 1 月 29 日（日）

会場：京都みなみ会館

参加実行委員数：2 名

内容：SHINPA vol.14 では、LOFT9 Shibuya にて昨年度入選作品、クリス・ザハリエフ監督の『One Elevator Apart』、SHINPA vol.15 では京都みなみ会館にて昨年度グランプリ作品、キム・レア・サカール監督の『Intermezzo』と、それぞれの監督からのビデオメッセージも併せて上映。上映後には実行委員が登壇し、本祭の PR を行った。

③ 国際部門

(1) 翻訳ボランティア募集開始

6月初旬より、公式WEBサイト、公式SNS広報開始。7月17日（日）、7月27日（水）にオンラインにて説明会を実施。（申込者数：24名）

④ 広報部門

(1) 渉外

- 1) 第24回京都国際学生映画祭：協賛/後援先への事業報告 4月5日（火）完了
- 2) 第25回京都国際学生映画祭：協賛依頼

新型コロナウイルス感染症の影響による社会情勢を考慮しながら、依頼方法を検討し、今年度も協賛依頼を継続。

第25回協賛金 12社等+物品提供（第24回-13社等+物品、第23回-7社等+物品）

(2) 広報

- 1) コンペ作品および新規実行員募集の案内・広報開始
Twitter、Facebook等SNSにてコンペティション作品募集、新規実行委員募集の案内。
- 2) 応援メッセージ
オンライン配信企画の応援メッセージを公式YouTubeにて配信。

(3) 制作

- 1) コンペ作品および新規実行員募集チラシ/ポスター制作
- 2) 第25回京都国際学生映画祭チラシ・ポスター・チケット
- 3) 第25回京都国際学生映画祭公式カタログ

⑤ 入選作品決定

国内：3件 [1] 海外：13件 [3]（8ヶ国） 計16件 ※ [] はアニメーション作品数

※色付きはアニメーション作品

No.	原題	監督名	尺	学校	所在国
1	サカナ島胃袋三腸目	若林萌	17	東京藝術大学大学院	日本
2	帰る	徐逸文	26	京都市立芸術大学	日本
3	ただいま	劉波	48	武蔵野美術大学	日本
4	The Falling Angels	YU CHE WU	44	National Taiwan University of Arts	台湾
5	Other Half	Lina Kalcheva	14	National Film and Television School(UK)	イギリス
6	The Seine's Tears	Yanis Belaid, Eliott Benard, Nicolas Mayeur, Etienne Moulin,	9	Pôle 3D	フランス

		Hadrien Pinot, Lisa Vicente, Pilippine Singer, Alice Letailleur			
7	Fatjona	Steve Bache	28	Filmakademie Baden- Württemberg, Germany	ドイツ
8	The things we hoped last summer	Park Jongwoo	35	Korea National University of Arts	韓国
9	SHELTER	Kim Eunkyung	35	Korea National University of Arts	韓国
10	Jitterbug	Su Sion	24	Korea National University of Arts	韓国
11	Identibye	Sajjad ShahHatami	15	Azad university	イラン
12	THE OPPONENT	FEDERICO RUSSOTO	17	CENTRO SPERIMENTALE DI CINEMATOGRAFIA	イタリア
13	The Woman with the Dog	Jo Yukyeong	29	Chung-ang University	韓国
14	Where No One Lives	Li Anne Liew	19	Chapman University	アメリカ
15	Restless Is the Night	Xiaoxue Meng, Yuehan Tan	4	University of Southern California	中国、 アメリカ
16	Lunchbox	OH Han-wool	19	Sungkyunkwan University	韓国

⑥ 最終審査会結果

2022 年 11 月 24 日（木）にキャンパスプラザ京都にて開催された最終審査会の結果、以下の通り受賞者が決定した。

	作品名	部門	国
 グランプリ	Lunchbox	実写	韓国
 準グランプリ	The Seine's Tears	アニメ	フランス
最終審査員賞（犬童一心賞）	The things we hoped last summer	実写	韓国
最終審査員賞（早川千絵賞）	The Falling Angels	実写	台湾
最終審査員賞（李闘士男賞）	THE OPPONENT	実写	イタリア
実行委員賞	サカナ島胃袋三腸目	アニメ	日本

⑦ その他

（1）助成金事案

・令和 4 年度 芸術文化振興基金助成金 交付要望書 →採択

(2) ndjc:若手作家育成プロジェクト 2022 (文化庁委託事業)

第 24 回京都国際学生映画祭準グランプリ受賞者を推薦する方向で調整していたが、日程等の調整が難しく断念した。

【本祭】

①日程：2023 年 2 月 3 日（金）～2 月 5 日（日） 3 日間

オンライン配信（Vimeo）2 月 10 日（金）～19 日（金）10 日間 迄※購入から 1 週間視聴可能

②会場：京都文化博物館フィルムシアター

③タイムテーブル：

2/3 (金)	開会式 10:30～	プログラム A 10:55～	堀越謙三氏に学 ぶ映画の裏側 13:35 ～	FF3 三学生映画祭 コラボ企画 16:55 ～	レセプション パーティー 19:00～
2/4 (土)	プログラム B 10:30～	最終審査員企画 『ナイアガラ』 13:40～	プログラム C 15:10～	最終審査員企画 『金魚の一生』 17:35～	
2/5 (日)	プログラム D 10:30～	海外過去 入選作品 13:20～	最終審査員 企画 『お父さんのバックドロップ』 14:20～		授賞式 17:00～

④実施企画（シアター）：

入選作品				
プログラム A	The Falling Angels	Other Half	The Seine's Tears	Fatjona
プログラム B	サカナ島胃袋三腸目	The things we hoped last summer	SHELTER	Jitterbug
プログラム C	Identibye	帰る	THE OPPONENT	The Woman with the Dog
プログラム D	ただいま	Where No One Lives	Restless Is the Night	Lunchbox
最終審査員企画				
①早川千絵監督 上映企画	『ナイアガラ』			
②犬童一心監督 上映企画	『金魚の一生』			
③李闘士男監督 上映企画	『お父さんのバックドロップ』			
特別企画①「堀越謙三氏に学ぶ映画の裏側」				
真利子 哲也監督	『イエローキッド』			
ゲスト： 堀越謙三氏	映画プロデューサー、映画製作配給興行会社ユーロスペース代表。 東京藝術大学名誉教授。開志専門職大学 アニメ・マンガ学部教授。			

特別企画② FF3 三学生映画祭コラボ企画	
鈴木 理利子監督	『Episodic memory』（東京学生映画祭 実写短編部門グランプリ受賞作品）
金子 信弦監督	『レスポールが重た過ぎたんだろ』（関西学生映画祭 グランプリ受賞作品）
特別企画③ 海外過去入選作品上映企画	
ニーナ・ガンツ 監督	『EDMOND』 （第19回京都国際学生映画祭アニメーション部門グランプリ受賞作品）
キウ・ヤン監督	『Under the Sun』（第19回京都国際学生映画祭入選作品）
授賞式	1) 入選作品監督入場・紹介 2) 受賞作品発表・表彰／贈呈・講評・受賞者コメント （欠席者はビデオメッセージ） ・実行委員賞 ・最終審査員賞 ・準グランプリ、グランプリ 3) 閉会 休憩後、グランプリ作品上映

⑤実施企画（オンライン配信）

パッケージ1	パッケージ2	パッケージ3
入選作品	入選作品	入選作品（16） + 特別企画（6）
『サカナ島胃袋三腸目』	『Other Half』	
『Restless Is the Night』	『Where No One Lives』	
『The things we hoped last summer』	『Fatjona』	
『Lunchbox』	『Jitterbug』	
『The Falling Angels』	『SHELTER』	
『THE OPPONENT』	『ただいま』	
『The Woman with the Dog』	『The Seine's Tears』	
『帰る』	『Identibye』	
特別企画作品	特別企画作品	
『イエローキッド』	『金魚の一生』	
『Under the Sun』	『EDOMOND』	
『Episodic memory』	『レスポールが重た過ぎたんだろ』	

⑥来場者数、視聴者数

本祭来場者数 244名(第24回-313名)

視聴者数 203回（第24回-366回）

（３）障がい学生支援事業

【事業計画の概要および実績】

<概要>

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（「障害者差別解消法」）が 2016 年 4 月から施行されたことに伴い、各大学は障がい学生支援業務に携わる担当者の能力向上や大学の枠を超えた情報共有や連携の場が求められることとなった。これらのニーズに対応するため、京都を中心とした関西にある大学の障がい支援業務に携わる担当者による「関西障がい学生支援担当者懇談会」を開催し、今後の対応について意見交換を行う。

また、学生へは、聴覚障がい学生の授業における情報保障となるノートテイクについての理解やスキル向上を図るため、ノートテイク養成講座・パソコン（PC）テイク養成講座を開講する。

さらに、障がい学生支援事業企画検討委員会を積極的に活用し、加盟大学のニーズを踏まえた研修会も実施する。

<進捗>

1. 大学における障がい学生支援に関する高校教員との懇談会

日時：2022 年 8 月 18 日（木）14：00～17：00

会場：キャンパスプラザ京都

内容：①話題提供 1：「障害のある学生の大学生活と学び ―身体障害学生の例を中心に―」

（講師：京都大学 学生総合支援機構 HEAP プロジェクトスタッフ・DRC コーディネーター
宮谷 祐史氏）

②話題提供 2：「精神障がい、発達障がいの学生の支援 ～“つながり”の中で支える～」

（講師：京都外国語大学 健康サポートセンター 障がい学生支援室 コーディネーター
梅本 直氏）

③グループ別懇談会

参加者：26 名（加盟校 14 名、非加盟校 2 名、高等学校教員（特別支援学校含む）他 10 名）

2. 第 29 回関西障がい学生支援担当者懇談会（KSSK）

日時：2022 年 9 月 16 日（金）13：00～17：00

会場：キャンパスプラザ京都

内容：①話題提供：『障がい学生支援に関するプラットフォーム事業（PHED・HEAP）の現状』

講師：東京大学 先端科学技術研究センター 教授／PHED 近藤 武夫 氏

企画コーディネーター：京都大学 学生総合支援機構 准教授／HEAP 村田 淳 氏

②分科会 A：障がい学生支援の体制整備を考える

―教職員連携の必要性和コンセンサス構築の課題―

分科会 B：障がいのある受験希望者への対応

―入学試験の合理的配慮やオープンキャンパス等の支援―

分科会 C：障がい学生の合理的配慮と対応

分科会 D：個別ニーズに合わせた新たな支援の枠組み作りについて

分科会 E：合理的配慮の基礎 ―対面での支援、オンラインでの支援―

参加者：53名（加盟校28名、非加盟校25名）

3. 2022年度 ノート・パソコン（PC）タイカー養成講座

タイカー養成のために一実体験をもとに背景や意義を考えるー

日時：2022年9月20日（火）14：00～17：00

会場：Zoomによる配信型講座

内容：①話題提供：『聴覚障がい学生への情報保障 ～同志社大学を事例に～』

話者：同志社大学学生 大田 竜聖氏、新谷 凌平氏、大和田 宗氏

コメンテーター：同志社大学 学生支援センター スチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室 チーフコーディネーター 土橋 恵美子 氏

②講演会：『情報保障の方法と目的にあわせた支援 ～つながろう 支援の輪づくり～』

講師：話題提供者・コメンテーターと同じ

参加者：41名（加盟校10名、非加盟校31名）

4. テーマ別研修会

「障がいのある受験生・合格者への対応について」

～入試・教務・支援部門等の役割と連携について考える～

日時：2022年11月17日（木）13：30～15：00

会場：Zoomによる配信型研修会

内容：話題提供

講師・ナビゲーター：京都大学 学生総合支援機構 准教授／HEAP 村田 淳 氏

話題提供者：同志社大学氏 入学センター 入学課・課長 小川 照一 氏

京都大学 教育推進・学生支援部 入試企画課・課長 大西 伸広 氏

参加者：59名（加盟校18名、非加盟校40名、その他1名）

5. 第30回関西障がい学生支援担当者懇談会（KSSK）

日時：2023年3月10日（金）13：00～17：00

会場：キャンパスプラザ京都

内容：①話題提供：『RADD（発達障害学生支援プロジェクト／筑波大学）の取り組みについて』

講師：筑波大学 人間系 准教授／PADD 佐々木 銀河 氏

企画コーディネーター：京都大学 学生総合支援機構 准教授／HEAP 村田 淳 氏

②分科会 A：発達障がいのある学生の支援

分科会 B：精神障がいのある学生の修学支援

分科会 C：支援体制・システムのマネジメント

分科会 D：コーディネート基礎編 ー合理的配慮の考え方ー

分科会 E：コーディネート応用編 ー合理的配慮の妥当性と根拠ー

参加者：59名（加盟校28名、非加盟校31名）

【実施スケジュール（主要事項）】

5月27日（金）	障がい学生支援事業企画検討委員会（第1回）
6月23日（木）	関西障がい学生支援担当者懇談会幹事会（第1回）
8月18日（木）	大学における障がい学生支援に関する懇談会
9月16日（木）	第29回関西障がい学生支援担当者懇談会（KSSK）
9月20日（火）	2022年度 ノート・パソコン（PC）タイカー養成講座 タイカー養成のために一実体験をもとに背景や意義を考える～
10月25日（火）	関西障がい学生支援担当者懇談会幹事会（第2回）
11月17日（木）	テーマ別研修会「障がいのある受験生・合格者への対応について」 ～入試・教務・支援部門等の役割と連携について考える～
12月15日（木）	障がい学生支援事業企画検討委員会（第2回）
3月10日（金）	第30回関西障がい学生支援担当者懇談会（KSSK）

各種委員会等の開催について

（1）京都学生祭典事業

① 京都学生祭典組織委員会

第1回 3月29日（金）

主要議題：第19回決算報告、第20回事業方針、事業企画、当初予算ほか

第2回 9月14日（水）

主要議題：第20回実施方針、補正予算ほか

第3回 12月2日（金）

主要議題：第20回実施・状況報告、第21回実行委員会発足ほか

2023年第1回 3月24日（金）

主要議題：第20回決算報告、第21回事業方針、事業企画、当初予算ほか

② 京都学生祭典企画検討委員会

第1回 1月21日（金）

主要議題：委員長・副委員長選出、第20回テーマ・当初予算・各部署実施計画ほか

第2回 3月15日（火）

主要議題：第19回決算、第20回当初予算・監査人選ほか

第3回 6月3日（金）

主要議題：第20回本祭実施方針、事業進捗報告ほか

第4回 7月15日（金）

主要議題：第20回本祭実施方針、事業進捗報告ほか

第5回 9月7日（水）

主要議題：第20回本祭実施方針、補正予算ほか

第6回 11月8日（火）

主要議題：第20回実施・状況報告、決算見込み、第21回実行委員会発足、監査人選ほか

第1回 2023年1月31日（火）

主要議題：委員長・副委員長選出、第21回テーマ・当初予算・各部署実施計画ほか

第2回 2023年3月14日（火）

主要議題：事業企画書案、広報方針、営業方針、当初予算ほか

③ 京都学生祭典事務局会議

第1回 2月17日（木）

主要議題：第19回事業報告（正式）、第20回当初予算、各部署実施計画ほか

第2回 4月14日（木）

主要議題：第20回本祭企画、第20回プレイベント、各部署実施計画ほか

第3回 6月16日（木）

主要議題：第20回本祭開催方針、広報・営業方針、企画概要ほか

第4回 8月17日（水）

主要議題：第20回本祭開催方針、補正予算ほか

第5回 10月20日（木）

主要議題：第20回実施・状況報告、決算見込み、第21回実行委員会発足ほか

第6回 12月14日（水）

主要議題：第21回テーマ・当初予算・各部署実施計画ほか

第1回 2023年2月16日（木）

主要議題：第19回事業報告（正式）、第20回当初予算、各部署実施計画ほか

（2）京都国際学生映画祭事業

① 京都国際学生映画祭企画検討委員会

第1回 7月21日（木）

主要議題：企画検討委員長選出、本祭会場、コンペ応募状況、一次審査状況、企画案提出ほか

第2回 10月27日（木）

主要課題：開催形態の検討、二次審査状況、最終審査員報告、企画案提出ほか

第3回 2023年1月25日（水）

主要課題：開催形態の検討、入選作品報告、本祭プログラム枠、広報協力依頼ほか

第4回 2023年3月15日（水）

主要課題：第25回開催報告、第26回実行委員会発足、第26回コンペ募集ほか

（3）障がい学生支援事業

① 障がい学生支援事業企画検討委員会

第1回 5月27日（金）

主要議題：委員長選出、2022年度障がい学生支援事業

第2回 12月15日（木）

主要議題：2023年度障がい学生支援事業、KSSK開催、2022年度事業実施報告

② 関西障がい学生支援担当者懇談会（KSSK）幹事会

第1回 6月23日（木）

主要議題：第29回 KSSK の開催について

第2回 10月25日（火）

主要議題：第30回 KSSK の開催について

以上

(1) 事業の概況

【事業計画の概要および実績】

<概要>

「第5ステージプラン」では、大きな柱の一つとして「オール京都での国際交流推進」を掲げ、大学コンソーシアム京都が取り組む国際連携事業について

- ① 留学生誘致・支援事業
 - ② 学生の海外留学・交流促進事業
 - ③ 教職員のグローバル化支援事業
- を主な推進施策としている。

① 留学生誘致・支援事業

2015年度から、大学コンソーシアム京都が事務局となり、加盟大学、日本語学校・専修学校等の教育機関、企業、関係業界団体、関係公的機関など産官学のオール京都による留学生誘致・支援組織「留学生スタディ京都ネットワーク」を設立し、留学生の受入体制の強化、留学生と留学生同士・日本人学生等との交流促進を図ってきた。第5ステージプランにおいては、「留学先としての京都」の認知度・ブランド力の更なる向上に向け、観光と連携した「学びのまち」の情報発信など、より効率的・効果的な留学生誘致プロモーション活動等に取り組んでいくこととしている。

また、京都で学ぶ留学生に対する交流・日本語学習・就職等の支援として、留学生と地域活動団体等との交流や留学生支援・交流コミュニティ「KyoTomorrowAcademy（京トゥモローアカデミー）」をプラットフォームとした日本語学習支援（スタディグループ等）、企業見学ツアー、他の団体との連携による就職支援、日本人学生と留学生の交流などに取り組むとともに、留学生対象のインターンシッププログラムの実施や、留学生向け就職支援情報ポータルサイト、留学生のための住宅情報発信サイトの運営などを行っている。

② 学生の海外留学・交流促進事業

単位互換を利用した豪州メルボルン（龍谷大学主催）への海外派遣プログラムを引き続き行うとともに、IELTS、TOEFLをはじめとする語学習得支援や「英語で京都をプレゼンテーション」研修を実施し、加盟校学生の留学促進や将来の京都において国際人として活動する意識の活性化を目指し、取り組みを進めている。

また、加盟校において学生向け海外語学研修が行われている一方で、財団に留学プログラムの開発や広報を期待する意見もあることから、例えば、1～2週間程度の期間で安価、安全かつ質の高い英語学習環境を提供できる、近場の東南アジアなどをフィールドとした安近短（安全・近場・短期）のプログラム開発等に向けた検討を行っている。

③ 教職員のグローバル化支援事業

スキルアップ研修や、教職員向け「IELTS pretesting」など、加盟校教職員のスキルアップを支援していくものである。

また、加盟校における教職員の研修方法や留学生対応、海外大学との交流実績等の各校取組事例を共有することを通じた加盟校の国際化に向けた取組支援について、タイムリーかつニーズの高いテーマを設定し、茶話会やセミナー形式で引き続き実施してきた。

(2) 留学生誘致・支援事業（留学生スタディ京都ネットワーク事業）

【事業計画の概要および実績】

<留学生スタディ京都ネットワーク>

2015 年度から京都地域における留学生（外国人研究者を含む。以下同じ）の誘致、受入体制の整備や、留学生の知識・経験を地域の国際化や活性化に活かすための仕組みづくりをオール京都で推進し、「大学のまち・学生のまち」としての京都の魅力向上を図るため、加盟大学、日本語学校・専修学校等の教育機関、企業、関係業界団体、関係公的機関等による「留学生スタディ京都ネットワーク」を運営し、事業を実施している。

2023 年 3 月末時点で 96 機関に参画いただいている。

【取組の概要】

1 「留学先・学びのまち」としての認知度の向上（情報発信）

- 京都留学総合ポータルサイトの運営
- 留学生PRチームの運営
- 海外教育旅行向け支援メニューの提供
- 「留学先としての京都」のブランド力測定手法等の検討

2 各大学・日本語学校の誘致活動等の支援

- 国内外での京都進学説明会等の開催
- 京都留学ガイド「STUDY KYOTO」の活用
- 会員向けセミナー・交流会の開催

3 留学生受入環境の整備

- 留学生向けインターンシップの実施【有給・無給ハイブリッド型として実施】
- 留学生のための住宅情報サイトの運営
- 留学生向け就職支援事業の連携促進
- 留学生支援・交流コミュニティの運営

1 「留学先・学びのまち」としての認知度の向上（情報発信）

(1) 京都留学総合ポータルサイト「STUDYKYOTO」の運営

7言語（英・簡・繁・韓・タイ・ベトナム・日）により、京都の学校情報、生活情報、就職情報等、京都留学に関する情報を留学検討層と在京留学生向けに発信するもの。

在校生インタビューや留学生・OBOGインタビュー、Magazine 記事の追加等コンテンツの充実を図りつつ、ユーザーコミュニケーションツール「TETORI」を活用し、サイト来訪者をより関心の高いコンテンツへと、より効率的・効果的に誘導するとともに、サイトへの集客力・留学見込層の獲得強化のための Magazine 広告記事試行掲載や記事回遊性を高めるインターフェースを検討するなど、ユーザー満足度の向上を図った。

2022 年度においては、ポータルサイトの持続可能な運営に資するよう、Magazine 記事に対して広告収入を得る仕組みの構築装に向け検証を進めていく。加えて、海外向け誘致活動のターゲットとしてアプローチしているインドネシアへの PR のためのコンテンツのインドネシア語ページ追加を図る。

アクセス数：160,174 セッション（2022 年度）	※2021 年度 136,443 セッション
------------------------------	------------------------

(2) 留学生 PR チームの運営

京都で学ぶ現役留学生による PR チームが、各国における日本留学関連の情報収集、京都の留学情報の現地向け発信をソーシャルメディア等により行うもの。

7 か国（地域）〔中国、韓国、台湾、タイ、インドネシア、ベトナム、米国〕、9 名体制で Facebook（英語、タイ語、中国語繁体字）、共通の Instagram、YouTube を、また、中国への PR 強化のため、中国版 SNS の Weibo と WeChat、動画投稿サイト Bilibili で発信を行っており、順調にファン数を伸ばしている。

〔Study Kyoto Facebook〕

英語（20,211 ファン）、Thailand（5,524 ファン）、京都留学情報（2,537 ファン）

〔Study Kyoto Weibo〕 1,270 フォロワー 〔Study Kyoto WeChat〕 2,436 フォロワー

〔Study Kyoto YouTube〕 1,190 フォロワー 〔Study Kyoto Bilibili〕 254 フォロワー

〔Study Kyoto Instagram〕 1,794 フォロワー

※2023.3 末現在

(3) 教育旅行支援

日本を修学旅行（教育旅行）先として 訪れる海外の高校生・大学生ツアーグループ、教職員グループに対し、京都滞在ツアーの一部（1 日・半日）について、京都留学情報の提供や京都の大学・日本語学校・専修学校等を交えた説明会、京都の大学等からの模擬講義、学生交流等のコンテンツをコーディネートする教育旅行支援を実施するもの。

2021 年度については新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、海外からの来訪がなく、事業を見送った。2022 年度においては、新型コロナウイルス感染拡大の状況や関係者のニーズを踏まえ、開催については柔軟に対応していくこととしていたが、最終的にはそういった要望はなかった。

(4) 「留学先としての京都」のブランド力測定手法等の検討

留学生にとっての京都留学の魅力やプロモーション活動の成果等について継続的に測定するため、「留学生満足度調査」を2023年度に実施する予定である。今年度については学識者を交えたワーキンググループを3回開催し、実施の方向性や設問項目等についての検討を行った。

2 各大学・日本語学校の誘致活動等の支援

(1) 京都留学説明会等

NW加盟校の留学生誘致活動等の支援として、海外で京都に特化した京都留学説明会を開催し、京都の留学先としての知名度向上を目指すとともに、留学生の誘致促進を図るもの。

2021年度についても、新型コロナウイルス感染拡大の影響で引き続き国際的な人の往来の状況が見通せないため、現地での誘致活動はできなかったが、日本留学オンラインフェアへの出展など、オンライン出展が可能なものに対しては積極的に参加した。

2022年度については、新型コロナウイルスの影響を踏まえ、オンラインでのプロモーションを基本としつつ、状況が許す範囲で、現地での活動、ツアーの実施等についても検討する。

インドネシア	日本留学フェア[主催：Jeducation] 8月7日（日） 京都留学説明会（オンライン） 8月21日（日） 個別相談会（オンライン）
韓国	日本留学フェア [主催：ライセンスアカデミー] 7月18日（土） 京都留学説明会（オンライン）
5地域合同 （中国、香港、マカオ、 台湾、マレーシア）	日本留学フェア [主催：日本留学支援協会] 11月12日（土） 日本大学展（資料参加） 2月18日（土） 2023年度 日本留学宣伝フェア（オンライン）
中国	日本留学フェア [主催：株式会社 GES] 7月5日（火） 京都留学説明会（オンライン）
タイ	日本留学フェア[主催：Jeducation] 2月11日（土）～12日（日） 京都留学説明会（対面） 全体来訪者 1,679人、ブース来訪者 104名 13日（月）～14日（火） 関係機関等訪問 Jcenter(日本語学校)、チュラロンコン大学、 JASSO バンコク事務所、国際交流基金バンコク日本文化センター、京都大学 ASEAN 拠点
英国	Experience Japan Exhibition (英国) [主催：慶応義塾大学ほか] 11月19日（土） 京都留学説明会（オンライン）
ベトナム	日本留学フェア [主催：ライセンスアカデミー] 9月18日（日） ハノイ 京都留学説明会（対面→オンライン） ※ 当初は現地でのブース出展を検討したが、新型コロナウイルス感染拡大（第7波）の状況を踏まえ、オンライン出展とした。
JASSO	JASSO 主催日本留学オンラインフェア 8月28日（日） 京都留学説明会（オンライン）

※ 「学生の海外留学・交流促進事業」における「(5) 京都韓国教育院との連携」及び「(6) 欧州留学フェア開催への協力」参照

(2) 首都圏をはじめとした日本語学校への京都留学説明会等

国内における留学生誘致をより戦略的に進めていくため、首都圏の日本語学校で学ぶ留学生や教職員を主な対象に、京都の大学等への進学を促進することを目的とした「京都の大学等進学説明会」や「京都の大学と日本語学校の教職員交流会」などを実施するもの。

2021年度も前年に引き続き、対面での事業の見通しが立てにくかったことから、オンラインに切り替えて実施してきた。2022年度については、新型コロナウイルス感染拡大に伴う状況変化に柔軟に対応しつつ、次の方針で取組を進めている。

- ・ 軸足は首都圏（東京）に残しつつ、他地域（福岡など）へのアプローチを展開
- ・ 京都進学に関して、教職員向けの合同説明会を5月に、留学生向けの合同説明会を7月に開催
- ・ 教職員向けオンライン交流会については、合同説明会の直後（5月）に開催時期を変更
- ・ 学生向け学び体験ツアーについては、オンラインでの開催を軸に、実施内容を検討

5月19日 5月20日	教職員向け京都進学オンライン合同説明会 京都側の大学・短大・専修学校等が日本語学校の教職員・進路担当者等に対して学校情報のPR等を実施 ＜実績＞大学・短大・専修学校参加校 14校 日本語学校参加校 31校、43名（教職員）
5月26日 5月27日	教職員向け京都進学オンライン交流会 京都側の大学・短大・専修学校等と日本語学校の教職員・進路担当者等との個別相談・情報交換を開催（1セッション当たり10分×24セッション） ＜実績＞大学・短大・専修学校参加校 23校 日本語学校参加校 12校、17名（教職員）
7月22日	日本語学校への個別説明会（首都圏） 早稲田文化館日本語科 ＜実績＞大学参加校 5校 留学生参加者数 150名（留学生）
7月27日	留学生向け合同説明会（文系・理系学部進学希望者対象） ＜実績＞大学・短大・専修学校参加校 10校 日本語学校参加校 14校、38名（留学生）
7月28日	留学生向け合同説明会（文系・理系大学院進学希望者対象） ＜実績＞大学・短大・専修学校参加校 6校 日本語学校参加校 10校、22名（留学生）
7月29日	留学生向け合同説明会（芸術系・短大・専門学校進学希望者対象） ＜実績＞大学・短大・専修学校参加校 10校 日本語学校参加校 9校、14名（留学生）

(3) 京都留学生フォトコンテスト

従来から、留学生目線での京都留学の魅力を映像化した作品を募集し、国内で学ぶ留学生や海外の学生に向けたコンテンツとして活用することで、京都への留学生誘致につなげる京都留学生ムービーコンテスト（動画コンテスト）を開催してきた（開催年次：2017、2018、2020、2021年度）。2022年度は静止画を対象としたフォトコンテストとして実施した。

審査員による審査に加え、一般部門や留学生PRチームによる審査も行った。

10月19日	応募受付開始
11月17日	応募締切（応募 186 件）
12月1日	一般投票開始
12月23日	留学生 PR チームによる審査
1月6日	一般投票締切
1月13日	審査員による審査
1月25日	受賞作品を HP 上で公表
2月22・28日	授賞式

<審査員>

氏名	役職
中山 博喜（審査委員長）	京都芸術大学芸術教養センター 教授
金澤 徹	成安造形大学 芸術学部 芸術学科 教授（副学長）
佐藤 守弘	同志社大学 文学部 教授

<受賞作品>

最優秀賞	「Go ahead with a text book of mine. Under the Kyoto's brightest sky」 Duangkamon Kamonsakpitak（京都民際日本語学校）
優 秀 賞 （3 作品）	「避難所」ZHENG YUEHAO（京都精華大学） 「初めての、初めての、初詣」金 佳賢（同志社大学） 「京都に触る」ZHU MENGSHAN（京都大学）

上記の他、審査員特別賞 3 作品、留学生 PR チーム賞 3 作品、一般投票賞 3 作品



<最優秀賞>



<優秀賞 3 作品>

(4) 留学生スタディ京都ネットワーク会員向けセミナー

先進事例等の把握や会員間の交流促進のため、有識者等を招いたセミナー・交流会等を実施。

5月13日	2022年度留学生スタディ京都ネットワーク総会※オンライン 〔希望団体からの情報提供を併せて実施〕
7月13日	外国人留学生の在留審査手続の申請取次に係る研修会 大阪出入国在留管理局 京都出張所 統括審査官 中村 修治氏 ＜実績＞ 受講者数 99名
2月2日	行政・企業・学校をはじめとしたウクライナ・キウウ学生等への受入支援～実際に避難してこられた方の声を交えて～ (京都市・ウクライナからの避難民・支援団体による発表・座談会等) ＜実績＞ 受講者数 36名

3 留学生の受入環境整備・コンテンツの強化

(※) 印は「留学生支援・交流コミュニティ(KyoTomorrow Academy)事業」関連事業

学生生活・就職活動の体験や情報を共有する仲間を増やすための留学生支援・交流コミュニティ「KyoTomorrow Academy(京トゥモローアカデミー)」を活かして、「日本語学習支援」(日本語スタディグループや日本語学習プログラムの運営)、「就職支援」(地元企業を知る企業見学ツアー(Company Visit)や他団体との連携による就職支援)、「交流支援」(留学生同士、留学生と日本人学生、留学生と地域活動団体等との交流機会の創出)を実施。

(1) 留学生向けインターンシップ【有給・無給ハイブリッド型として実施】

京都地域の大学等で学ぶ留学生に、京都地域の企業の事業内容を理解する機会を提供するとともに、留学生と企業との相互理解を深め、卒業後の京都における採用促進や就職後の定着を図るため、有給及び無給によるインターンシッププログラムを提供するもの。

5月18、20、21日	オンラインガイダンス 参加者数 35名
6月18日	企業との交流会【オンライン】参加企業数18社、参加者数45名
8月上旬	マッチング決定
8月9日	事前研修①
8月10日	事前研修②
8月15日 ～9月末	インターンシップ就業 ＜実績＞ 有給型 受入企業6社、インターン参加者8名 無給型 受入企業9社、インターン参加者13名
10月29日	インターン事後研修
11月12日	インターン成果報告会

(2) 企業訪問プログラム Company Visit (＊)

京都企業について学ぶ機会の少ない留学生に訪問の機会を提供することにより、京都企業の理解と留学生の京都での就職・定着の促進を図るもの。

1月18日	COYOTE 10名参加 (1) 事業紹介 (カフェ起業、サプライチェーン説明) (2) 業務紹介 (コーヒーの産地、消費国、仕事の魅力など) (3) ワークショップ
2月15日	京セラ株式会社 15名参加 (1) 会社概要紹介 (2) セラファインセラミック館・稲盛ライブラリー見学 (3) 質疑応答

(3) 就業支援事業連携促進

京都で学ぶ留学生がスムーズに就職活動を行えるよう、就業支援事業を行う団体が連携を図り事業を実施しており、その一環として、京都の大学等の就職支援担当者を対象に、留学生向け就業支援事業の紹介を行う「留学生対象就業支援事業説明会」を開催。

4月21日	大学・学校向け留学生対象就業支援事業説明会 (オンライン)
9月28日	第1回 就業支援担当者連絡会議 (オンライン)
3月14日	第2回 就業支援担当者連絡会議 (オンライン)

(4) 合同就職説明会 (＊)

他の団体と連携した留学生や企業向け交流会・合同説明会を実施するもの。2022年度においては、対面式(2021年度はオンライン)で11月25日(金)に府・市・京都高度技術研究所・府国際センターによる主催の下、「留学生と京都外国人留学生と企業の交流会」を実施。

(5) 留学生の交流・連携促進 (＊)

留学生支援・交流コミュニティ「KyoTomorrow Academy(京トゥモローアカデミー)」を活かした、学生生活や就職活動等における留学生同士、留学生と日本人学生、留学生と地域活動団体等との交流を促進。

[KTA コミュニティ活動等] (KTA サポートチーム等による体験・情報発信)

4月10日	ポット苗づくりワークショップ (大宮交通公園)
4月17日	二条城桜まつり
4月23日	英語で「能」体験(English Noh Lesson)
5月2日	令和4年度宇治新茶「茶摘みの集い」
6月4日	伏見桃山さんぽ (月桂冠大蔵記念館 史料館見学、十石舟、大手筋商店街など)
10月1日	秋学期オリエンテーション (KITICO (京都工芸繊維大学 国際交流団体) コラボ企画)
10月8日	貴船ウォーク
11月27日	白川陶器破片採集&アクセサリー作り体験 (地域貢献プログラム)
12月16日	京都タワーいけばな

12月17日	ウクライナ支援チャリティコンサート
1月15日	京セラ美術館妄想鑑賞レッスン
1月22日	インドサリーでストール作り
2月11日	お気に入りのマンガを紹介し合おう 京都国際マンガミュージアム（主催：京都市国際交流協会）

※その他、KTA サポートチーム定例ミーティングを開催（月1～2回）

〔留学生と地域の交流・連携促進〕

留学生と留学生の交流を希望する市民活動団体等との交流会を開催し、マッチングの機会を創出するとともに、留学生交流事業担当者会議をベースに、担当者間の情報共有や留学生交流に関する情報の効果的な発信手法の検討など事業連携を促進するもの。

12月10日	～しいたけとお茶の里山の暮らし～ 〔京都の最南端 唯一の村で食文化に触れる～農村地域の人たちとの交流の集い～〕 協力：京都府（山城地域振興局・南山城村）、お茶の京都 DMO 参加者：24名（留学生）
--------	--

(6) 日本語で話そう！（Chat in Japanese）（日本語スタディグループ）（※）

日本人学生サポーターを中心に留学生向けに日本語を使ったアクティビティを実施。

6月11日	日本語で話そう！①（22名参加）※オンライン
6月23日	日本語で話そう！②（19名参加）※オンライン
7月14日	日本語で話そう！③（17名参加）※オンライン
7月30日	日本語で話そう！④（18名参加）※お出かけ（京都水族館、三条商店街）
8月20日	日本語で話そう！⑤（25名参加）※対面（京友禅体験）
8月27日	日本語で話そう！⑥（24名参加）※対面（フラワーアレンジメント体験）
11月17日	日本語で話そう！⑦（28名参加）※対面（しおり作り）
11月26日	日本語で話そう！⑧（16名参加）※オンライン
12月8日	日本語で話そう！⑨（17名参加）※オンライン
12月24日	日本語で話そう！⑩（13名参加）※オンライン
1月14日	日本語で話そう！⑪（23名参加）※対面
1月26日	日本語で話そう！⑫（16名参加）※対面

※その他、日本人学生サポーターによる定例ミーティングを開催（月1～2回）。

(7) 日本語学習支援プログラム（※）

留学生の日本語運用力の更なる向上を目指し、何らかの知識・経験が得られる機会と併せて日本語学習ができるセミナーを企画・開催（全3回シリーズ）（定員・受講者数：16名）。

6月25日	キャリア形成のための日本語講座① 「オリエンテーション、自己紹介の基礎について学ぶ」 〔講師：京都光華女子大学キャリア形成学科 教授 上田 修三 氏〕
-------	---

7月2日	キャリア形成のための日本語講座② 「日本の企業文化を模擬体験①＋グループワーク＋先輩留学生の体験談」 〔講師：京都光華女子大学キャリア形成学科 教授 上田 修三 氏〕 〔ゲストスピーカー：月桂冠株式会社 貿易部 金 亦衛氏〕
7月9日	キャリア形成のための日本語講座③ 「日本の企業文化を模擬体験②＋グループワーク＋先輩留学生の体験談」 〔講師：京都光華女子大学キャリア形成学科 教授 上田 修三 氏〕 〔ゲストスピーカー：月桂冠株式会社 貿易部 金 亦衛氏〕 〔ゲストスピーカー：京セラ株式会社 人事部 プラット カトリーナ氏〕

(3) 学生の海外留学・交流促進事業

【事業計画の概要および実績】

(1) オーストラリア（メルボルン）語学研修プログラム留学 ※単位互換〔龍谷大学国際学部主催〕

加盟校学生に様々なレベルでの留学機会を提供できるよう、大学コンソーシアム京都とビクトリア大学連携組織との協定に基づくオーストラリアビクトリア州メルボルンでの留学派遣プログラムを実施。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、2020年度は事業実施を見送り、2021年度はオンライン留学として実施したものであるが、2022年度は、3年ぶりに現地渡航によるプログラム実施した。

4月1日	説明会プレゼンテーション（18名参加） ※オンライン
4月5日	説明会プレゼンテーション（動画配信：龍谷大学ポータルサイト）
5月20日	前期分申込者とりまとめ（31名※）
7月	龍谷大学において現地渡航によるプログラム実施とする方針となった。
8月24日・31日	受講申込者によるオンライン顔合わせ
9月	後期受講者募集（今年度は定員超過のため募集なし）
10～1月	現地渡航に向けたオリエンテーション開催 第1回：10月5日（水） 第2回：11月9日（水） 第3回：12月7日（水） 第4回：1月25日（水）
1月20日	外務省職員によるオンラインセミナー【新規】
2月11日 ～3月12日	現地渡航・語学研修プログラム実施（2/13-3/10の4週間） 留学先：ビクトリア大学、ディーキン大学、オーストラリアカソリック大学の付属英語学校
3月28日	研修参加者によるふりかえり【新規】

※ 一部の学生が辞退したため、最終的には24名が参加（龍大18名・他大学6名）

(2) 英語で京都をプレゼンテーション

海外留学を目指す学生や英語で日本・京都の魅力を発信することに興味がある学生を対象に、日本文化や京都の奥深い魅力を英語で知り理解する機会を提供し、京都や日本の魅力について英語でプレゼンテーションできる能力の向上を図る研修事業を実施（対面開催）。

5月28日	①icebreak、日本概論、京都概論、伝統文化講義
6月4日	②伝統文化茶道体験
6月11日	③伝統文化華道体験
6月18日	④日本庭園見学〔名勝無鄰菴〕
7月2日	⑤日本・京都の衣食住・名所・行事講義、留学生ディスカッション
7月9日	⑥個人プレゼンテーション

※ 修了者のうち希望者には、京都市から「京都 PR 学生大使」に任命されることとしている。今年度は8月5日（金）に「京都 PR 学生大使」任命式が開催され、9名の受講者のうち、8名が大使に任命された。

(3) 学生向け英語試験対策講座

日本人学生の海外留学促進に向けた IELTS や TOEFL など英語試験対策講座を実施。

8月4日	IELTS スキルアップセミナー（サンプルテスト及び解説） ※ 今年は教職員向けと合同実施とした。
10月15日	TOEFL iBT テストスキルアップセミナー

(4) 安近短（安心・安価、近場、短期）な語学留学プログラムの開発

加盟校学生に様々なレベルでの留学機会を提供できるよう従前から取り組んでいる「オーストラリアメルボルンにおける海外語学研修」に加え、中長期にわたる本格的な海外留学につながるきっかけづくりを促進するため、留学初心者でも参加しやすい安近短な留学プログラムを新たに開発することを目指し、事例調査などの情報収集を継続的に進めてきている。

(5) 京都韓国教育院との連携

京都韓国教育院は、韓国と外務省が協議の上に設立した駐大阪大韓民国総領館の附属機関である。今年度になり、留学生スタディ京都ネットワーク留学生誘致プロモーションワーキンググループの庵廬座長（立命館大学文学部教授）からの紹介があり、日本人における韓国への留学促進及び韓国から日本への留学促進の両方向の進展を見据え、会議やイベントへの出席を通じて、今後取組に向けた情報収集及びパイプ作りを進めてきている。

5月12日～14日	韓国留学博覧会 in 日本（京都）
7月23日	日韓高等教育交流プラットフォームセミナー
10月8日～9日	日韓国大学生文化フォーラム

(6) 欧州留学フェア開催への協力

欧州留学フェアとは、駐日EU代表部が、ヨーロッパの高等教育の魅力をより深く、日本の学生の皆さんに理解していただくとともに、海外留学の促進に役立てていただくため、2012年以降、毎年「欧州留学フェア」開催している。

この度、2016年以來、キャンパスプラザ京都を会場として同フェアを開催するとともに、大学コンソーシアム京都に対して共催の申出があった。当財団としても、「学生の海外留学・交流促進事業」に

寄与するとともに、欧州における日本人学生の留学に関する交流や情報収集が期待できるものとして、協力し、開催することとした。

＜日 時＞2022 年 11 月 20 日（日） 12:00～18:00
 ＜場 所＞キャンパスプラザ京都 2 階ホール及び第 2・第 3 会議室
 ＜内 容＞対面（ブース出展）及びオンラインを併用し、EU 加盟国の大使館や公的機関が、ヨーロッパへの留学、研究、奨学金、生活などに関して情報を提供
 ＜主な参加機関＞アンスティチュ・フランセ日本、スロヴァキア大使館、チェコ国立国際教育研究庁、駐リトアニア大使館、駐日スウェーデン大使館、ドイツ学術交流会、JASSO, 文部科学省
 ＜参加者数＞192 名（新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から 4 つの時間帯に分散）

（４）教職員のグローバル化支援事業

【事業計画の概要および実績】

（１）教職員スキルアップ研修

高等教育の国際化が加速するなか、大学教員・職員の英語運用能力に加え、多様な文化的背景を持つ留学生と円滑な意思疎通を図るための、語学を超えた習慣や社会通念、宗教等への理解も欠かせないものとなっていることから、実務能力の底上げとスキルアップに対する意欲向上を図るため、様々な場面を想定したケーススタディができる英語運用能力向上研修や英語圏以外の文化を学ぶ研修を実施。

7 月 23 日	「Meeting & Discussion」【語学】 〔講師：マルコ・ロボ氏（株式会社アイベック）〕
7 月 30 日	「Everyday Communication」【語学】 〔講師：マーク・オーウェン・コスロウスキ氏（株式会社アイベック）〕
8 月 6 日	「Email 研修」【語学】 〔講師：マーク・オーウェン・コスロウスキ氏（株式会社アイベック）〕
8 月 27 日	「中国文化理解研修」【文化】 〔講師：毛 興華氏（株式会社アイベック）〕
9 月 3 日	「東アジア諸国を中心としたイスラム文化研修」【文化】 〔講師：ハンガルド・フリヤヒタ氏（株式会社アイベック）〕
9 月 7・14 日	「アクティブラーニング演習：英語を使って科目を教授する方法について」 〔講師：西川美香子氏（長崎大学多文化社会学部准教授）〕
9 月 7・14 日	「ビジネス英語リテラシー：大学における異文化理解と英語によるコミュニケーション」 〔講師：西川美香子氏（長崎大学多文化社会学部准教授）〕

※ 今年度の実施予定は英語研修 5 回＋多文化理解研修 2 回

※ すべてオンライン開催（当初は第 2 回・第 3 回が対面の予定だったが新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し開催方式を変更）

(2) 教職員向け IELTS Pretesting 体験会

学生からの問い合わせへの対応力を高めるため、教職員向けの IELTS Pretesting も実施。

8 月 4 日	IELTS 体験イベント（サンプルテスト及び解説）【再掲】 ※ 今年度は学生向けと合同実施
---------	--

(3) 加盟校の国際化に向けた取組事例共有セミナー

教職員の国際化支援の一環として、大学における様々な国際化の取組に係る事例共有セミナーを実施。2021年度においては3月3日に立命館大学におけるオンライン留学の事例を共有した。2022年度については留学生スタディ京都ネットワークで実施する会員向けセミナーと一体の取組として実施。

国際事業部 各種委員会等の開催について

(1) 国際連携事業

① 国際連携事業運営委員会

2022 年 12 月 9 日 第一回会議

2023 年 3 月 14 日 第二回会議

(2) 留学生スタディ京都ネットワーク事業

① 留学生スタディ京都ネットワーク運営委員会

2023 年 1 月 31 日 第一回会議

2023 年 3 月 15 日 第二回会議

② 留学生誘致プロモーションワーキンググループ

2022 年 10 月 4 日 第一回会議 ②③の合同ワーキングとして

2022 年 12 月 21 日 第二回会議 ②③の合同ワーキングとして

2023 年 3 月 8 日 第三回会議 ②③の合同ワーキングとして

③ 留学生満足度向上ワーキンググループ

2022 年 10 月 4 日 第一回会議 ②③の合同ワーキングとして

2022 年 12 月 21 日 第二回会議 ②③の合同ワーキングとして

2023 年 3 月 8 日 第三回会議 ②③の合同ワーキングとして

(1) 調査企画事業

【事業計画の概要および実績】

第5ステージ（2019-2023年）の4年目にあたる2022年度は引き続き、事業の効果検証と効率的な事業運営を図りながら、プランに掲げた数値目標等の達成を目指した取組を推進した。

広報事業においては、加盟校のプロモーションに資する取組として、京都学生広報部の活動の定着化とより一層の活性化を図る。専用サイト「コトカレ」における京都のPR記事の配信を積極的に行い、活動の指標となるコトカレPV数（閲覧件数）の年間100万PVの達成に向けて取り組んだ。また、学生広報部員と中高生・企業等とのタイアップ事業の実施など、情報波及力を高める事業にも積極的に取り組むとともに、京都の大学生のための公式アプリ「KYO-DENT」の配信をとおして、学生同士のつながりや学びの深化に向けた取組も進めた。

都市政策事業、地域連携事業については、事業開始から15年以上が経過し、一定、加盟校への事業の浸透と取組の定着化がみられている。第5ステージでは、これまでの取組実績やノウハウをより一層広めるため、2019年4月に開設した、大学・地域連携ポータルサイト「がくまちステーション」などを活用し、取組の活性化と裾野の拡大に取り組んでいる。

1 財団指定調査課題

調査事業企画検討委員会において、各年度の指定調査課題の進行管理やテーマ設定等の検討を行い、第5ステージプランに掲げた施策を推進した。

(1) 2022年度調査課題（2件）

ア 多様性の包摂に向けた合理的配慮の取組事例調査と大学間連携組織の可能性

（担当：学生支援事業部）

【研究代表者】京都大学学生総合支援機構障害学生支援部門（DRC）准教授 村田 淳

イ 京都地域における効果的な地域連携活動

（担当：調査・広報事業部）

【研究代表者】京都橘大学経営学部経営学科助教 大田 雅之

(2) 調査研究費について

1件あたり150万円（上限額）

(3) スケジュール

ア 2022年度調査課題

2022年4月

調査研究開始

2022年9月6日

第1回調査事業企画検討委員会

2022年11月1日

第2回調査事業企画検討委員会・中間報告会

2023年3月16日

第3回調査事業企画検討委員会・研究報告会

2023年4月11日

調査研究成果報告書提出

イ 2023年度調査課題

次期中期計画（2024-2028 年度）を策定するにあたり、財団全事業を見渡し、各事業が抱える課題の確認や効果（成果）の検証、また、それらを踏まえた 2024 年度以降の財団事業の方向性を示す端境期であるため、課題の設定を見送った。

2 「共通指標」に基づく財団基礎データの収集

2016 年度から全事業（協働事業を除く）で「共通指標」に基づく量的、質的データの収集を開始。2016 年度から 2021 年度の 6 年間のデータを集約して財団ホームページで公開した。

年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
提供事業数	44	38	40	40	44	47

3 中期計画の策定と運用

(1) 第 6 ステージプラン（計画期間：2024-2028 年度）（仮称）

財団では、5 年ごとに財団の目指すべき方向性や事業のあり方についてまとめた「ステージプラン」を策定し、事業運営の指針としている。現行の「第 5 ステージプラン（2019-2023 年度）」は 2017 年度に設置した大学政策委員会において事業方針等を取りまとめ、2019 年 1 月開催の理事会に答申、同年 3 月に策定した。2019 年度からは年に一度、一般向けの事業進捗報告会を開催。

2022 年度は、大学政策委員会や同幹事会等を開催し、第 5 ステージプランの総括を実施するとともに、「第 6 ステージプラン（2024-2028 年度）」（仮称）の骨子を固めた。

第 5 ステージプランの概要

計画期間	2019-2023 年度（5 年間）
ビジョン	だれもが学び、つながる京都へ ～地域とともに個性と特色を活かした多様な学びの展開～
施策の柱と 主な新規事業	柱 1 大学間連携による学びの提供と充実 柱 2 大学教職員の能力開発と交流機会の充実 柱 3 大学の枠を超えた学生間の交流・活動支援 柱 4 オール京都での国際交流推進 柱 5 大学・学生・地域社会との連携による京都地域の発展と活性化 柱 6 高等教育の環境変化に対応する組織運営

ア スケジュール（2022 年度）

4 月 27 日～5 月 31 日	加盟校アンケートの実施
7 月 13 日	第 1 回大学政策委員会
7 月 28 日～9 月 2 日	加盟校ヒアリングの実施
9 月 6 日	第 1 回プロジェクトチーム会議
9 月 14 日	第 1 回大学政策委員会幹事会
10 月 12 日	第 2 回大学政策委員会
11 月 9 日	第 2 回大学政策委員会幹事会
11 月 17 日	第 2 回プロジェクトチーム会議
1 月 18 日	第 3 回大学政策委員会幹事会

2月8日	第3回大学政策委員会
3月2日	第3回プロジェクトチーム会議
3月8日	第4回大学政策委員会

(2) 「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」について

京都市の大学政策の指針となる、「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」を京都市と財団が協働し策定している。2017年度から、大学のまち京都・学生のまち京都推進会議（通称：推進会議）において、2019年度から2023年度までの推進計画の具体的な検討を行い、2019年3月に策定した。当財団の次期中期計画とも密接に連携しながら取組を推進した。

2022年11月11日 第1回「大学のまち京都・学生のまち京都」推進会議

2023年3月17日 第2回「大学のまち京都・学生のまち京都」推進会議

4 京都B&Sプログラム

京都観光推進協議会（事務局：京都市観光MICE推進室）、JTB京都支店との協働事業で、2014年度から実施。京都に来る修学旅行生（中高生）を対象に、学生ボランティア（有償）がガイド役となって京都を案内する。その過程で、市内の大学構内へ立ち寄り、将来の進学意欲の喚起や大学生との触れ合いを通じ「大学のまち京都」の魅力を発信する。学生ボランティアの確保に課題があり、財団のインカレ団体や広報媒体を通じた、情報発信などにより、登録者の確保に協力している。

【受入実績】

2016年度：23校（3,064名）

2017年度：30校（3,399名）

2018年度：29校（3,848名）

2019年度：21校（2,166名）

2020年度：1校（51名）

2021年度：7校（843名）※オンライン実施を含む

2022年度：17校（2,197名）

（2）広報事業

【事業計画の概要及び実績】

第5ステージでは、情報収集・発信機能の強化を掲げ、加盟校に有益な情報について組織的に対応し、情報の収集・発信を行う。広報事業として、京都学生広報部の活動充実などに取り組み、専用サイト「コトカレ」の年間100万PV達成を目指している。

①財団ウェブサイトとSNS等による財団事業の発信機能強化

②京都学生広報部の専用ウェブサイト「コトカレ」の充実と情報発信力の強化

③学生広報部と中高生、企業とのタイアップ事業の展開

1 財団ウェブサイト・SNS の運用

財団ウェブサイトのアクセス実績の解析・状況分析を実施し、アクセス数の増加、情報発信力の強化を図った。SNS については facebook と Twitter を運用。

2 会報等の発行

(1) 財団 Information (財団紹介パンフレット)

毎年 6 月に更新。2021 年度は中刷り（加盟組織・沿革）のみ更新（2021 年 9 月）

2022 年度は冊子本体と中刷りを更新。2022 年 7 月 20 日発行済。

(2) 会報誌

年 1 回発行（2023 年 3 月発行済）

3 京都学生広報部

「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力を京都の大学生たちが全国の中高生に発信することを目指して 2015 年 9 月に創部。同年 10 月に専用ウェブサイト「コトカレ」を開設した。

京都市及び運営支援を委託するクリエイター育成協会、株式会社タグラインと協働で学生部員への支援を行っている。具体的には将来大学生となる中高生にとって魅力あるコンテンツを制作することで中高生の読者の増加を目指し、また、中高生との交流事業等に取り組んでいる。全国から多くの修学旅行生が訪れる利点を活かし、京都 B&S プログラムとの連動企画など、幅広い広報展開によってステークホルダーや京都地域全体の PR につなげる。

(1) 概要

ア 開設年度：2015 年 9 月 ※京都市との協働事業

イ 部員数：102 名（16 大学：2023 年 3 月 31 日現在）

大学・短期大学名	部員数	大学・短期大学名	部員数	大学・短期大学名	部員数
京都大学	7	平安女学院大学	2	京都精華大学	1
京都橘大学	3	京都光華女子大学	1	京都薬科大学	1
京都産業大学	10	同志社大学	32	龍谷大学	5
京都女子大学	18	同志社女子大学	3	佛教大学	2
花園大学	1	立命館大学	14	京都外国語大学	1
京都府立大学大学院	1				

ウ 公開記事数及びページビュー数（閲覧数）

年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
公開記事数	105 件	66 件	131 件	165 件	133 件	161 件	106 件	55 件
PV 数	75,210	159,969	423,579	678,031	660,468	619,236	647,315	687,548

エ 月間ページビュー数（閲覧数）

年度	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
2017	16,696	18,224	22,178	17,490	13,658	53,725	35,403	55,754	47,776	39,014	43,177	60,484
2018	66,110	56,409	45,710	43,608	48,846	69,302	53,783	84,633	44,971	42,332	51,277	65,080
2019	47,510	52,300	48,498	48,059	45,628	50,955	47,228	73,084	43,663	55,911	62,493	85,139

2020	53,884	52,477	44,239	40,479	51,268	47,639	44,291	40,946	40,594	48,898	52,475	102,046
2021	118,150	52,017	45,373	44,542	37,016	46,494	43,666	40,246	39,468	46,234	51,240	82,869
2022	92,460	49,712	52,268	50,568	47,489	51,845	52,179	48,116	47,769	54,848	61,172	79,122

(2) 主な事業

ア 研修事業

広報部員のスキルアップを目的とした研修を実施。

①研修会 1 京都学生広報部 OB による写真講座

講師：阿部拓海氏（京都学生広報部 OB）

日時：2022 年 6 月 16 日（木）

参加人数：18 名

②研修会 2 地域 Web メディアの取材手法とライターの魅力に迫る

講師：若林佐恵里氏（フリーライター）

日時：2022 年 9 月 27 日（火）19：00～21：00

参加人数：8 名

③研修会 3 開局 90 年を迎えた NHK 京都放送局から公共メディアの“リアル”を学ぶ

講師：NHK 京都放送局 職員

日時：2022 年 9 月 1 日（木）18：20～21：00

参加人数：25 名

④研修会 4 京都学生広報部のミッションと 2022 度の取組について

講師：京都市 総合企画局総合政策室大学政策担当 係長 東 祐大氏

日時：2022 年 12 月 22 日（木）19：00～21：00

参加人数：26 名

イ 中高生・企業等との協働事業

① 吉本興業とのコラボ企画

主に大学生をターゲットとし、よしもと祇園花月を舞台にイベントを開催。企画段階から学生が参画する。

2020 年度から 2021 年度までの 2 年間は、新型コロナウイルス感染症予防を意識しオンラインでの取材を中心に祇園エリアの魅力を発信するための記事や、フリーペーパーを作成した。完成したフリーペーパーは 2022 年度コトカレに公開した。

② 京都学生広報部コトカレ高校生プロジェクト

「コトカレ」のターゲットである高校生を対象とした、取材体験イベント。

大学生である部員と交流することで、京都の大学への進学意欲上昇と、「コトカレ」の高校生読者を増やすことを目的とする。9 月 1 日から 9 月 30 日まで市立高校を対象とした募集を行い、2022 年 10 月 22 日（土）、11 月 19 日（土）に実施。

- ・参加高校生：2 名。
- ・取材日：10 月 22 日に京都大学奇術研究会に取材。
- ・成果報告会：11 月 19 日に学生 Place+にて実施。

ウ 部員募集等

新型コロナウイルス感染症の影響により、SNS やオンラインによる募集を実施。2022 年 4 月 14 日には Instagram のライブ機能を活用した説明会を開催し、9 名が視聴。4 月 17 日には Zoom で

の説明会を開催し、8名が参加。さらに、4月23日には京都学生祭典実行委員会主催の「春の合同新歓」にブース出展し3名の新入生と直接交流する機会を持った。

4 「大学のまち京都 学生のまち京都」公式アプリ「KYO-DENT」の開発

京都市との協働事業。京都でしか味わえない学生生活を実現するための様々な取組や、学生向けの各種情報を学生に直接かつ確実に届けるとともに、学生のニーズなどを把握し、学生を対象とする取組の改善や新たな事業創設の基盤につなげるためのアプリを2020年3月から配信開始。

(1) 趣旨・目的

- ① 京都でしか味わえない学生生活の実現
- ② 京都の魅力を感じた学生の就職を含めた地域への定着
- ③ 京都での学生生活のブランド化による新たな学生の獲得

(2) 主な機能

① お得情報

学割等の学生向けサービスを展開している店舗や施設の情報をマップ上やカテゴリ別に配信。

② イベントカレンダー

京都ならではの学生向けイベント情報をカレンダー形式で配信。

③ ニュース

京都市、大学コンソーシアム京都、地域企業などが発信する、学びの充実につながる学生向けニュースを配信。

④ ポイント

記事の閲覧などのアプリの利用で、お好みの電子マネー（計120種類以上）に交換できるポイントを発行。

⑤ 京めばえ機能

アプリの利用に応じてポイントを獲得できる機能。

(3) 推進体制

京都市と財団が事務局を務め、京都経営者協会、(公財)京都高度技術研究所、京都学生広報部、京都学生祭典実行委員会で構成される「京都ならではの学び・魅力向上」協議会が事業の企画・運営、予算管理等を行う。なお、アプリの機能やデザイン等は、同協議会の下に設置した学生プロジェクトチームにおいて検討された。

2022年7月7日 2022年度第1回協議会を開催

(4) ダウンロード数の推移 (2020.3.26～)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2019												367
2020	349	576	489	435	831	1,103	1,386	1,331	679	504	826	1,351
2021	2,255	489	1,157	781	655	407	1,113	1,083	608	464	662	1,502
2022	2,775	1,667	1,034	606	600	835	951	951	477	486	605	869

累計ダウンロード数：33,259件 (2023年3月31日時点)

(3) 都市政策研究推進事業

【事業計画の概要および実績】

1 京都から発信する政策研究交流大会

加盟校の学生が、日頃の研究や学習成果の発表の場として互いに交流を深め、都市政策に活かすことを目的に 2005 年度から開催。

大会は、加盟校の政策系学部の教員で構成する「都市政策研究推進委員会」が中心となり、企画・審査を実施するほか、学生実行委員会の活動への助言等を行っている。

(1) 第 18 回大会について

ア 日時 2022 年 12 月 18 日（日）10 時～17 時

イ 会場 国立京都国際会館

ウ 応募実績 エントリー125 組、応募者 108 組、発表者 63 組

エ 研究奨励賞受賞者一覧

賞名	部門	発表題目	区分	団体名	所属大学名
大学コンソーシアム京都理事長賞	口頭・論文	世代別・世代混成会議による民意創出 - 若い世代の市民参加促進に向けて -	団体	同志社大学政策学部 野田ゼミ C 班	同志社大学
日本公共政策学会賞	論文	同上	同上	同上	同上
優秀賞	口頭発表	京都から広める日傘レンタルサービス - 京都に調和し、暑さに対応する日傘の普及提案 -	団体	同志社大学経済学部 奥田ゼミ	同志社大学
		就労継続支援 B 型事業所におけるディーセント・ワークの現状と課題 - 工業と福祉の融合による可能性 -	団体	深尾ゼミナール工福 連携プロジェクト	龍谷大学
		京都市民のプライドを誘発する路上駐車対策	団体	同志社大学政策学部 野田ゼミ A 班	同志社大学
		地域に対する推し活を促す要因の考察 - 地域の弱みは推しなのか -	団体	龍谷大学政策学部 政策学科中森ゼミナール 3 回生	龍谷大学
		京都丹後鉄道の持続可能性を高めるリーダーシップ - 三陸鉄道を参考とした地域と鉄道との関係性の構築 -	団体	福知山公立大学 2 年杉岡ゼミ	福知山公立大学
		住民参加による「雨庭」普及策について - 「アメニワークプロジェクト」の導入 -	団体	風間ゼミナール 雨庭班	同志社大学
		地図型 NFT マーケットプレイス「京まっぷ」の提案 - アーティストの人材育成による文化振興の促進 -	団体	同志社大学風間ゼミ ナールチーム D	同志社大学
		京都駅におけるソフト面からのバリアフリー - 障がい者視点からの動画埋め込み型マップ Guide for You & I の提案 -	団体	同志社大学政策学部 野田ゼミ B 班	同志社大学
		公衆浴場で構築するソーシャルキャピタル - 「銭湯コミュニティ」の創造 -	団体	同志社大学 風間ゼミナール	同志社大学

(2) 実施スケジュール

(2022 年)

4 月 22 日	第 1 回都市政策研究推進委員会
6 月 10 日	第 1 回大会検討チーム会議
6 月 17 日	エントリー開始
7 月 1 日	応募者向け説明会（説明動画の公開）
8 月 5 日	エントリー締切
9 月 9 日	第 2 回都市政策研究推進委員会
10 月 27 日	論文提出締切
11 月 11 日	第 2 回大会検討チーム会議
11 月 25 日	発表者向け説明会
12 月 9 日	第 3 回都市政策研究推進委員会
12 月 18 日	第 18 回京都から発信する政策研究交流大会

(2023 年)

2 月 24 日	第 4 回都市政策研究推進委員会
3 月 24 日	政策提言懇談会（奨励賞受賞者による発表、行政機関との意見交換）

(3) 学生実行委員会

加盟校の学生で構成。大会広報チラシ・ポスターの作成、SNS による PR 活動、大会当日の学生企画の企画、運営及び大会の運営補助を担当。

< 学生企画 >

テーマ：「正解することが、目的じゃない」

目 的：・参加者学生同士の交流

・今後の研究等、参加者の今後に活かすことができるものとする

内 容：所属大学が異なる様々な学生が集まる貴重な機会を活かし、学生企画では分科会発表後に気軽に参加できるクイズ企画を通して学生同士の交流と意見交換を行う。研究発表と異なり気軽に参加できるものの、大会の趣旨や発表内容に沿ったクイズを行い、それぞれが京都について考え、そして交流することで今後の学生生活や研究に活かすことが出来るものとする。

< 2022 年度 学生実行委員（10 名） >

大学・短期大学名	人数	大学・短期大学名	人数
京都大学	1	京都先端科学大学	5
京都女子大学	2	龍谷大学	2

(4) 大学別発表件数

大学名	第 13 回 (2017)		第 14 回 (2018)		第 15 回 (2019)		第 16 回 (2020)	第 17 回 (2021)	第 18 回 (2022)
	口頭	パネル	口頭	パネル	口頭	パネル	口頭	口頭	口頭
京都大学	2 (1)	0	(1)	0	(1)	0	0	0	0
京都府立大学	3	1	3(1)	1	8(1)	1	2	4	4

大学名	第13回 (2017)		第14回 (2018)		第15回 (2019)		第16回 (2020)	第17回 (2021)	第18回 (2022)
	口頭	パネル	口頭	パネル	口頭	パネル	口頭	口頭	口頭
福知山公立大学	1	0	1	2	2	5	10	6	7
京都産業大学	13	3	7	1	13	3	15	19	14
京都女子大学	1	0	0	0	0	0	1	1	1
京都先端科学大学	0	0	0	0	0	0	0	4	2
京都橘大学	2	1	3	0	3	0	1	4	2
京都文教大学	2	0	1	0	1	0	1	2	1
同志社大学	6	4	10	5	12	2	12	11	13
佛教大学	9	3	8	2	9	3	3	4	3
立命館大学	8 (1)	3	12 (2)	5	8	2	1	0	1
龍谷大学	9	1	9	1	11	0	10	17	15
計	56 (2)	16 (0)	55 (4)	17	68 (2)	16	56	72	63

※（ ）内は大学院生の数

(5) 来場者数の推移

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回
238	149	632	420	524	545	410	317	362
第10回	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回
377	451	423	352	392	507	433	607	446

※発表者、一般聴講者（学生実行委員、職員、審査員は除く。）の合計

(4) 地域連携事業

【事業計画の概要および実績】

京都のまちの発展、活性化を目指し、加盟校が有する知と人材、学生の活力を生かした地域との連携事業を京都市と連携して実施している。

1 大学地域連携創造・支援事業（愛称：学まちコラボ事業）

大学の求める人材育成に資する実践的教育・研究機会の確保と地域ニーズに基づき、大学の知や学生の活力を生かした地域課題の解決や地域活性化を目的とし、大学と地域との連携による取組に対して助成金を交付し、学生の学びと成長を支援している。

2021年度以降、2017年度から設けていた「文化枠」の募集は行わず、「一般枠」のみの募集としている。2022年度は13事業への補助を行った。

(1) 2022年度のスケジュール

4月1日～5月20日	募集期間
6月9日	一次（書類）審査（書面開催）
6月19日	二次（プレゼンテーション）審査（オンライン）
7月12日	認定式・取組スタート
11月10日	第3回企画・選考委員会
令和5年2月28日	企画・選考委員会（臨時開催）
3月19日	成果報告会・交流会

(2) 2022 年度の応募実績

申請件数：18 事業

採択団体：13 事業（条件付き採択：2 事業※）

※同一のゼミから 2 事業の申請があり、審議のうえ 2 事業を 1 事業として採択。

また、1 事業は支援金を減額して採択。

2 大学×地域連携ポータルサイト「がくまちステーション GAKUMACHI STATION」

財団ではこれまで、大学・学生・地域と連携した活動を支援し、学生の学びと成長、地域の活性化を図ることを目的に、サークルや学生グループによるまちづくり活動を支援する「学まちコラボ事業」や、大学を挙げた地域連携の取組を支援する「学まち連携大学」促進事業の実施のほか、都市にかかわる課題について学生が調査・研究した成果を政策提案する「京都から発信する政策研究交流大会」の開催、加盟校における地域連携の取組紹介ページ「まちづくり事例集」の作成など、多様な地域連携事業に取り組んできた。2019 年 4 月には、こうした地域連携にかかわる幅広い情報やノウハウを網羅したポータルサイトとして「がくまちステーション」を開設（まちづくり事例集は本サイトに再編）し、大学・学生と地域との連携活動の活性化を図るべく運用している。

(1) 掲載内容

ア 学まちコラボ事業

2018 年度の活動実績を中心に 2017 年度以前の報告集を掲載。

2019 年度から SDGs アイコンによる検索機能を追加。

イ 「学まち連携大学」促進事業

- ・2016～2019 年度の採択校の取組を紹介（大谷大学、京都教育大学、京都女子大学、京都橘大学、同志社女子大学、龍谷大学）
- ・2020 年度からの採択校の取組を紹介（京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部、花園大学、京都橘大学、龍谷大学・龍谷大学短期大学部）
- ・採択校による事例紹介などによる、大学・地域連携シンポジウムの紹介

ウ 京都から発信する政策研究交流大会

優秀賞受賞者の発表論文及び発表データ、推進委員（教員）へのインタビュー記事を掲載。

エ 加盟校における地域連携活動の取組

上記ア～ウの取組以外の加盟校独自の大学・学生・地域連携の活動を紹介。

(2) スペシャルコンテンツ

地域連携活動やまちづくりの分野などのトップランナーのインタビュー記事などを随時更新。

(3) 検索機能

京都府下の市町村、大学名、取組分野のキーワードで取組が検索可能。

2019 年度から SDGs アイコンによる検索機能を追加。

3 「学まち連携大学」促進事業

地域社会との関わりの中で得られる学生の学びと成長の機会を創出する取組を、大学の組織的な取組として定着させることを目的に、2016 年度から地域と連携した実践的な教育プログラムの開発・実施に取り組む大学に補助金を交付し、取組を支援してきた。

2020 年度からは全学的に地域連携に取り組む大学の裾野の一層の拡大を図るため、新たに対象となる取組を増やして募集を行ない、新たに 4 大学を採択し、4 箇年にわたる支援を実施している。

2022 年度は 9 月 29 日に中間評価会を実施し、11 月 30 日に講評を HP で公開。

(1) 採択大学及び採択事業（2020～2023 年度）

スタートアップ型

大学名	申請事業名
京都光華女子大学・ 京都光華女子短期大学部	京で学び・京で働き・京に暮らす ～地域連携型プログラムの展開～
花園大学	利他の精神に基づいた地域連携教育プログラムの推進事業

発展型

大学名	申請事業名
京都橘大学	山科・醍醐地域で「変化を楽しむ」地域連携型教育プログラム
龍谷大学・ 龍谷大学短期大学部	伏見をフィールドにした地域連携型教育プログラムの展開 - まちぐるみキャンパス（学び合いのコミュニティ）の深化 -

（参考）2016 年度学まち連携大学促進事業採択大学

大谷大学、京都教育大学、京都女子大学、京都橘大学、同志社女子大学、龍谷大学

(2) 支援スキーム

	スタートアップ型	発展型
対象大学	加盟大学のうち、2016 年度学まち連携大学促進事業及び COC、COC+に採択された大学（参加大学を除く）以外の大学・短期大学	加盟大学のうち、2016 年度学まち連携大学促進事業の採択大学等、全学的に地域連携を促進している大学・短期大学
支援金	1 年目：200 万円、2 年目：160 万円、 3 年目：120 万円、4 年目：100 万円 （4 年間最大 580 万円）	1 年目：300 万円、2 年目：240 万円、 3 年目：190 万円、4 年目：150 万円 （4 年間最大 880 万円）

4 大学・地域連携シンポジウム

学まちコラボ事業や各区のまちづくり支援事業を含めた大学・地域連携事例を広く発信するとともに、大学・地域連携活動に関わる学生や大学関係者、地域団体等が交流する機会を創出するため、「大学・地域連携サミット」を京都市と協働で 2016 年度から開催している。2021 年度は「シンポジウム」に改め。

2022 年度は募集要項に基づき中間評価会を開催するためシンポジウムの実施はなし。代わりに学まちコラボ事業の取組内容等を「がくまちステーション」で公開し、広く周知を行った。

各種委員会等の開催について

(1) 調査企画事業

① 調査事業企画検討委員会

9月6日	第1回調査事業企画検討委員会
11月1日	第2回調査事業企画検討委員会・中間報告会
3月16日	第3回調査事業企画検討委員会・研究報告会

② 「大学のまち京都・学生のまち京都」推進会議

11月11日	第1回「大学のまち京都・学生のまち京都」推進会議
3月17日	第2回「大学のまち京都・学生のまち京都」推進会議

(2) 都市政策研究推進事業

① 都市政策研究推進委員会

4月22日	第1回委員会
6月10日	第1回大会検討チーム会議
9月9日	第2回委員会
11月11日	第2回大会検討チーム会議
12月9日	第3回委員会
12月18日	第18回京都から発信する政策研究交流大会
2月24日	第4回委員会

(3) 地域連携事業

① 学まちコラボ事業（大学地域連携創造・支援事業）企画・選考委員会

6月9日	2022年度採択事業一次審査（※書面開催）
6月19日	2022年度採択事業二次審査
7月12日	認定式
11月10日	企画・選考委員会
3月19日	成果報告会

② 「学まち連携大学」促進事業

9月29日	中間評価会
-------	-------

(4) 広報事業

① 「京都ならではの学び・魅力向上」協議会

7月7日	2022年度第1回協議会
------	--------------

総務部 事業報告

(1) 総務業務（法人運営・庶務）

【事業計画の概要および実績】

<概要>

◆法人運営

(1) 機関会議

法人の意思決定を行うため、評議員会、理事会、運営委員会を開催する。また、会員団体への事業報告等の場として会員総会を開催する。（日程、主な議題等については「各種委員会等の開催について」参照）

(2) 大学のまち・京都 サマーミーティング

大学コンソーシアム京都の事業推進や京都市の大学政策の参考とすること、京都の大学と京都市の一層の連携を図ることを目的とし、8月に加盟大学学長と京都市長との懇談会を開催する。

8月20日（土） サマーミーティング 開催形態：Zoom
10:00～12:25

内閣府定期立入検査

2022年11月30日（水）、内閣府による定期立入検査が実施された。書面による指摘はなし。

(2) 財務・経理業務

【事業計画の概要および実績】

<概要>

本業務は、財団の予算執行管理及び財産の運用などを担当する。安定的に事業を運営するため、事業の選択と集中を推進し、経費節減、特定財産の計画的な活用等、効率的な財政運営を図る。

<実績>

5月31日（火）	2021年度決算監査
6月25日（土）	2021年度事業報告・決算承認
6月30日（木）	2021年度事業報告・決算書を内閣府に提出
9月21日（水）	予算説明会
11月9日（水）	2023年度事業計画・予算基本方針承認
1月21日（土）	2022年度補正予算承認
3月11日（土）	2023年度事業計画書・当初予算承認

(3) 研修業務

【事業計画の概要および実績】

<概要>

財団職員の能力向上のために研修企画を策定し、実施する。本年度は総務部が主体となり、以下の日程で研修を実施する。また、次期ステージプラン策定に向けて、高等教育行政などに理解を深める研修を実施するなど、研修メニューの充実を図る。

<実績>

4月1日(金)	新入職員オリエンテーション
4月20日(水)	ハラスメント防止規程に基づく業務の説明会(ハラスメント相談員、及び役職者対象)
5月18日(水)	事業部業務説明会(教育事業部、教育開発事業部、国際事業部)
6月15日(水)	事業部業務説明会(学生支援事業部、調査・広報事業部、総務部)
8月24日(水)～ 26日(金)	SPOD(四国地区大学教職員能力開発ネットワーク)フォーラム2022 (オンライン開催)
9月3日(土)～ 4日(日)	大学行政管理学会・研究集会(成蹊大学、Zoom併用)
9月21日(水)	ハラスメント研修
9月21日(水)	大学政策のトピックをテーマとした研修 テーマ:大学の質保証システムの見直しを踏まえた設置基準等の改正について ～改正の背景と大学改革に対する期待～
10月24日(月)午前	総合消防訓練 参加者:56名(大学コンソーシアム京都職員43名、委託業者、テナント等スタッフ13名)
3月15日(水)	出向満了者等業務成果報告会

(4) 全国大学コンソーシアム協議会事業

【事業計画の概要および実績】

<概要>

本事業では、全国の大学コンソーシアム組織(大学連合体・大学連携組織)からなる協議会組織「全国大学コンソーシアム協議会」の事務局として、運営委員会・総会の開催、協議会予算の執行管理等を行う。情報交換・交流の場として「全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」を開催する。

○第19回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム

日 時:2022年10月15日(土)・16日(日)

会 場:東京都立多摩産業交流センター(東京たま未来メッセ)

テーマ:(全体テーマ)高等教育の充実と地域社会の発展を目指して

～大学コンソーシアムが持つ無限の可能性を模索する～

<実績>

- 4月27日(木) 2021年度 監査報告(監事)
- 5月28日(土) フォーラム会場現地地下見(八王子)
- 5月28日(土) 第1回 運営委員会(主要議題:決算等) ※Web会議
- 6月15日(水) 第1回 幹事会(主要議題:決算、退会) ※書面会議
- 8月31日(水) 総会(主要議題:決算等) ※Web会議
- 10月15日(土) 第2回 運営委員会(主要議題:第20回フォーラムについて)
- 10月16日(日) 総会
- 3月4日(土) 第3回 運営委員会(主要議題:第20回、第21回 フォーラムについて)

(5) 勤労学生援助会・表彰奨学金事業

【事業計画の概要および実績】

<概要>

本事業では、「勤労学生援助会」の事務局として、理事会等の開催・予算の執行管理等を行う。「勤労学生援助会」では、人物・学業とも他の学生の模範となる学生で、学費や生活費をアルバイト及び奨学金等に頼り、家庭からの援助が皆無に近い学生や、京都地域の社会活動で著しく貢献した学生を表彰し、奨学金を給付する。

- 7月13日(水) 通常総会・理事会 ※書面会議
- 8月25日(木) 表彰学生推薦依頼
- 12月14日(水) 第2回 理事会
- 2月1日(水) 表彰学生選考委員会
- 第3回理事会(主要議題:第2回理事会継続審議事項の確認他)
- 3月1日(水) 勤労学生表彰・奨学金贈呈式

(6) 施設管理事業(指定管理)

【事業計画の概要および実績】

<概要>

施設管理事業は、京都市から指定管理者として2019年度から2022年度までの4年間の再指定を受け、キャンパスプラザ京都の管理運営を行っている。引き続き、施設運営に必要な委託業者(受付、警備、清掃、各種インフラ管理等)と連携を図りながら適切な施設管理を行う。

<実績>

保守点検日

- 4月11日(月)、4月25日(月)、5月9日(月)、5月23日(月)、6月6日(月)、
- 6月20日(月)、7月11日(月)、7月25日(月)、8月1日(月)、8月22日(月)、
- 9月12日(月)、9月26日(月)、10月3日(月)、10月17日(月)、11月7日(月)、
- 11月28日(月)、12月12日(月)、12月19日(月)、1月16日(月)、1月23日(月)、

2月6日（月）、2月13日（月）、2月20日（月）

3月6日（月）、3月20日（月）、3月27日（月） 計26日

【特記事項】

【指定管理について】

2023～2026年度の次期指定管理期間について、当財団が引き続き指定管理者に選定された。

【大学院等共同サテライトについて】

大学院等共同サテライトの入居者募集を行った結果、明治国際医療大学が継続して入居することとなった。

【第1講義室の使用停止について】

映像音響システム制御機器の故障に伴い、2023年4月1日（土）から当面の間、第1講義室は使用を停止することとなった。

総務部 各種委員会等の開催について

■開催報告■

（1）総務業務（法人運営）

① 評議員会

- | | |
|----------|-------------------------------------|
| 6月25日（土） | 第1回（主要議題：評議員の辞任・選任について）※書面会議 |
| 6月25日（土） | 第2回（主要議題：2021（令和3）年度事業報告及び決算について 他） |
| 7月31日（土） | 第3回（主要議題：理事の辞任・選任について）※書面会議 |
| 3月11日（土） | 第4回（主要議題：2023（令和5）年度事業計画及び予算について 他） |

② 理事会

- | | |
|-----------|---|
| 6月2日（木） | 第1回（主要議題：2021（令和3）年度事業報告及び決算について 他）※書面会議 |
| 6月25日（土） | 第2回（主要議題：理事長職務執行報告 他） |
| 7月22日（金） | 第3回（主要議題：第3回評議員会の開催について）※書面会議 |
| 9月30日（金） | 第4回（主要議題：運営委員の選任について）※書面会議 |
| 11月26日（土） | 議題がないため開催見送り |
| 1月21日（土） | 第5回（主要議題：2022（令和4）年度 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 補正予算について 他） |
| 3月11日（土） | 第6回（主要議題：2023（令和5）年度 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 事業計画及び予算について 他） |

③ 会員総会

7月21日(木) 報告事項1 2021(令和3)年度 公益財団法人 大学コンソーシアム京都
※書面 事業報告及び決算について

④ 運営委員会

4月13日(水) 第1回(主要議題:運営委員長の選出 他)
5月18日(水) 第2回(主要議題:2021(令和3)年度事業報告及び決算について 他)
6月8日(水) 第3回(主要議題:第20回京都学生祭典における大学分担金について 他)
7月13日(水) 第4回(主要議題:第5ステージプラン中間評価の実施について 他)
9月14日(水) 第5回(主要議題:2022年度TOEFLiBTテストスキルアップセミナーの共催申請について 他)
10月12日(水) 第6回(主要議題:第5ステージプラン中間評価について 他)
11月9日(水) 第7回(主要議題:2023年度事業計画策定及び予算編成の基本方針について 他)
12月14日(水) 第8回(主要議題:第5回理事会の開催について 他)
1月18日(水) 第9回(主要議題:2022(令和4)年度 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 補正予算について 他)
2月8日(水) 第10回(主要議題:大学コンソーシアム京都次期中期計画の策定に係る加盟校アンケートについて 他)
3月8日(水) 第11回(主要議題:2023(令和5)年度 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 事業計画・予算について 他)

(2) 財務・経理業務

専門委員会等なし

(3) 研修業務

専門委員会等なし

(4) 全国大学コンソーシアム協議会事業

① 全国大学コンソーシアム協議会 運営委員会

5月28日(土) 第1回運営委員会(主要議題:決算等)
10月15日(土) 協議会総会(主要議題:決算・予算等)
10月16日(日) 第2回 運営委員会(主要議題:第20回 フォーラム進捗)
3月4日(土) 第3回 運営委員会(主要議題:第20回、第21回 フォーラムについて)

② 全国大学コンソーシアム協議会 幹事会

6月15日(水) 第1回(主要議題:決算等)※書面会議

(5) 勤労学生援助会・表彰奨学金事業

① 勤労学生援助会理事会・選考委員会

- 7月22日(金) 第1回 理事会・総会(主要議題:事業・決算報告 他)※書面会議
- 12月14日(水) 第2回 理事会
- 2月1日 表彰学生選考委員会
- 第3回 理事会(主要議題:第2回理事会継続審議事項の確認他)
- 3月1日 勤労学生表彰・奨学金贈呈式